

特234  
154



始



女子服の作り方  
大和屋

154

時234  
154



きつ紙型

# 方り作の服供子人婦

著子恒トッレトンガ



臺河發京東

行發社友之婦主

## はしがき

洋服を着ることの可否は、日本に於て、最早家庭的問題ではなく、それをどうして、もつと輕便に、經濟的に着用することができるかといふことが、一般の問題となつてをるのであります。

洋服裁縫に就きましたは、この道の専門家の方々によつて、立派な教科書が作られ、或は實験家によつて、簡単な洋服裁縫案内とても申すべし、便利な書物も數多發表されてをります。

併し、私が婦人子供の洋服を、家庭に於て作りました三十餘年の經驗と、そして、それを他人に教へてまゐりました實験から考へてみますに、周到な割出し法、製圖法から始めて、すべて細密に説いてある教科書は、職業的にこれを習得しようとする人々には、確に有益であります。が、併し、素人の場合には、骨を折つたゞけ、それを應用する機會も少く、また、それを習得するまでには、可なりの練習と時日を要するものであります。そののみならず、教師なしては解し難い點も多く、それは實用として意味をなさぬ場合も尠くないのであります。

更にまた、案内書様のもものは、ま、簡に過ぎて、呑み込みにくい缺點を持つてをります。

併し、それは兎に角といたしまして、製圖の仕方も割出し方も會得したとはいへ、經驗と見る目が足りなければ、好い原型は作り出せず、従つて、形の良い洋服を作ることは困難となります。

この度、これ等の缺陷を補ふ一助として續りました、この書には、永年一流の裁縫師として、充分に經驗を積んだ専門家の手によつて作られた原型が附してあり、また、それを應用して、思ふやうな形の服を作り得るやうに、型紙の作り方、用布の裁ち方、縫ひ方などを、極く平易な、簡単な説明と圖解とを以て示してあります。

若しこの書が、少しなりと、家庭で洋服を作られる方々の指導となり、奨励ともなりますならば、私の無上の仕合せと存じます。

この書物をするに當りまして、多大の御援助を頂きました山形八十八氏と小川その子先生に、衷心より厚くお禮を申し上げます。

昭和三年十二月五日

著者

目次

(一) 洋服を作るに必要な心得……………一  
    (1) 必要な用具……………一  
    (2) 心得べき条件……………一  
    (3) 形を選ぶ時の注意……………五  
(二) 着方に就て必要な心得……………六  
    (1) 周囲との関係……………六  
    (2) 合服は必要か……………七  
    (3) 着る時の注意……………七  
(三) 手入に就て必要な心得……………八  
    (1) 汚班を拭き取ること……………八  
    (2) アラッシをかけること……………八  
    (3) 綻びと鉤裂きの繕ひ……………八  
    (4) 繕ひ方……………九  
(一) 原型より型紙の作り方……………三  
(二) 裁ち方及び縫代縫込み……………三  
(三) 型紙の伸縮法……………四  
    (1) 型紙の縮め方……………四  
    (2) 型紙の伸し方……………五  
    (3) 縫ひ方……………六  
    (4) 縫標の仕方……………六  
    (5) 縫ひ目……………六  
    (6) プラケットの作り方……………七  
    (7) ボケットとボタンホールの作り方……………九  
    (8) 裾の折込み方と衿のつけ方……………九  
(四) 下着類の仕立方……………三  
    (1) コンビネーション……………三  
    (2) ウェイストとズローアス……………三  
    (3) シェミーズの作り方(一)……………六  
    (4) シェミーズの作り方(二)……………六  
(五) 二三歳より四五歳用のドレス……………三〇  
(六) 短袖女兒服の仕立方……………三〇  
(七) ヨーク附女兒服の仕立方……………三〇

(八) 袖なし女兒服の仕立方……………三六

(九) 衿附女兒服の仕立方……………三六

(一〇) 半袖女兒服の仕立方……………三六

(一一) ジャンパーブラウスの作り方……………三六

(一二) セーラー型女兒服の作り方……………三七

(一三) 十七八歳向の女子服……………三七

(一四) 同上スカート……………三七

(一五) 女兒オーヴァーコート(その一)の仕立方……………三七

(一六) 女兒オーヴァーコート(その二)の仕立方……………三六

(一七) ケープの仕立方……………三六

(一八) ロンパースの作り方……………三六

(一九) ロシヤ型男兒服の仕立方……………三六

(二〇) ニッカースの作り方(その一)……………三六

(二一) ニッカースの作り方(その二)……………三六

(二二) ボデスの作り方……………三六

(二三) ウェイストの作り方(七八歳用)……………三六

(二四) 水兵型男兒服の仕立方……………三六

(二五) 原型よりエプロンの作り方(その一)……………三七

(二六) 原型よりエプロンの作り方(その二)……………三七

(二七) 婦人用シエミーズ(その一)の仕立方……………三七

(二八) 婦人服(その一)……………三七

(二九) 婦人服(その二)……………三七

(三〇) 幼兒パローコートの作り方……………三七

(三一) 幼兒スリッパの作り方……………三七

(三二) 幼兒服の作り方……………三七

(三三) 幼兒ジャケツ(その一)の作り方……………三七

(三四) 幼兒ジャケツ(その二)の作り方……………三七

(目次終り)

つき紙 婦人子供服の作り方

ガントレット恒子著

(一) 洋服を作るに必要な心得

(1) 必要な用具

洋服裁縫になくてならない用具は大略、左の通りであります。そのうち、「ミシン」は必要具と申すわけではなく、手縫ひでも、縫ひ方に注意さへすれば結構間に合ひます。

- (1) 針各種、(2) テープ通し、(3) 鉄、(4) 裁物鋏、(5) 釘切鋏、(6) チョーク、(7) 點線器(ツレーシング・ファイル)
- (8) 竹の尺度、(9) テープ尺(吋と釐で両面に、印をしたのが適當でせう。これは、體の寸法を計るには、是非なくてはならぬ品です。)
- (10) ピン(待針として、または服を體に合せるときに使ひます。)
- (11) アイロン、(12) アイロン臺、(13) 錐、(14) 指ぬき、(15) エモレバッグ(針磨袋)

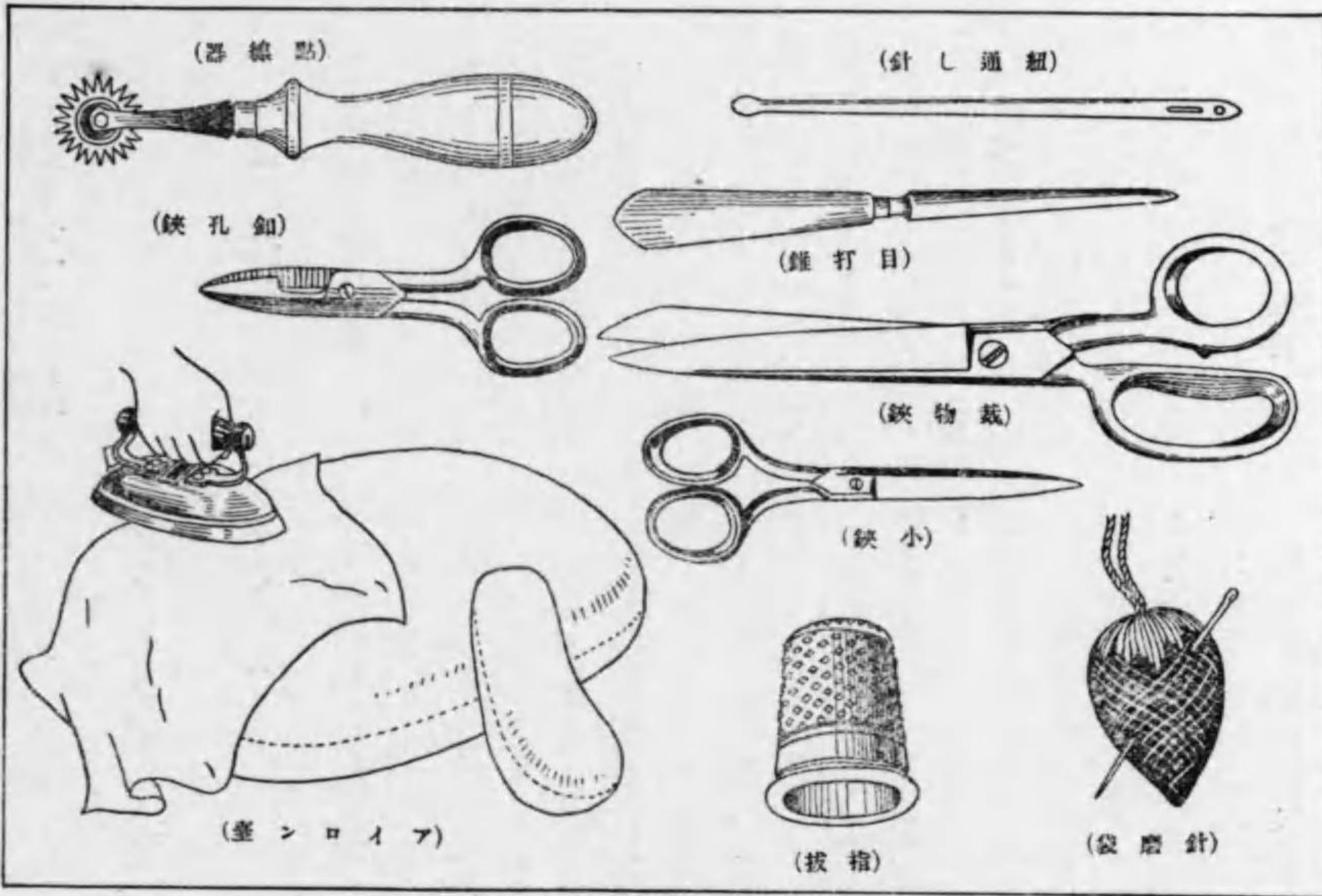
(2) 心得べき條件

洋服を作るに必要な心得

一、洋服を作るに必要な第一の條件は、部分々々の出来上りではなく、一般的に、全體から見た形と、感じに、細心の注意を拂ふこととあります。袖口とか衿とか、袖附とかいふ大事な箇所には、勿論相當の注意を拂はねばなりません。それ以上に大切なことは、體に着せてみた後の感じと形とであります。

二、練習が必要なことは申すまでもありません。どんなに器用な人でも、初めから、上手なもの、出来るわけがありませんから、初めには、自分(自分)が初習者であることを忘れずに、地質なども、萬一やり損ねても惜しくないやうな品を用ひ、一歩々々注意して進まねばなりません。

三、附録に原型がつけてあります



(式一具用縫裁な寶重)

けれども、それで油断せずに、必ず先づ原型から丁寧に紙型を作り、殊に初習者にあつては、尙ほ念のため、その紙型に合せて、古い布で一つ假縫したものを作つて、着せてみて、それで間違ひなく出来ると見當がついたところで、本當の仕立にか、れば、間違ひも無駄もありません。「急がば遅れ」とは、この場合によく適應した格言であります。

四、色と地質と柄とを調和よく選ぶことは、最も大切なことであります

す。どんなに手際よく出来上つた服でも、色が合はず、地質と柄と用途とがしつくり合はないときは、その美しさの半を損じてしまひます。色の一つ／＼が美しいからとて、それのみ使ふことは禁物で、柔かい、淡い感じを持たせる夜會服に適當な色を、はつきりした、ビジネスライクな感じを表すべき、事務服や學校服などに用ひれば、それは却て滑稽に見えます。用途ばかりでなく、着る人の顔色や姿をも考慮して、色や柄

顔色	黒	白	茶	青	緑	鼠	紫	赤	黄	淡
黄ばんでゐる人	可	可	可	可	可	可	可	可	可	可
顔が赤い人	可	可	可	可	可	可	可	可	可	可
顔が青い人	可	可	可	可	可	可	可	可	可	可
顔が白い人	可	可	可	可	可	可	可	可	可	可
顔が赤い人	可	可	可	可	可	可	可	可	可	可
顔が青い人	可	可	可	可	可	可	可	可	可	可
顔が白い人	可	可	可	可	可	可	可	可	可	可
顔が赤い人	可	可	可	可	可	可	可	可	可	可
顔が青い人	可	可	可	可	可	可	可	可	可	可
顔が白い人	可	可	可	可	可	可	可	可	可	可

洋服を作るに必要な心得

色の調和

主なる色	調和	完全	最良	強	良	可	弱
青	淡青	淡青	淡青	淡青	淡青	淡青	淡青
茶	淡茶	淡茶	淡茶	淡茶	淡茶	淡茶	淡茶
紫	淡紫	淡紫	淡紫	淡紫	淡紫	淡紫	淡紫
緑	淡緑	淡緑	淡緑	淡緑	淡緑	淡緑	淡緑
黄	淡黄	淡黄	淡黄	淡黄	淡黄	淡黄	淡黄
赤	淡赤	淡赤	淡赤	淡赤	淡赤	淡赤	淡赤
白	淡白	淡白	淡白	淡白	淡白	淡白	淡白

や、地質を選ばねばなりません。しかし、色の配合も一定の標準はありますが、近頃は以前より、すべての

好みも流行もずつと自由になつて、その時々(シーズン)變化してゆきますから、必ず何色の対照には何色と

定めるわけにはまなりません。できるだけ彩色のある繪畫や、歐米人の着てゐるものに注意して、研究し、常識で判断してゆくのが一番賢い仕方です。前頁の表は、たゞ参考までに、顔色と衣類との配合を表にして示したものに過ぎません。

六、用布を求める前に、その用途と、それによつて形を定めることは必要條件であります。また、もし用布が先に手許にあつた場合には、その用布の地質と色とによつて、用途と形を定めることを忘れてはなりません。

五、用布の積り方を知らずに、幾歳の女児服にはどのくらゐの用布が要るか、と、店で尋ねて買つてゐる方が多いやうですが、これはその家庭に取つて、非常な損だと申さねばなりません。後にざつと、一般的の積り方を記しますが、一番安全な仕方は、紙型を作つて、それを持つて店に行き、求めようとする用布の上に乗せてみて、尺を定めることとあります。日本服と違つて、作る服の形によつて、寸法が異つて来ますし、用布の方も、品によつて、幅に大變な差があります。それで、少しの面倒をも惜まぬことによつて、知らず識らずの中に多大な無駄を省くことができるのであります。

(3) 形を選ぶ時の注意  
 衿丸い衿や角衿は、肩を廣く、頸を短く、顔を見せ易く見せます。すから、瘦せた面長の人に適します。V形の衿は、頸を細く長く見せ易いから、肥えた丸顔の人に適します。船型の衿は瘦せた人に適します。タック(皺)横襷は太く肥えて見せ、縦襷は瘦せて、丈を高く見せ易く見せ、品をよく見せます。衣服の丈、腰の形の悪い人は、流行がどうであつても、衣服の丈は餘り短くせぬことです。矮小の人は、衣服が長いと、不精に見えるものですから、割合に短いものを選ぶ方がよろしいのです。



バンドの幅が広いのは、  
体が肥つて見えますから、肥満した  
人はなるべく細いものを用ひるか、  
或はスカートの両脇に、装を取つて  
胸幅を狭くし、バンドなしにして、  
恰好を整へます。

バンドの高さは、着けてみて合せ  
るのが、一番宜しいのですけれども、  
腰部の大きく、臀部の出た人は、心  
持ちバンドの位置を高く、且つ緩く  
し、肩から臀部までが、なるべく直  
線に見えるやうにいたします。

### (三) 着方に就て必要な心得

#### (1) 周囲との関係

洋服を着るときに考へねばならぬ  
のは、外國人が一般に用ひてゐるか  
らといつて、これをそのまゝ用ひる  
ことよりも、その國の氣候、家屋の  
構造、習慣及び經濟状態などをよく  
考へて、それに適應した方法を案出  
することです。歐米人が、煙房装置  
のある室内で着てゐる下着の數や種  
類、或は靴下の種類などを、室内も  
戸外も氣温に餘り變化のないやうな  
家の中に住んでゐる日本人が、その  
まゝ應用することはできません。ま  
た、家に入るときは、靴を脱がねば  
ならぬ習慣を持つ國民が、薄い絹の  
靴下を嚴冬用ひるなどは、決して賢

いことではありません。

下着なども、肩から細紐一筋で吊  
る、胸の上部や背の上部が覆つてな  
いものは、日本のやうに濕氣の多い  
冬の氣候には適しません。しかしま  
た、和服のときのことだけを考へて、  
無暗に重ね着をすることは、決して  
衛生的でも美的でもありません。  
普通に適當と考へられる洋装の數  
と順序を、左に記してみます。

#### 冬の服装……

- (1) 肌着シャツ、或はコ  
ンビネーション
- (2) ネル製ウニスト  
(ブルーマーズを  
吊るもの) とブル  
ーマーズ

- (3) ネル製シミアーズ  
(毛糸にてもよし)
- (4) 木綿、或は絹のシ  
ミアーズ

が見えるのは醜く、その上下品であ  
ります。

- (5) 上着
- (6) スウェーター(必要の  
場合)

二、服と靴下、帽子等の色の不  
調和にならぬやう、注意すること。  
(なるべく、どの色にも合ふやうな、  
色の靴下や帽子を備へることが、  
必要です。)

#### 夏の服装……

- (1) 木綿製ウニスト  
とブルーマーズ
- (2) 木綿製シミアーズ
- (3) 上着

三、靴下がブク／＼と膝の下の方  
へ緩く下らぬやう、注意すること。  
四、靴を必ず綺麗に磨くこと。(汚  
い靴は全體の美しさを傷け、折角の  
衣服も帽子も臺なしに見えます。)

#### (2) 合服は必要か

和服に、冬夏の外に、春と秋に用  
ひる裕があるために、日本人はどう  
しても、洋服に合服を必要とする感  
じが除けません。けれども、輕便と  
經濟とを旨として洋服を採用すると  
いふ點から考へて、これはどうして  
も無駄なことではありません。下着で調  
節すれば、別に春秋のために、着る  
期間の極く短い合服を、わざわざ貯  
へる必要はないのであります。

#### (3) 着る時の注意

一、衿や袖口、裾などから、下着

五、衣服に皺のないやう、アイロ  
ンをかけたものを着ること。  
六、隠しに、物を、餘り多く入れ  
ぬこと。  
七、カラーやカフスのある場合、  
清潔に、且つ皺の出来ないやうに注  
意すること。  
八、帽子や服には、必ずブラッシを  
かけて、外出すること。

着方に就て必要な心得

(三) 手入に就て必要な心得

洋服は、和服ほど縫返しの手数はかゝりません。けれども、或る一部の入達が考へるやうに、一度作つたら、そのまま、破れるまで着られるものでないことは、申すまでもありません。

(1) 汚斑を拭き取る事

洋服を長く保たせる秘訣は、常に注意深く手を入れることです。カラ―や袖口などは、一週に一度は揮発油で拭ひ、他にも汚れたところがあつたら、その汚れた箇所の下に手を入れて、熱湯で搾つた布で、布地を伸ばさないやうに拭き、そして全體にアイロンをかけておきます。毛織物の場合には、決して、直接にアイロンをかけてはいけません。濡つた手を一枚載せて、その上からかけます。萬一、それでも布地が光るやうでしたら、濡つた布を載せて、その上に熱いアイロンを、布にあたらないう程度に近く持つてゐると、濡布か

ら出る蒸氣で光が除れます。

(2) フラッシをかけること

上着や外套には、必ず帰宅後、ブラッシをよくかけて、塵埃のかゝらない場所に掛けておくか、または塵埃の通らないやうな覆ひ(防水紙で作つた洋服覆ひが出来てゐます。)を掛けておけば、變色することも、よほど少いのであります。

(3) 綻びと鉤裂きの繕ひ

綻びや鉤裂きは、気がついたらすぐ繕ふのは當然のことてあります。大抵の場合には、なるべく目立たないやうに共糸で刺すか、また大きく裂いた場合には、共布を當て、掛繕ひをします。下着は繕ふものでないやうに、考へてゐる人が多いやうですが、肌着一枚でも手数を掛けて作つてあるしまたメリヤスのものなどなら、なかなか高價ですから、手を入れて、使用に堪へるだけ使ふ習慣を作ること

が、大切であります。繕ひ方は別項に記してあります。

釦やホック、スナップ等の除れたときは、必ず新たにつけるやう、注意することが肝要であります。下着の釦が一つ除れてゐるために、思はず恥をかくことの起つた例は、随分澤山ありますから、些細なことでも怠つてはなりません。

(4) 繕ひ方

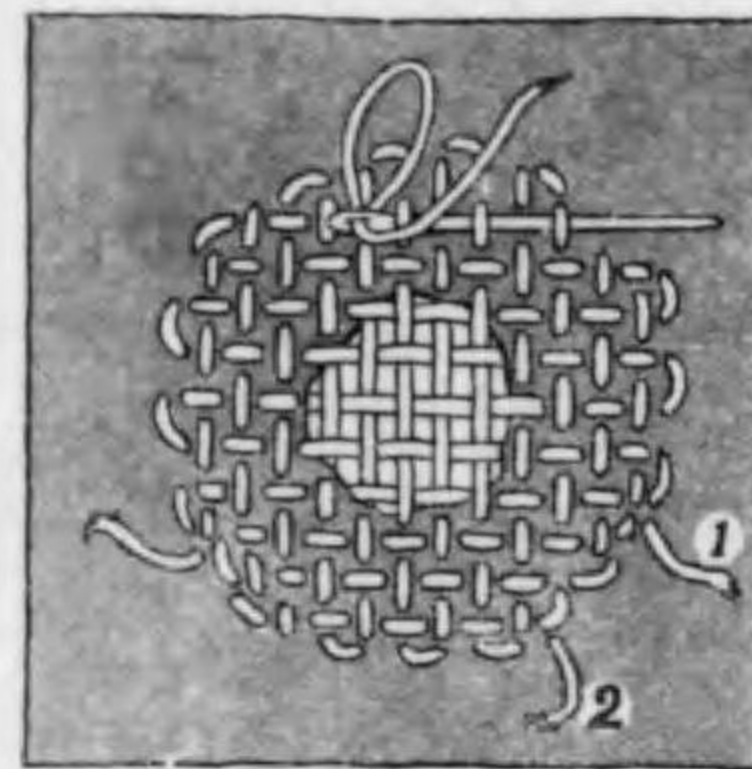
繕ひ方には、大體に於て、二種あります。

一つは、糸で刺してゆく「ダーニング」で、一つは當布をしてゆく「パッチング」であります。

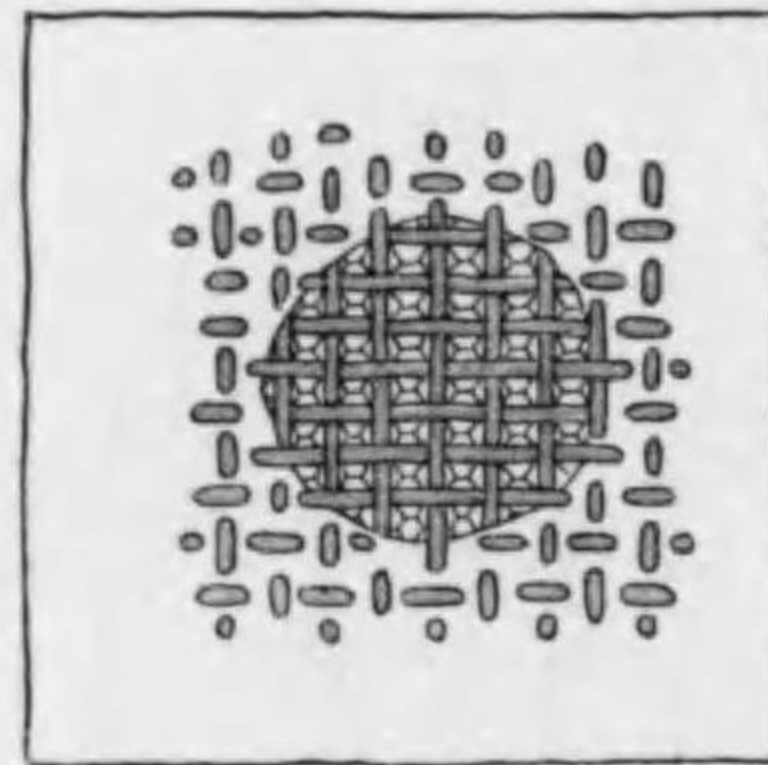
「ダーニング」は、多く靴下や、メリヤス類を繕ふときに使ふ方法で、糸の太さと布地の厚薄によつて、針目の長短を定めてゆきます。(繕ひ方の(一)圖参照)

この場合、萬一布地が薄手で、その上、孔が大きかつたときには、圖のやうに、「ネット」(網目の布)を裏からあて、その上から刺してゆき

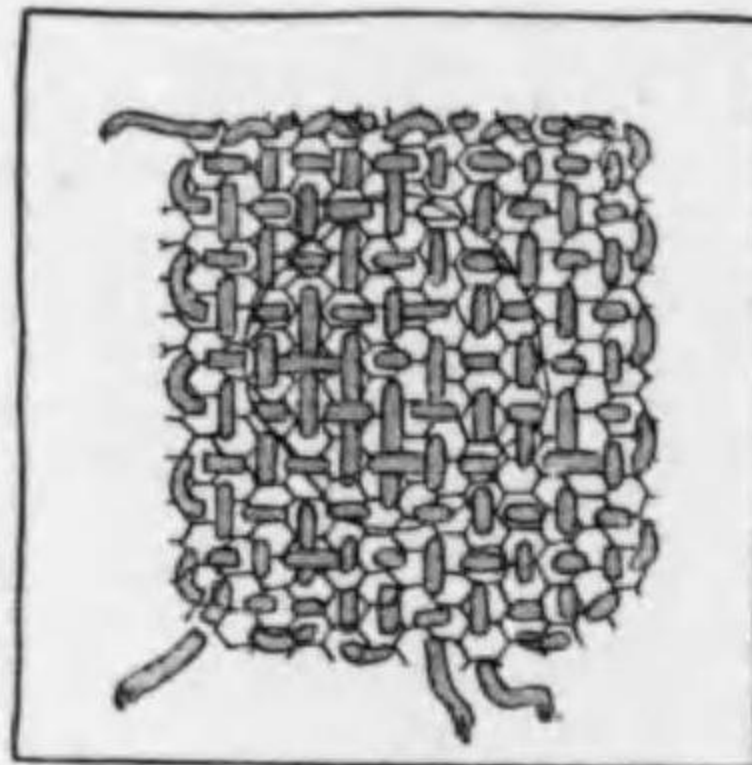
手入に就て必要な心得



(一) の方ひ繕



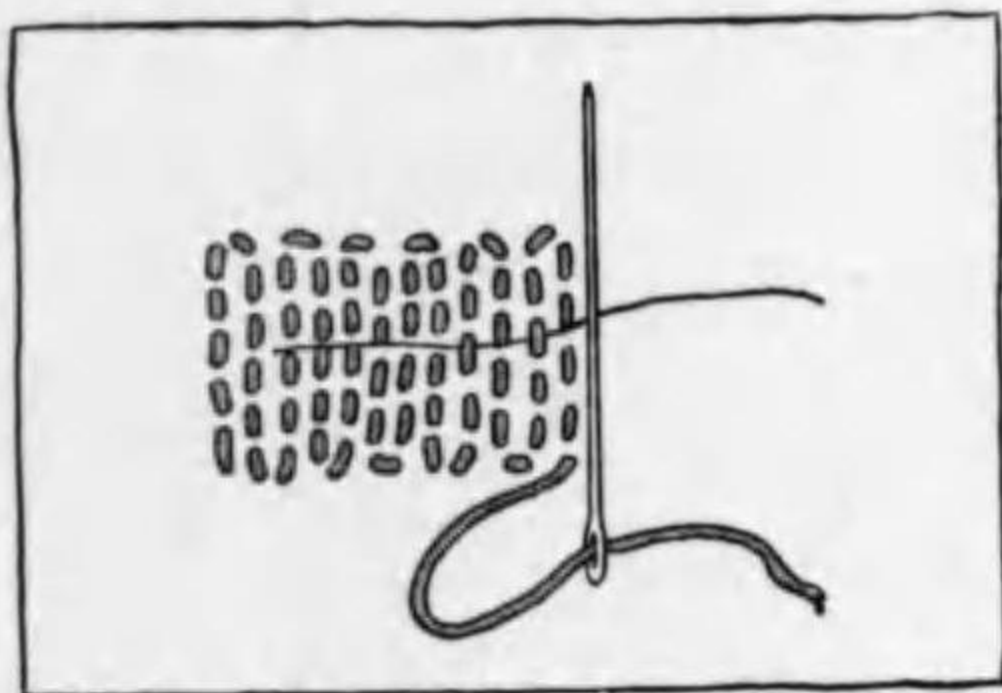
(二) の方ひ繕



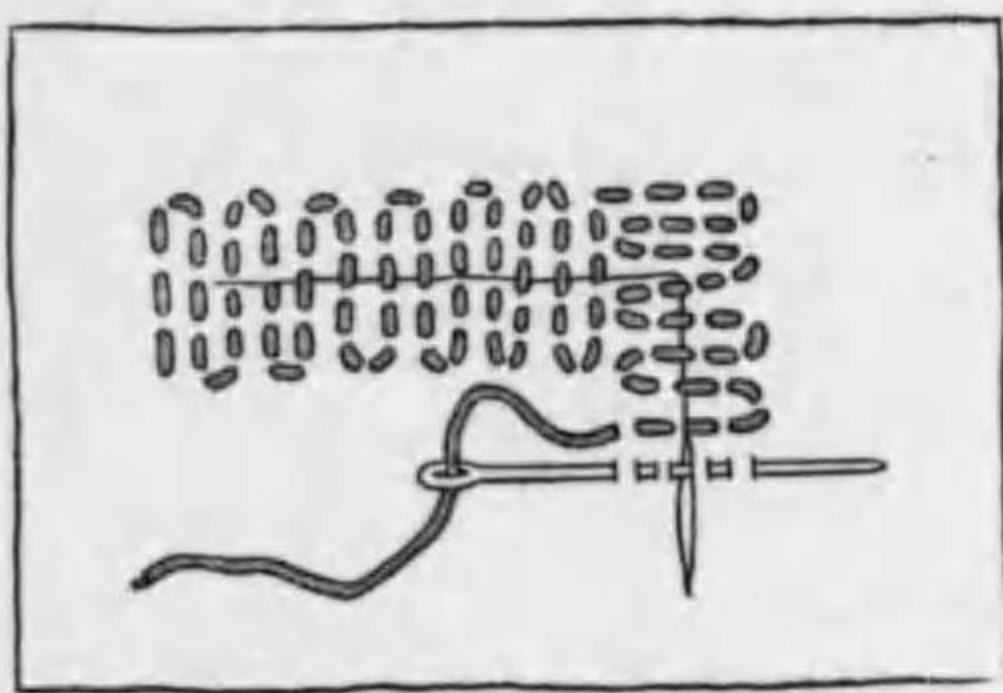
(三) の方ひ繕

単位尺	尺				種 (センチメートル)				吋			
	年齢	胸圍	背丈	袖	身丈	胸圍	背丈	袖	身丈	胸圍	背丈	袖
2	1.22	.6	.90	1.20	45	23	35	46	18	9	13½	18
3	1.25	.65	.98	1.25	47	24	37	47	18½	9½	14½	18½
4	1.30	.68	1.00	1.30	49	25	38	49	19½	10	15	19½
5	1.35	.70	1.07	1.35	51	26	41	51	20	10½	16	20
6	1.38	.75	1.15	1.45	52	28	43	56	20½	11½	17	22
7	1.43	.80	1.20	1.55	53	30	46	61	21	12	18	24
8	1.47	.85	1.27	1.65	56	32	48	64	22	12½	19	25
9	1.55	.88	1.33	1.75	58	33	51	66	23	13	20	26
10	1.60	.93	1.38	1.80	61	34	53	69	24	13½	20½	27
11	1.68	.98	1.45	1.90	63	36	55	73	25	14½	21½	28½
12	1.75	1.00	1.50	2.00	66	38	57	77	26	15	22½	30
13	1.85	1.03	1.55	2.05	69	40	59	79	27½	15½	23	31
14	1.90	1.08	1.60	2.15	71	41	61	82	28	16	24	32
15	1.90	1.08	1.65	2.20	74	41	63	83	29	16	24½	33
16	2.00	1.08	1.70	2.40	77	41	64	92	30	16	25	36
17	2.07	1.08	1.75	2.55	80	41	66	96	31	16	26	38

標準寸法表



(四) の方ひ縫

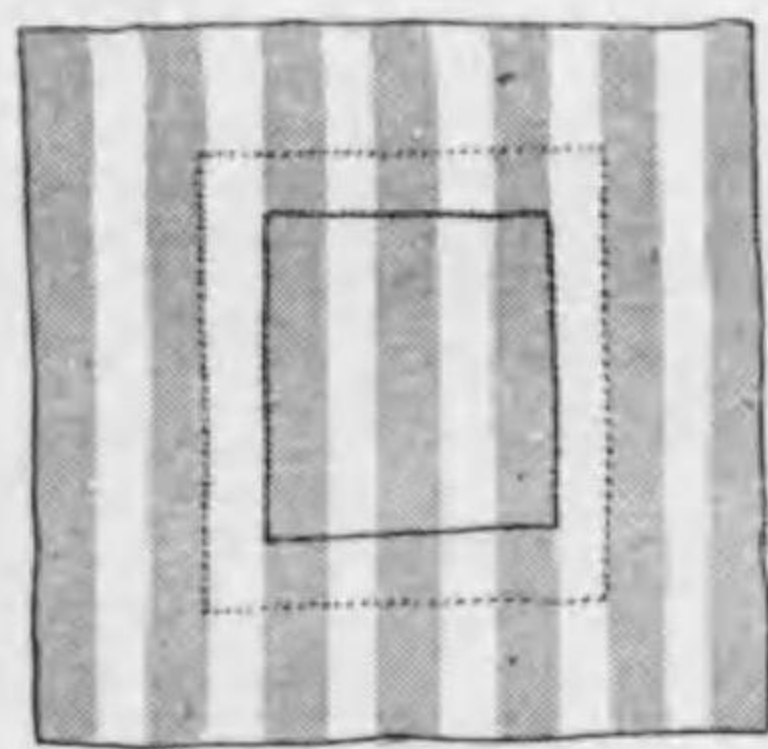


(五) の方ひ縫

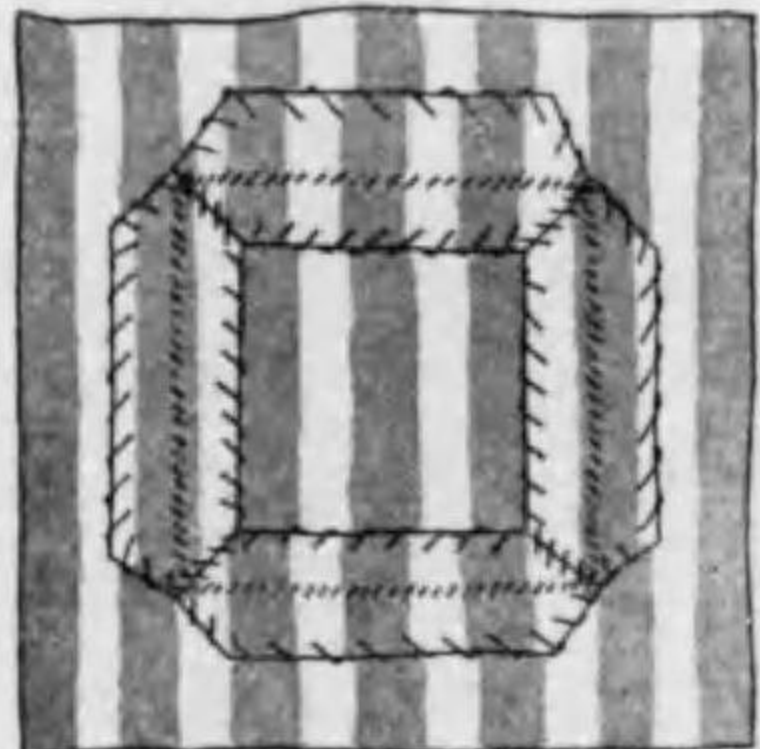
ます。(縫ひ方の二、三圖参照)  
 眞直な鉤裂きるときには、縫ひ方  
 (四)、(五)圖のやうに、工合よく刺して  
 ゆきます。

パッチングは、破れた箇所に布をあ  
 て、刺さずに、掛縫ぎのやうに縫ふ  
 のであります。

この場合、注意いたさねばなりま  
 せんことは、あてる布の布目と、縫  
 や、模様とが、できるだけよく合つ  
 て、一寸見ただけでは、縫ぎが判ら  
 ないやうに、仕上げることでありま  
 す。(縫ひ方六、七圖参照)



(六) の方ひ縫



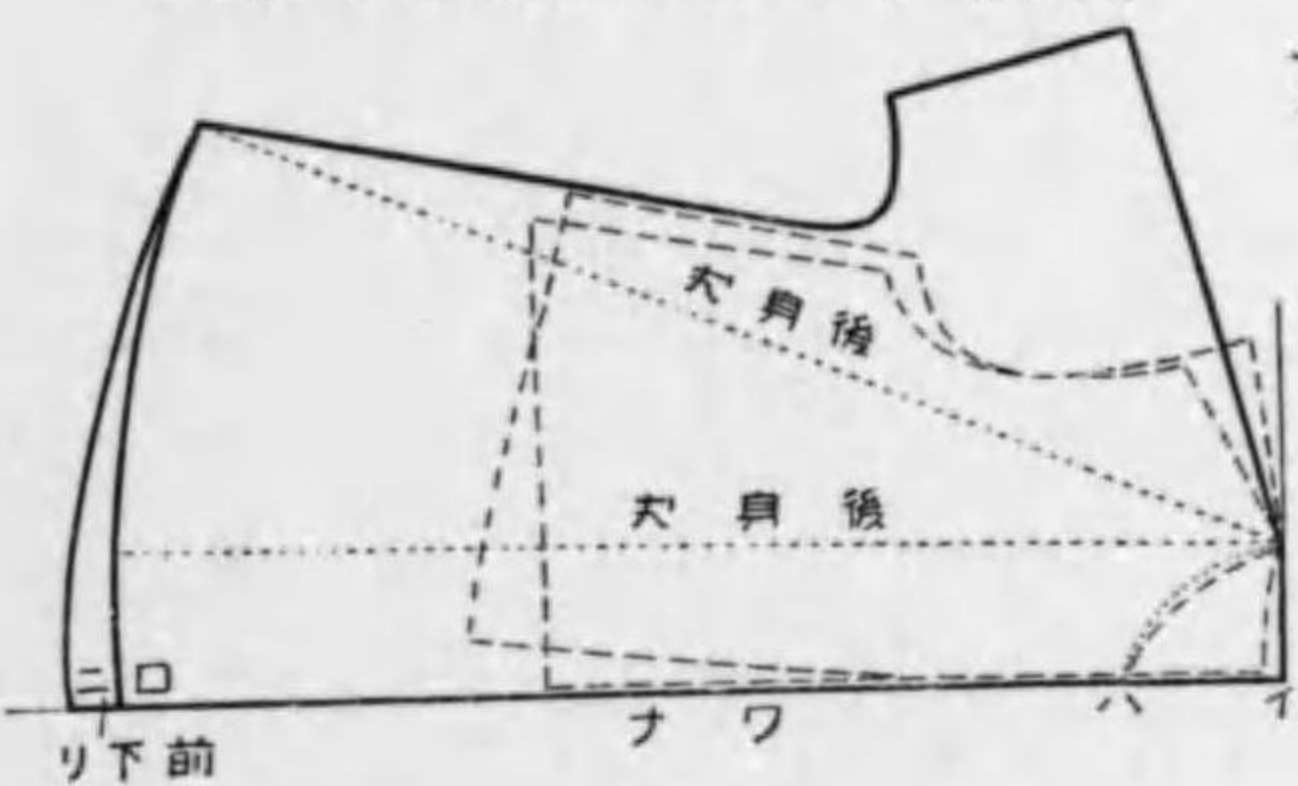
(七) の方ひ縫

### (一) 原型より型紙の作り方

原型は、その人の體に合せたもので、それによつて着物と同じ形に引伸し、それに合せて布を裁ちます。最も普通の型の作り方は、次のやうに、原型一つて下着も上着もコートも出来ます。またその時々々の流行の型も、それによつて裝を取るとか、または飾りをしたりします。

袖は普通原型の通りで、後肩幅と袖丈を計算して、望みの寸法にします。加減は袖口でいたします。

【身幅はロイ  
身長はニハ】 方ち裁のゲーリスノモキ (圖一第)



方し伸引の紙型りよ型原 (圖二第)



### (三) 裁ち方及び縫代縫込み

原型より望みの型紙が出来ましたらば、これに各縫代を加へて裁ちます。縫代は、肩、脇、袖下は各五分、裾は二寸、衿、袖等等は各二分でよろしいのです。但し布地によつて、夏物など、縫目の表より見える場合には、縫代は細く袋縫にします。冬物などの場合は、肩、脇、袖下等は七分も取つて、開いておきます。尚ほ布地の都合では、肩、脇、裾等は餘分に縫込むこともできます。しかしそんな場合でも、衿、袖、袖等は、二三分より餘分は必要なく、澤山縫込みがありましては、思ふやうな形になりません。また成長して、縫直す場合にも、脇や裾、袖口等に縫込みがあれば便利ですが、衿、袖、袖等はだん／＼大きくなりますから、却て切取る場合もあります。

裁つときは、布の上に型紙を並べて、都合よく取ればよろしいので、別に定りはありません。しかし布目

の向きはよく考へて、少しは接目が出来ても、袖を横布で取つたりしないやう、注意することです。

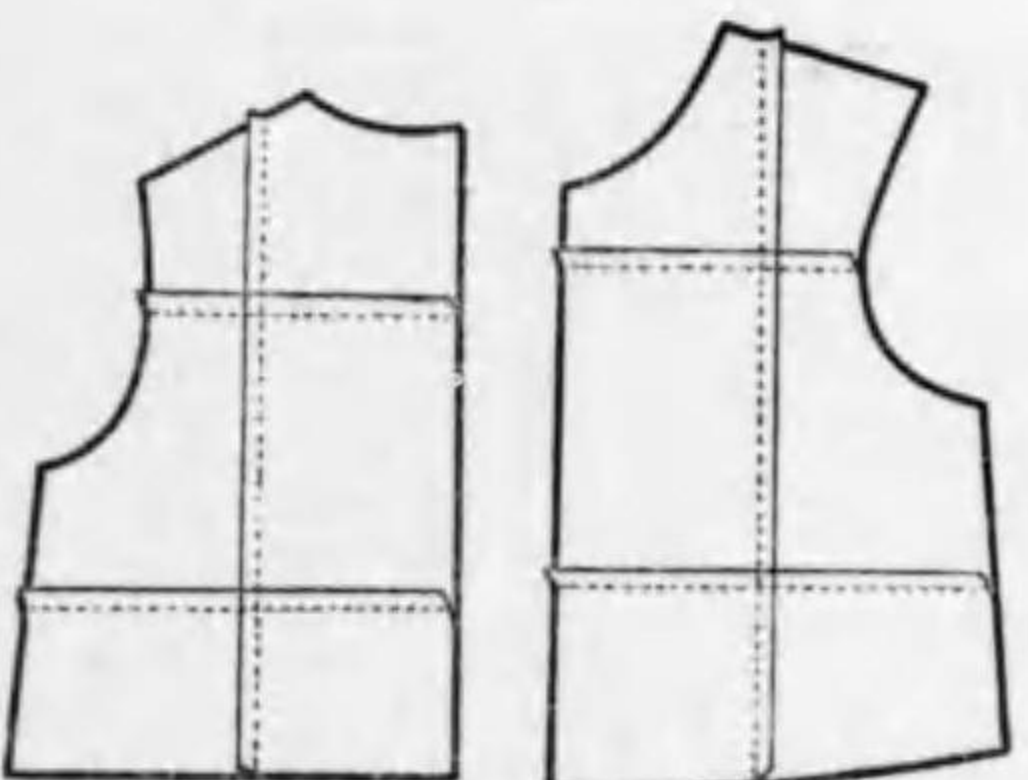
普通、餘り澤山に、裝などのないときの、用布の積り方を申し上げます。

- (1) 毛織物(ラッシュ)は普通三尺六寸から八寸)にては、  
(身丈+3寸)+(縫込部の折込)×2+袖丈+縫代
- (2) 木綿、モスリン、麻等(一尺七寸から二尺)にては、  
(身丈+3寸(縫代及び裾の折込))×2+(袖丈+縫代)×2
- (3) その他ナイロン等(二尺七寸幅)にては、  
(身丈+縫代+裾の折込)×2

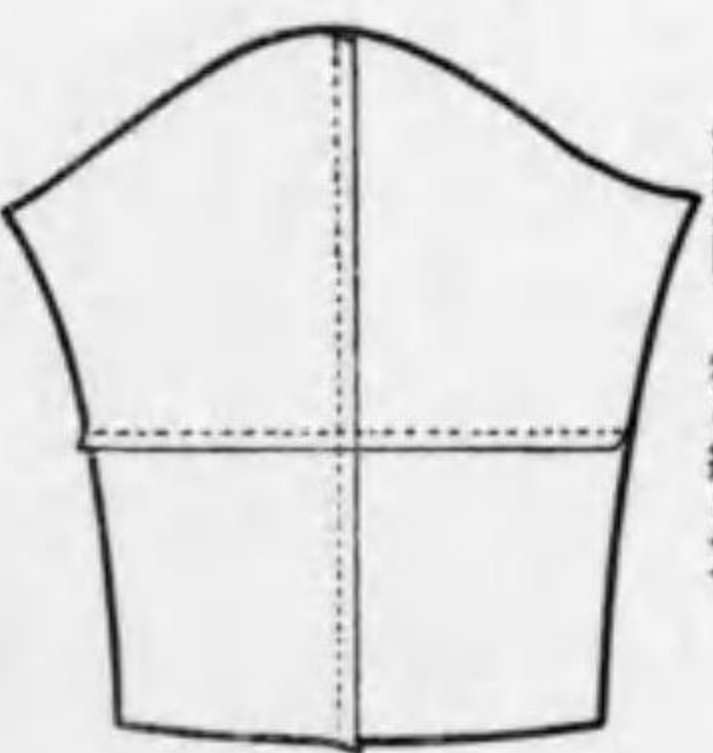
キモノスリーブ等の場合は、身丈に縫代、折込みを加へた二倍です。衿をつける場合は、それだけ餘分を見積ります。

尚ほ、最も布地を無駄なくいたしますには、型紙を布地の上に並べてみて、求めるのであります。

③ 型紙の伸縮法



方め縮の頃身 (圖三第)

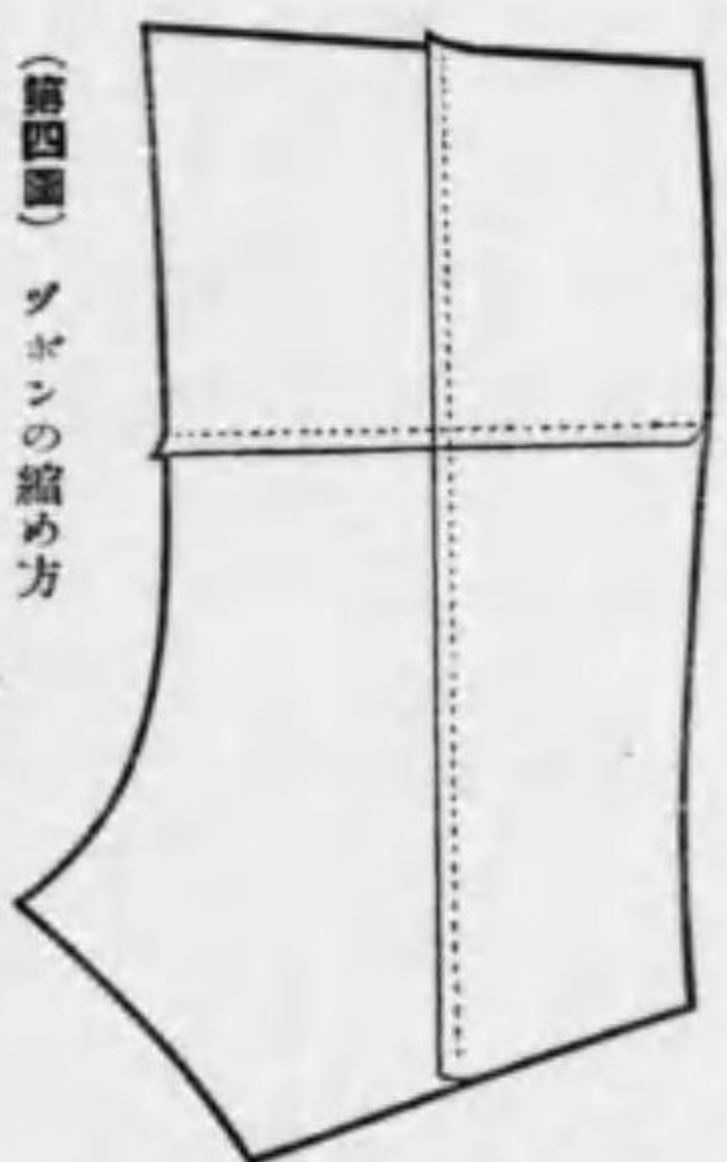


(第五圖) 袖の縮め方

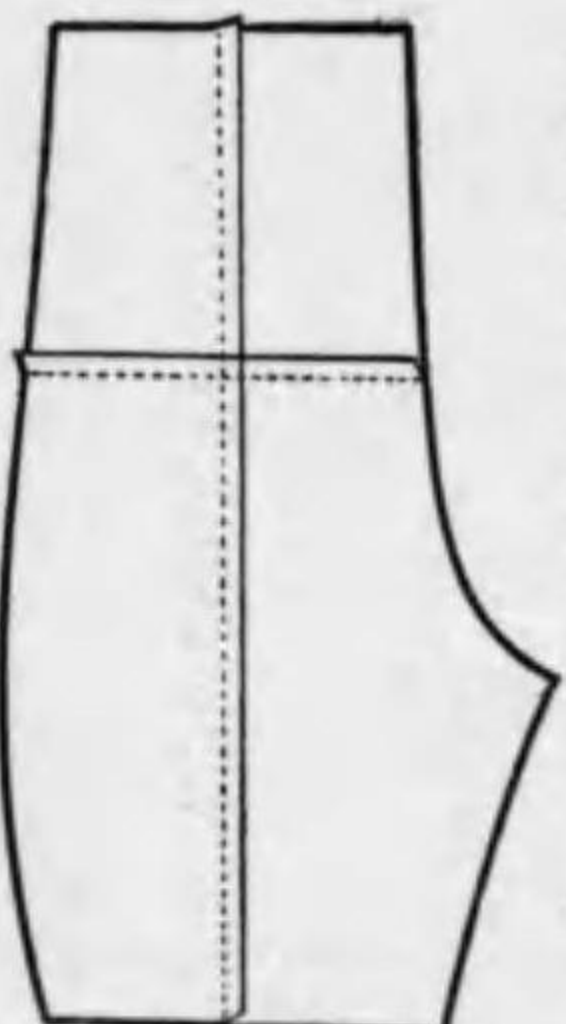
(1) 型紙の縮め方

身頃丈を縮めますには、望みの寸法を二分して、半分を上半身、半分を下半身で、第三圖のやうに折込み、他の紙へ型を取ります。

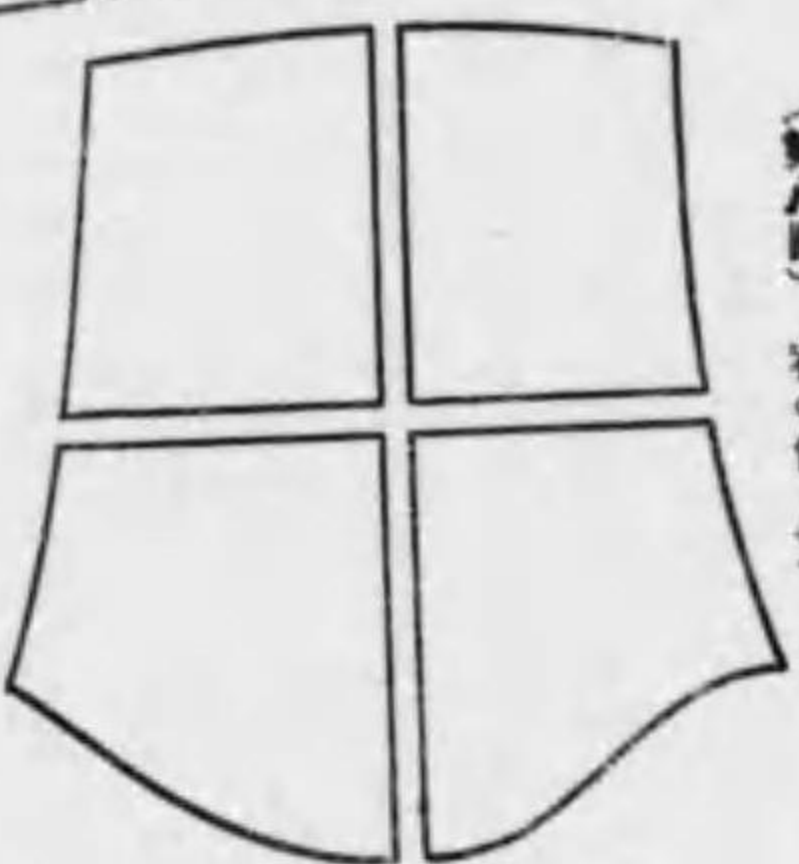
幅を縮めたいときは中央で縮めます。袖幅は中央で、丈は肘のところで縮めます。パンツも同じ道理ですが、股下は裾口で縮めてもよろしいのです。



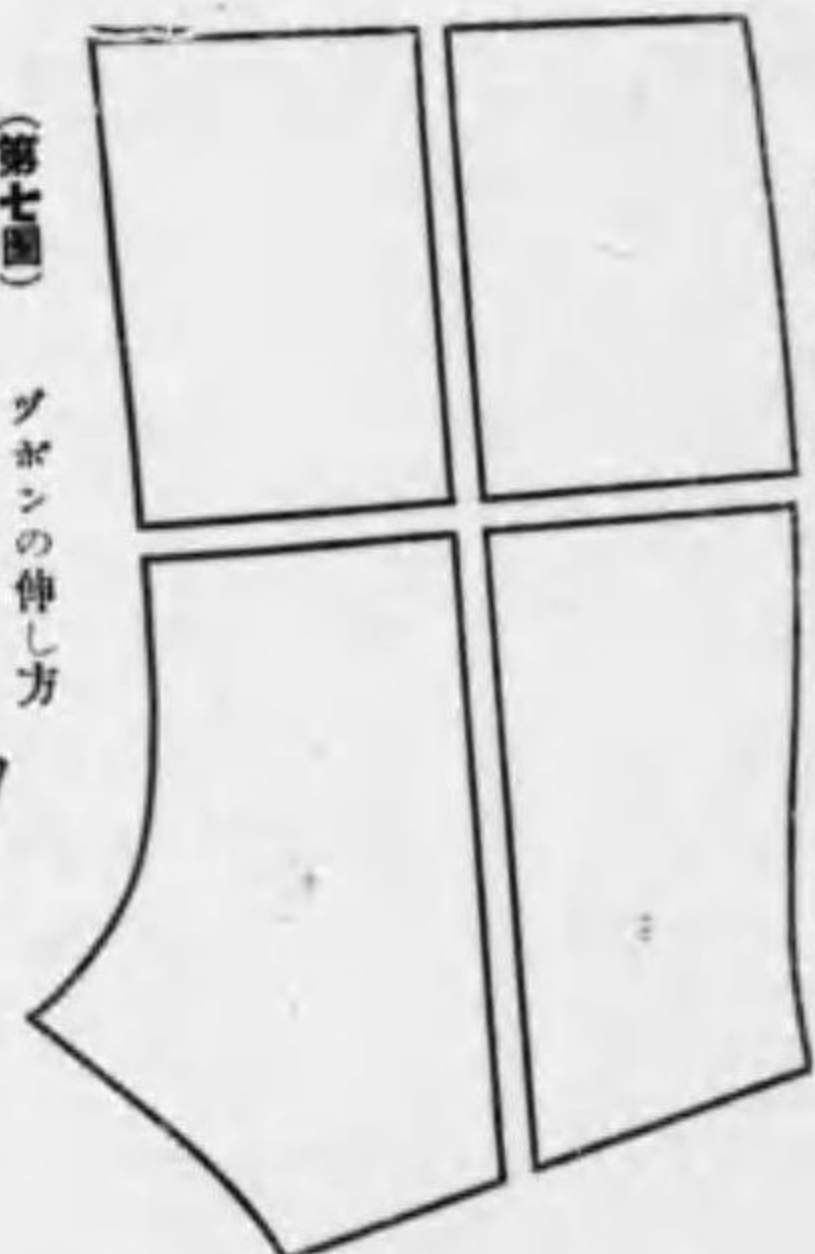
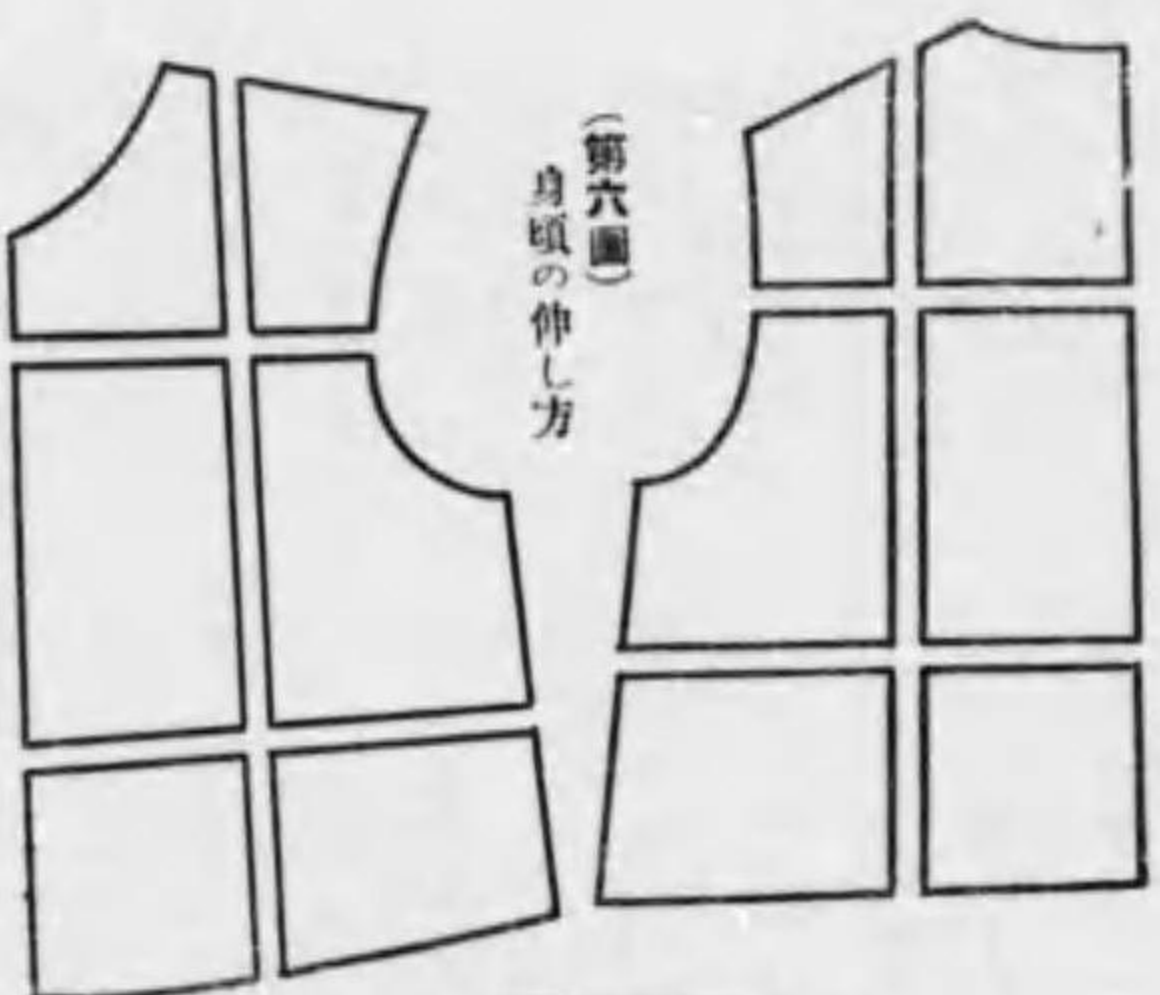
(第四圖) ツボンの縮め方



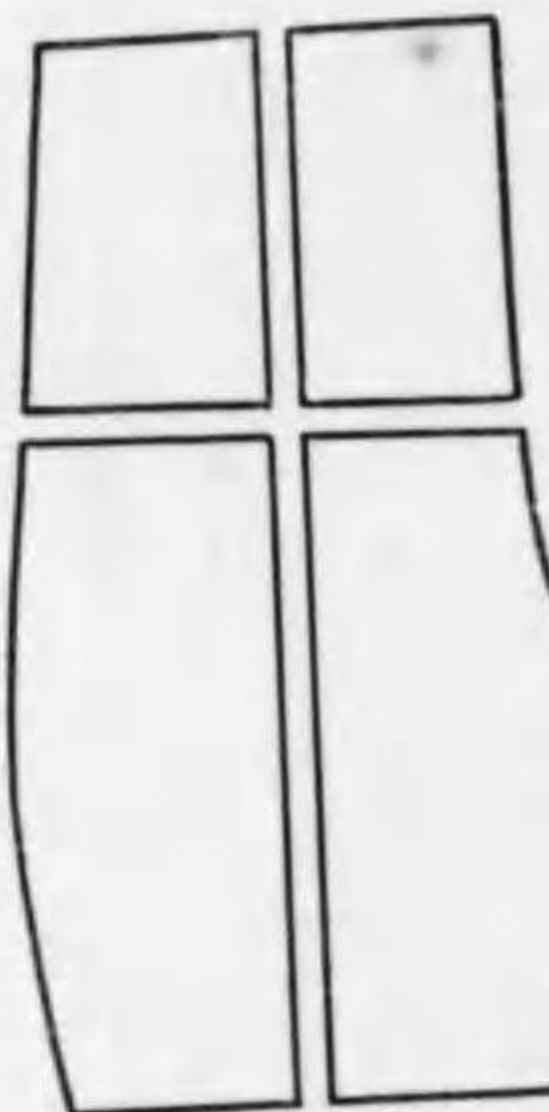
(第八圖) 袖の伸し方



(第六圖) 身頃の伸し方



(第七圖) ツボンの伸し方

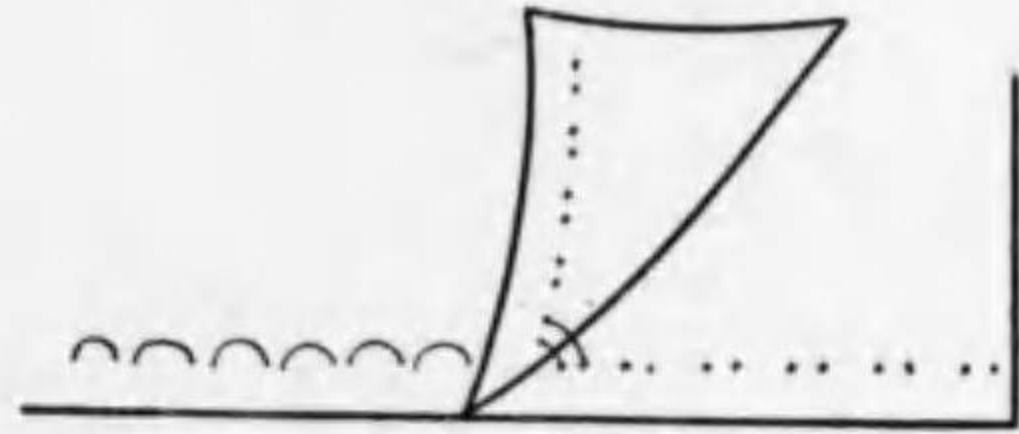


型紙の伸縮法

(2) 型紙の伸し方

縮め方と反対に、中を切つて開きます。まづ別の紙で一枚の型紙を取つて、それを切り、更に別の紙の上を上圖のやうに並べて外側に線を引きます。袖は、丈は袖口と山の方に伸し、幅は両方に伸してもよろしいのです。またパンツは、股下は裾口だけで伸してもよろしいのです。

方仕の襪切 (圖九第)



(第十圖) 袖の(一)



(第十一圖) 袖の(二)



(圖二十第) 衿



(3) 縫ひ方

布地を裁ちましたら、薄物のときは布地のいたまぬやう、型紙の通りに標(笥か點線器)をつけてます。毛織物の場合は、型紙の通りにチョークを引き、それに縫代をつけて裁ちましたら、その標の通りに縫標をいたします。

4) 縫標の仕方

二枚の布の標通りに、襪縫で、縫を緩めながら襪をし、一枚を左手で少し上へ上げて、間の縫を右手で切ります。さうしますと、上と下とに同じ標がつき、これが仕切線になります。

(5) 縫ひ目

薄い布地は袋縫にし、縫目は和服のやうに前に返しますが、厚地のときは全部割ります。

この袖で、袖下を縫ふとき、袖口の方で一寸ほど縫残し、その縫残した兩側を、薄い布地は三つ折にし、厚い布地は、二つ折にしてまつり、袖を縫ひ縮め、袖口を表からつけて、裏でまつり、後を上へ重ねて、スナラプスをつけます。

衿は普通裏をつけますから、二枚重ねて、表の方を五厘ほど控へて縫ひ、表に返し、襪をかけ、銀をかけておきます。袖の(二)圖は、まづ襪を取り、袖口布を裏よりつけて、表に返し、ミシンをかけて、袖下を縫ひます。

(6) ブラケットの作り方

その一〇明きから下まで、折になるやうに、作るのです。しかし、(イ)の横縫の止めのところから下は、ふはりと、折目の見えないやうに、作ります。

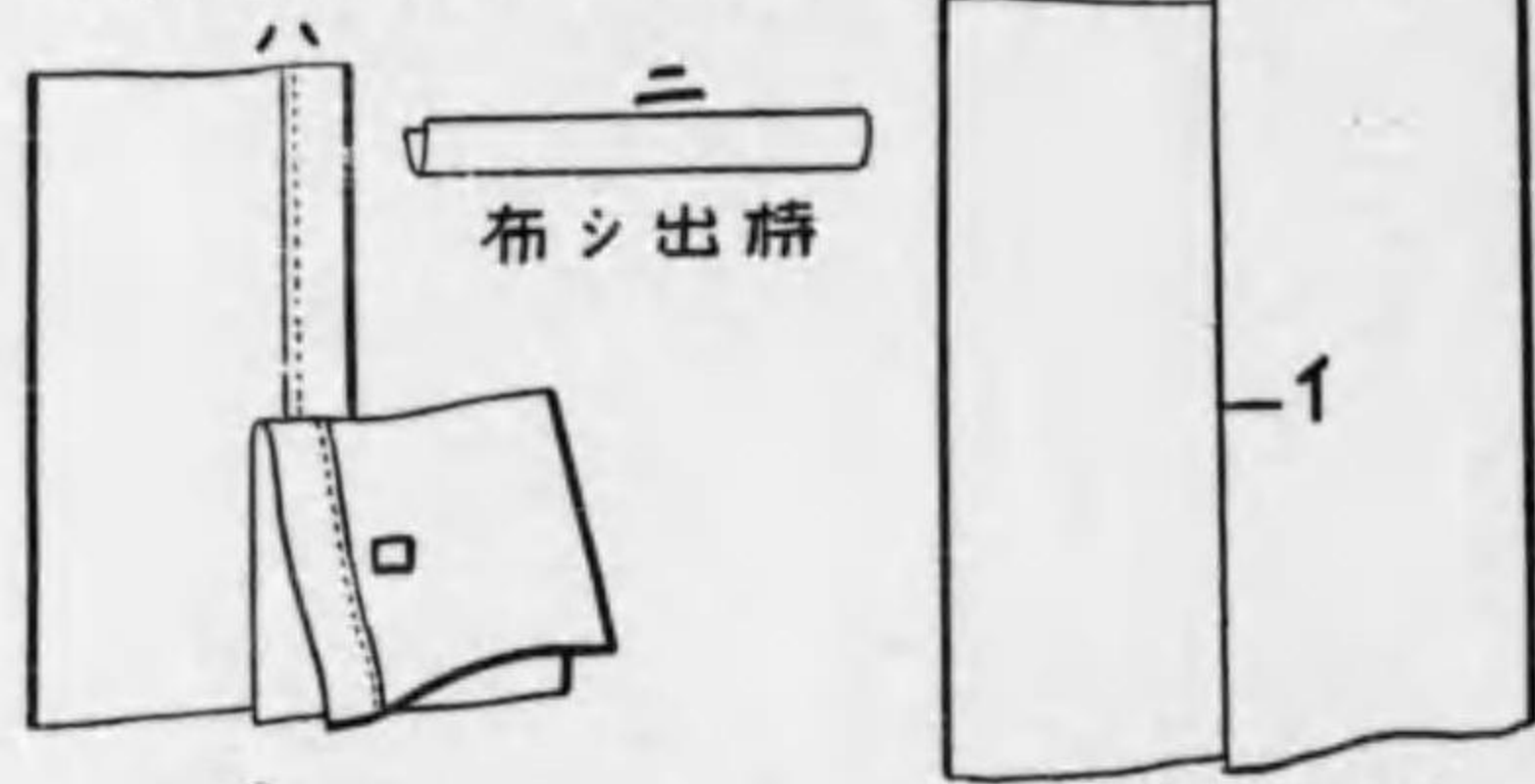
まづ、「ブラケット」を明けようと思ふところを、布目通りに折ります。重りは、右が上になるのですから、

その折目より左へ四分から五分くらゐ寄せて、下へ三寸くらゐ切込みを入れます。

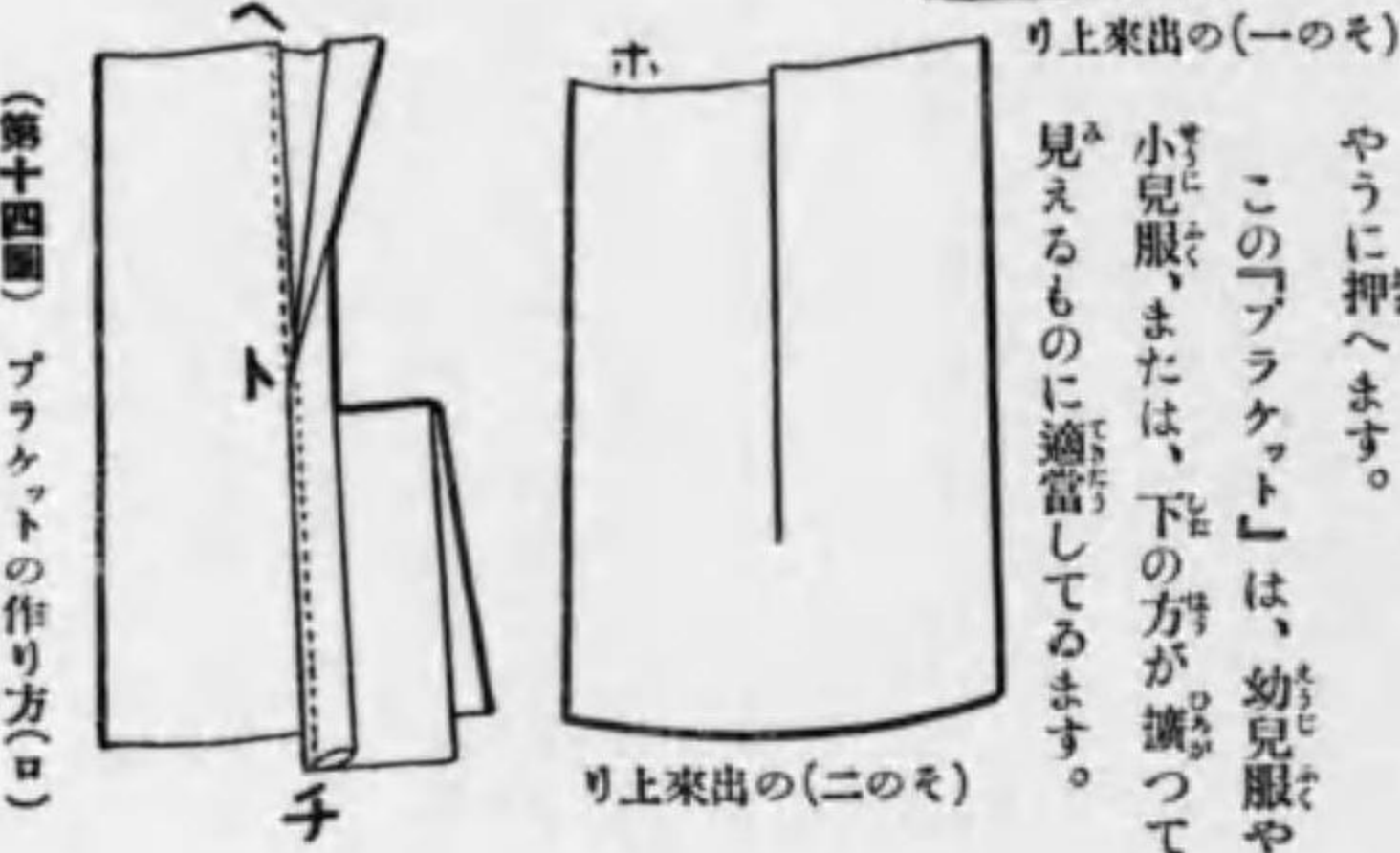
縫ひ方は、切口を一分五厘ほど折返して、(ロ)のやうに、ミシンをかけます。(手縫なら細くまつる)(ニ)の持出(九分幅)を、二つに折り、(ハ)のやうに、身頃の布を挟んで、ミシンをかけておき、この左右二枚をそのまゝ重ねておいて、(イ)のやうに押へます。

この「ブラケット」は、幼児服や小児服、または、下の方が擴つて見えるものに適當してゐます。

(イ)方り作のトックラブ (圖三十第)



型紙の伸縮法



(第十四圖) ブラケットの作り方(ロ)

しかし、明きの方が下の方より長い場合には不適當であります。

その二この「ブラケット」は、持出しも見返しも、一枚の布でつけるので、「ブルーマース」などには、一番丈夫で便利です。

長さは、明きの長さの倍で、幅八分くらゐの縦布を用意します。

横に二つに折つたこの布を、(ト)の切込みのところにあて、糸でそこを止めておき、當布を伸して、(ヘ)のやうに、切込み全體に縫ひつけます。次に當布を淺く折つて、(チ)のやうに、(チ)から(ヘ)まで重ねて縫ひます。

右の方の(ト)(チ)を裏へ返し、左の方はそのままにして、(ヘ)まで重ねると、(その二)の出来上りのやうになります。

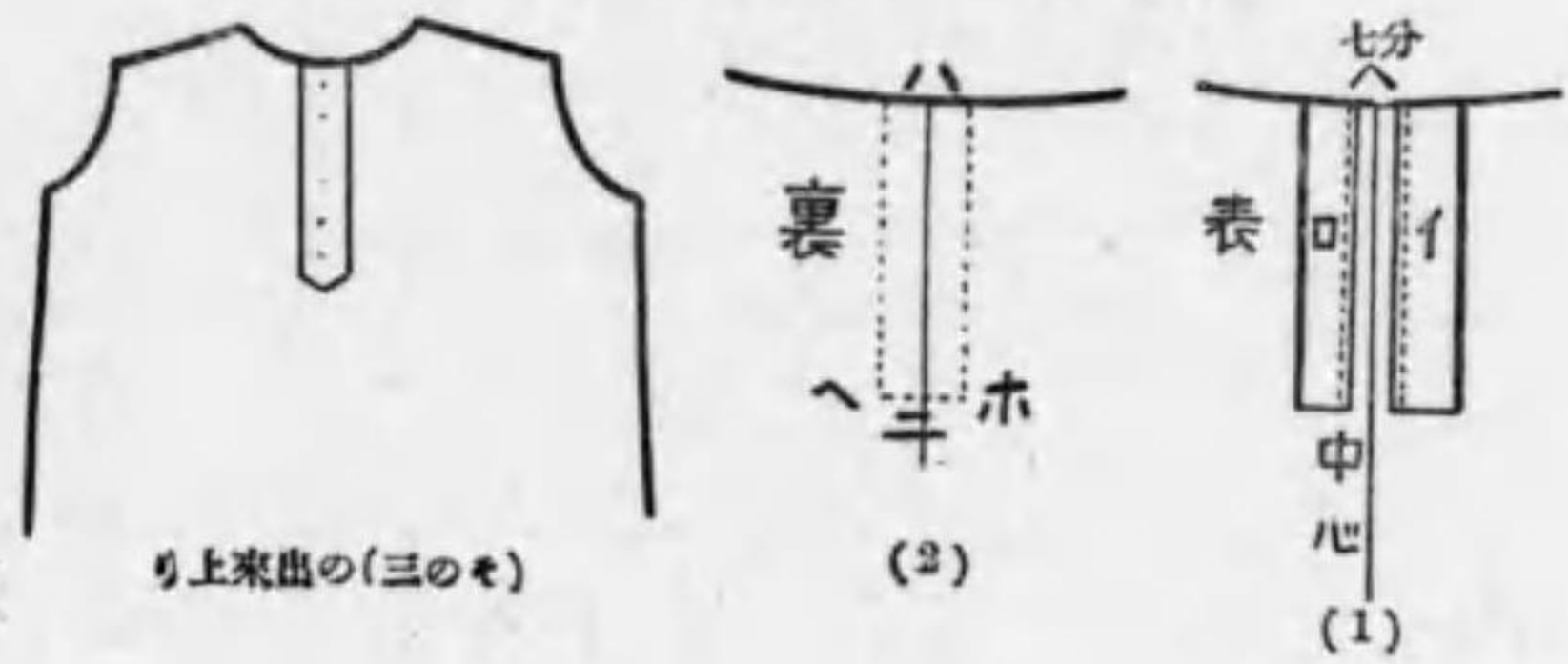
その三仕上り幅を七分にするときは、幅一寸八分で、明きの寸法より少し長い布を二枚用意します。

次に、第十五圖(一)のやうに當布をあて、縫目と縫目の間隔が七分に

なるやうにし、(イ)(ロ)の通り點線のところにミシンをかけます。

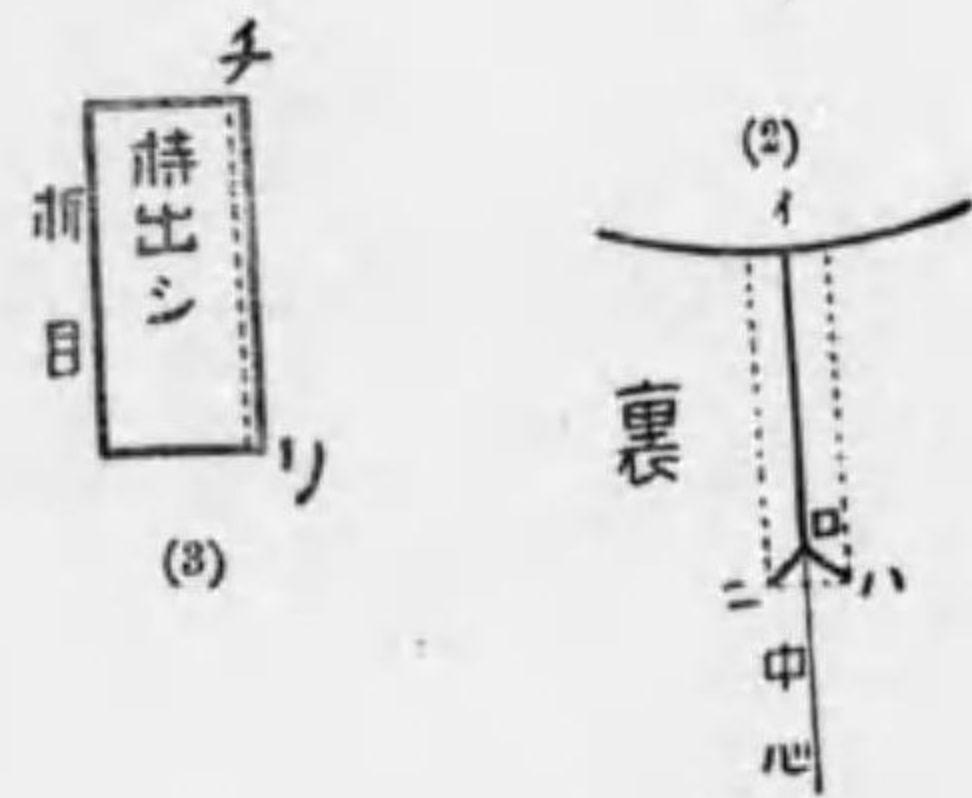
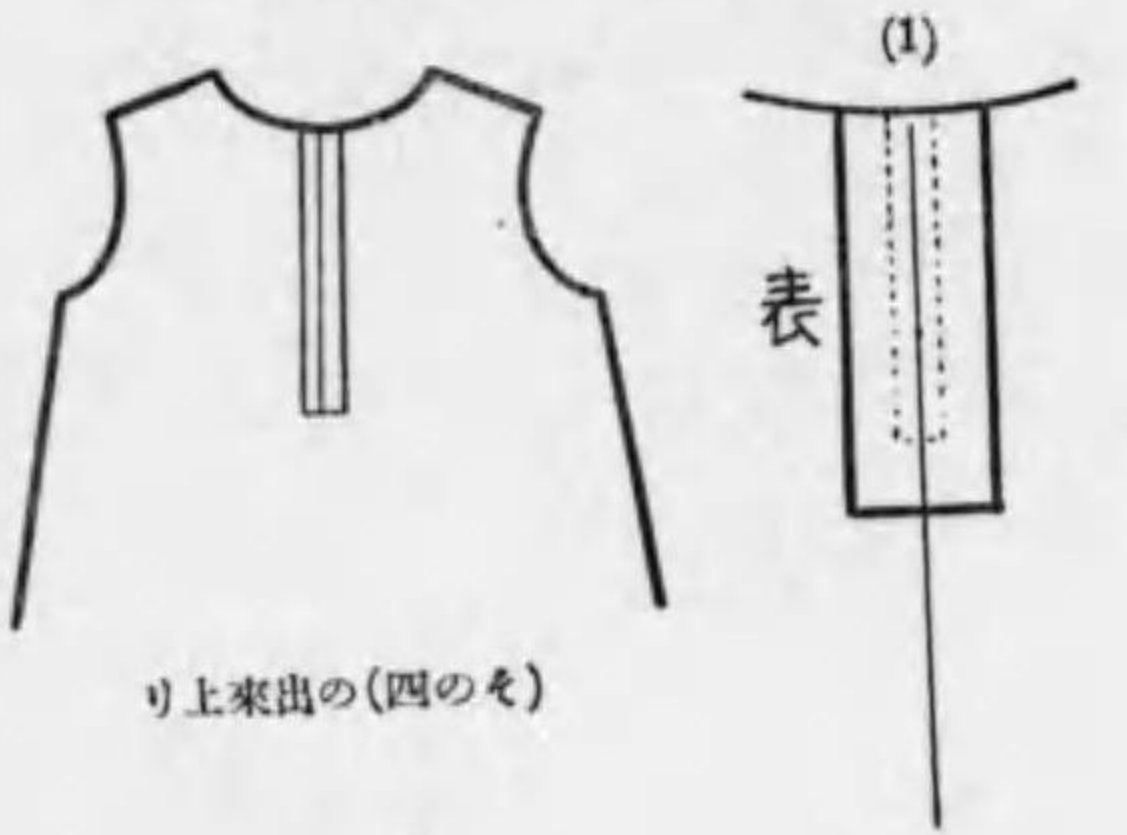
次に、(二)のやうに、(ハ)(ニ)と(ホ)(ヘ)に切込みをします。左右の當布を各七分づゝの縁(持出し)にして、表から右を上、左を下に重ねて、下を劍形に、形よく折り、縫ひ上げます。

(ハ)方り作のトッケラブ (圖五十第)



り上來出の(三のそ)

(ニ)方り作のトッケラブ (圖六十第)



その四りまづ一寸五分乃至二寸幅の布を當布として、用意し、それを(一)のやうに、中心を合せて當て、襷をし、點線の通りに縫ひます。

次に、(二)のやうに、(イ)(ロ)と(ハ)(ニ)のところに、切込みを入れます。縫目を割り、當布を表へ返して、左右同じに細い縁を作ります。次に、(三)のやうに、用意してある持出布(明きより少し長く、出来上り五分くらゐのもの)を裏の方にあて、先に縫つた縁へ、左右ともミシンをかけます。

(三)の(チ)(リ)は、縫目が厚くならないやうに、切離しのまゝあて、差支ありません。

(7) ポケットとボタン  
ホールの作り方

(厚い布地るときや、外套または、飾りなどに用ひるとき)  
子供服で、上から別の布をつけるポケットは、別に説明の必要もないかと思ひます。こゝでは、ボタンホールと切ポケットの口の仕方を、圖によつて説明いたしますから、第十七圖を御覧ください。

(1) まづポケットの標の上に、三寸の口ならば、長さ四寸、幅一寸五分くらゐの布を載せて膝をします。

(2) 中の直線は、ポケットの口の大きさ、點線は縫目です。

(3) 裏より見たところ。點線は縫目、直線は切込みです。

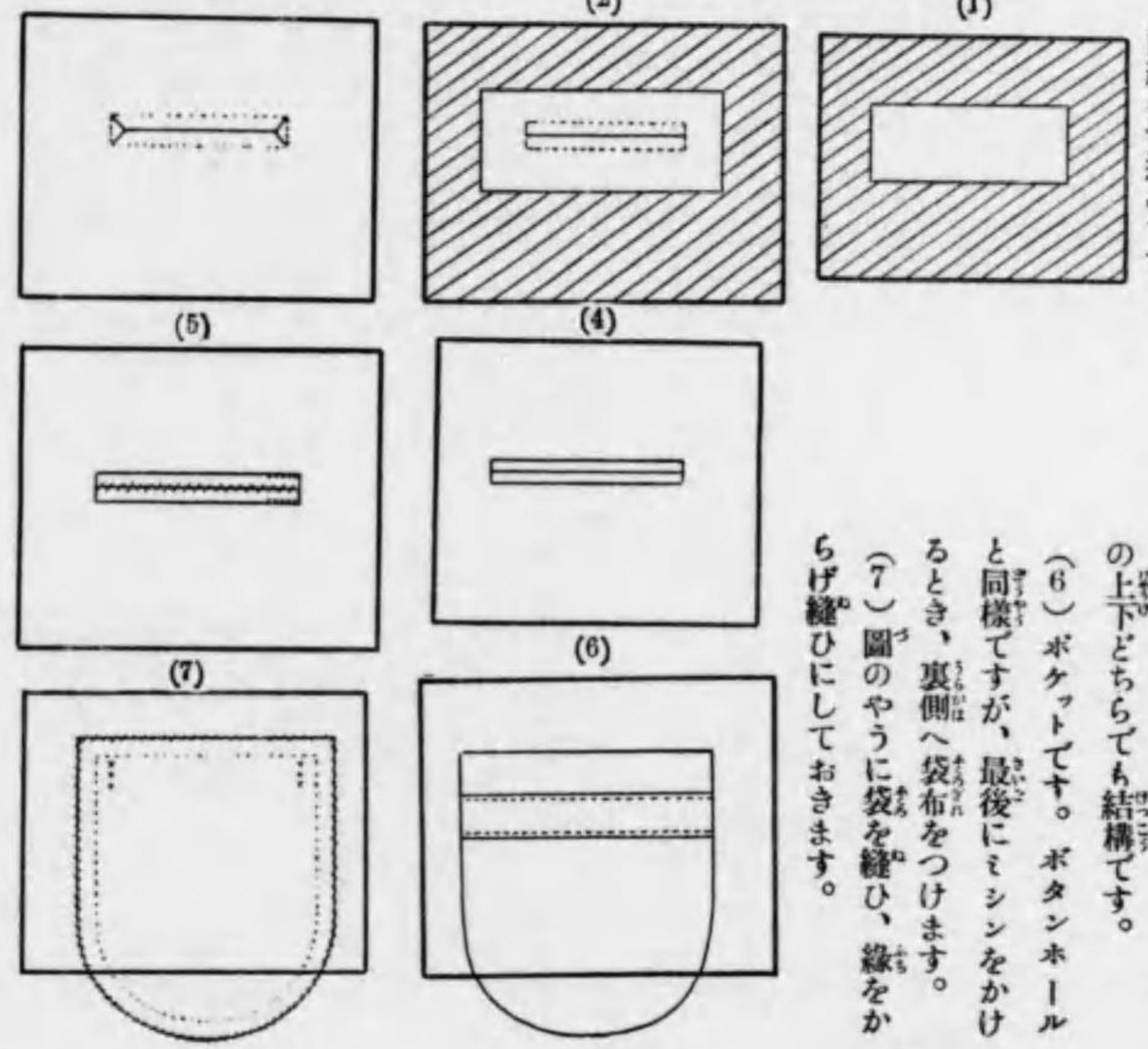
(4) 切り込んだ縫目を鋸で割り、両方を細い線にしますが、その両端は、最初に裏に折込みます。

(5) ボタンホール出来上りです。寸法は言ふまでもなく、釦に合せて大きくも小さくもします。縫目に表からミシンをかけます。これは、縫目の上下どちらでも結構です。

(6) ポケットです。ボタンホールと同様ですが、最後にミシンをかけるとき、裏側へ袋布をつけます。

(7) 圖のやうに袋を縫ひ、縁をからげ縫ひにしておきます。

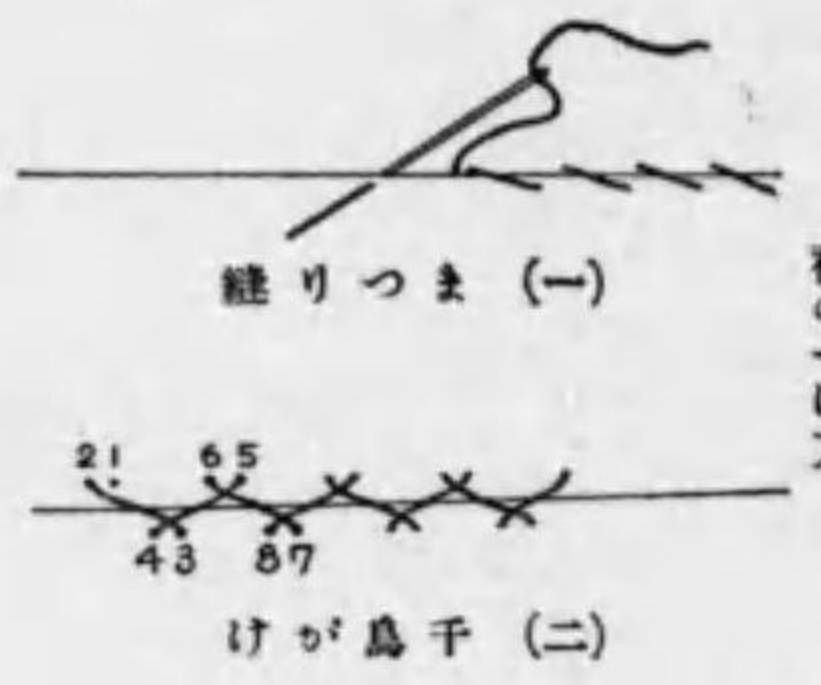
方り作のルーホンタボとトックボ (圖七十第)



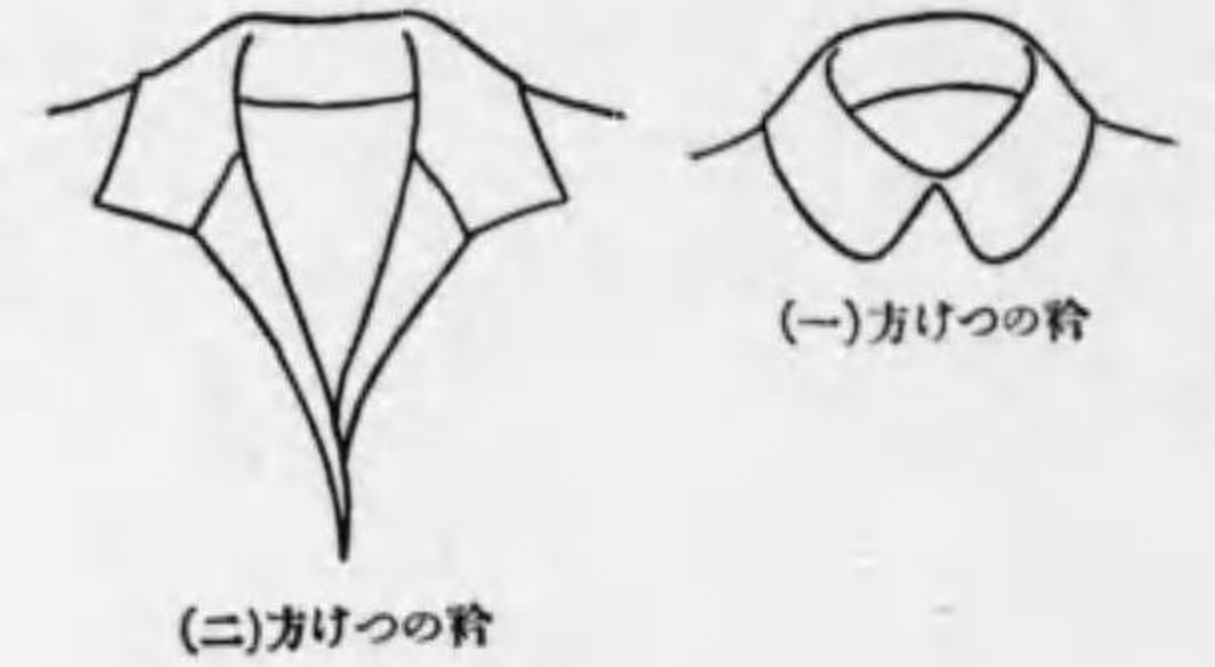
(8) 裾の折込み方と衿のつけ方

裾の折込み方 裾の折込みは、木綿物はミシンをかけることもありません。

(第十八圖) 裾の折り込みと衿のつけ方



型紙の伸縮法



すが、手でまつ、た方が上等です。また毛織物で厚いときは、三つ折にせず、(2)のやうに二つ折で千鳥縫にします。まつり縫は、表に針目が見えぬやう少しづつ、すくひ、千鳥縫は左から右に向つていたします。

衿のつけ方 (一) まづ豫め縫つてある衿を、衿割に合せて表の方にあて、膝をして、その上に斜布をあて、つまり、身頃を衿と斜布で挟んで縫ひます。そして斜布の端を裏にまつりつけます。衿の方を、後の二寸くらゐのところまで少し伸し加減にしますから、自然身頃の方を絞めることとなります。かうすると、衿の後が立つやうになります。

衿のつけ方 (二) この衿は、裏の方に衿の表を合せて縫ひつけ、表の方でまつりつけます。

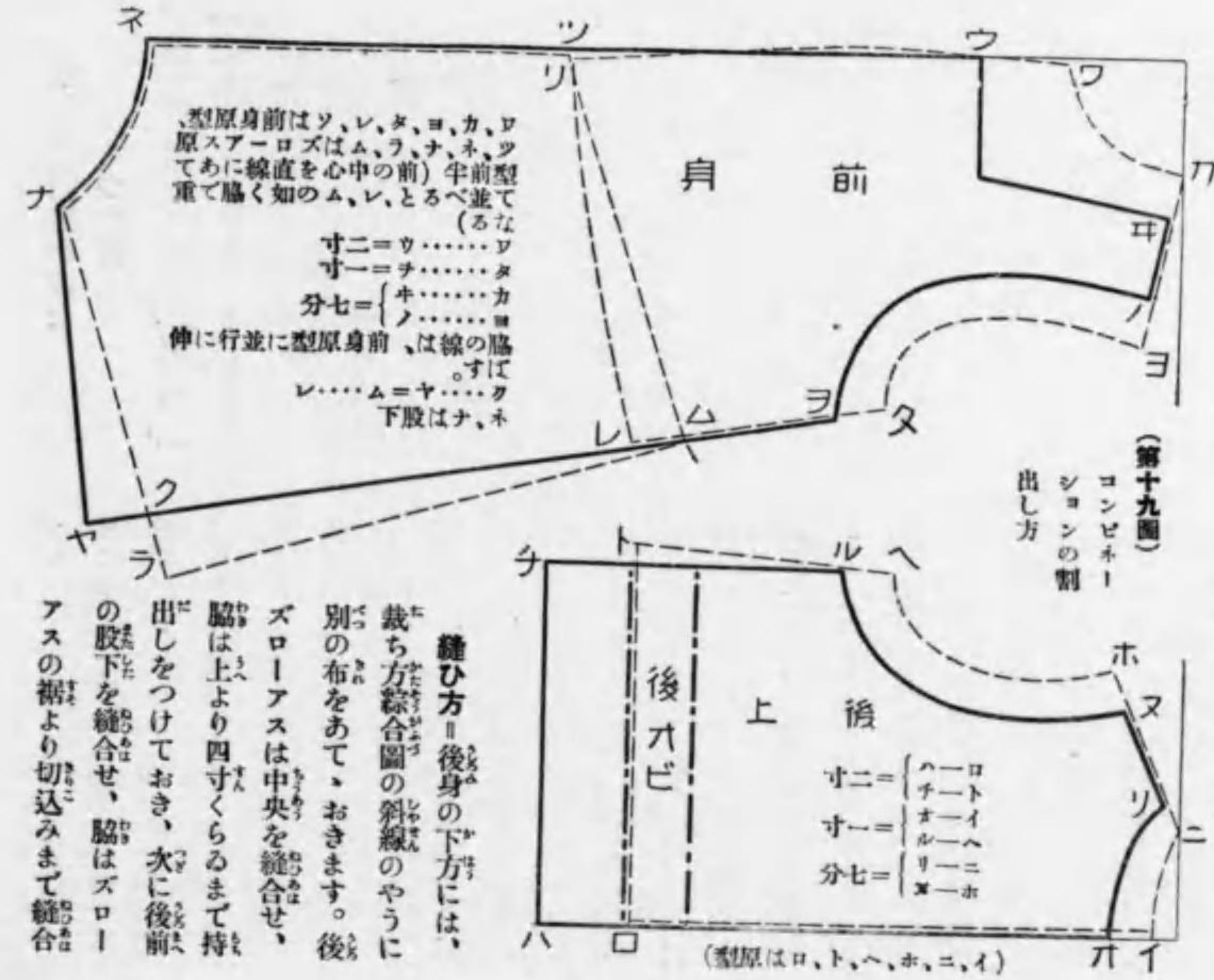
袖附 裁つときに、原型の切込みをよく標をつけておき、それを合せてつけ、あとはほぐれぬやうに、かち上げておきます。袖の右左を間違はぬやう、注意いたします。



(四) 下着類の仕立方

(1) コンビネーション

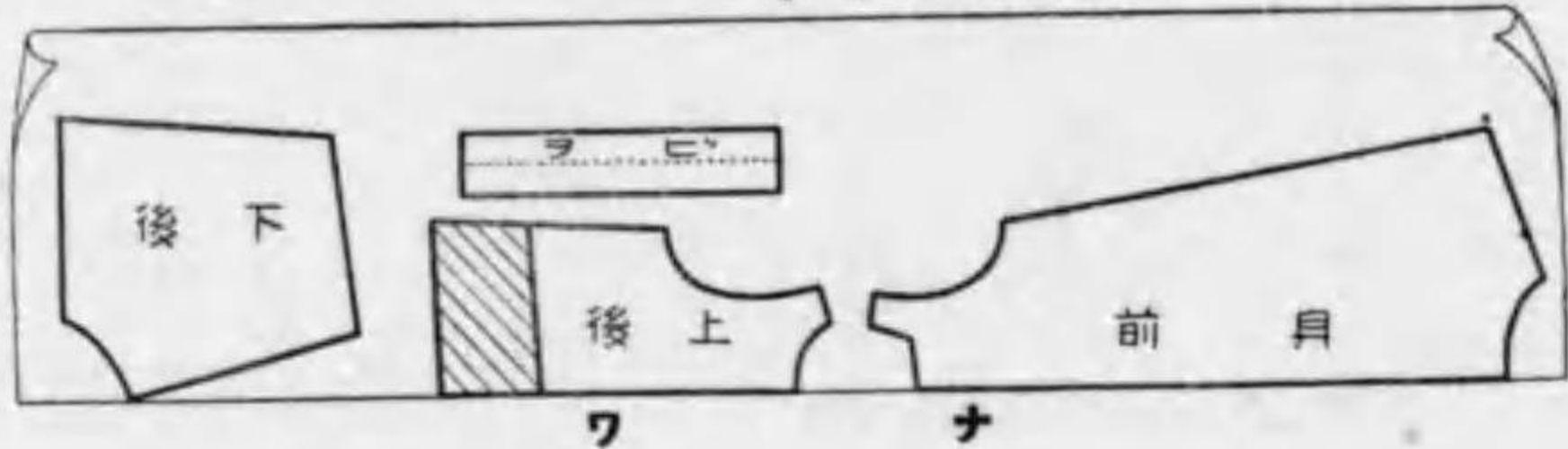
裁ち方は「ズロリアス」と「ウェ  
イスト」の原型から作ります。



(第二十圖) 割出し方



(圖一十二第) 約りな重の後、と倍二の丈たへ加を代壁に丈身 布用。のもたへ加を寸三



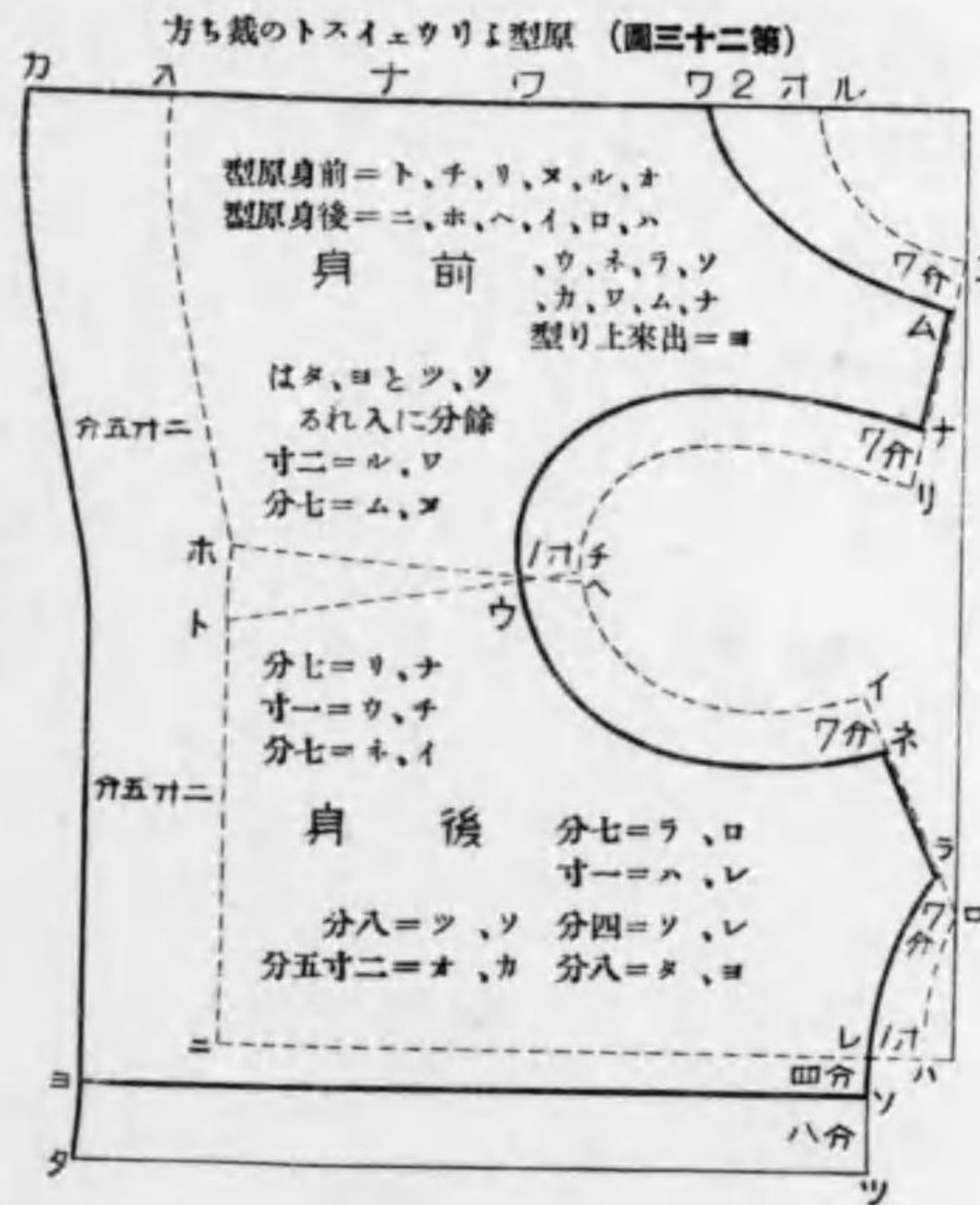
せ、後ズロリアスの上に帯をつけて、その両端と中央に釦孔を作ります。裾に細いレース等をつけ、袷刺と袖刺とに斜布をつけ、後身の中央と両端(脇)の縫目のところに釦をつけて、仕上げます。後ズロリアスに帯をつけるときに、両脇の口から二寸くらゐのところまでギャダーをします。衿刺は圖のやうに大きく明けて、紐通しのレースをつけ、リボン等で少し絞るか、或は前に持出し見返しをつけてもよろしうございます。

(第二十二圖) コンビネーションの出来上り



下着類の仕立方

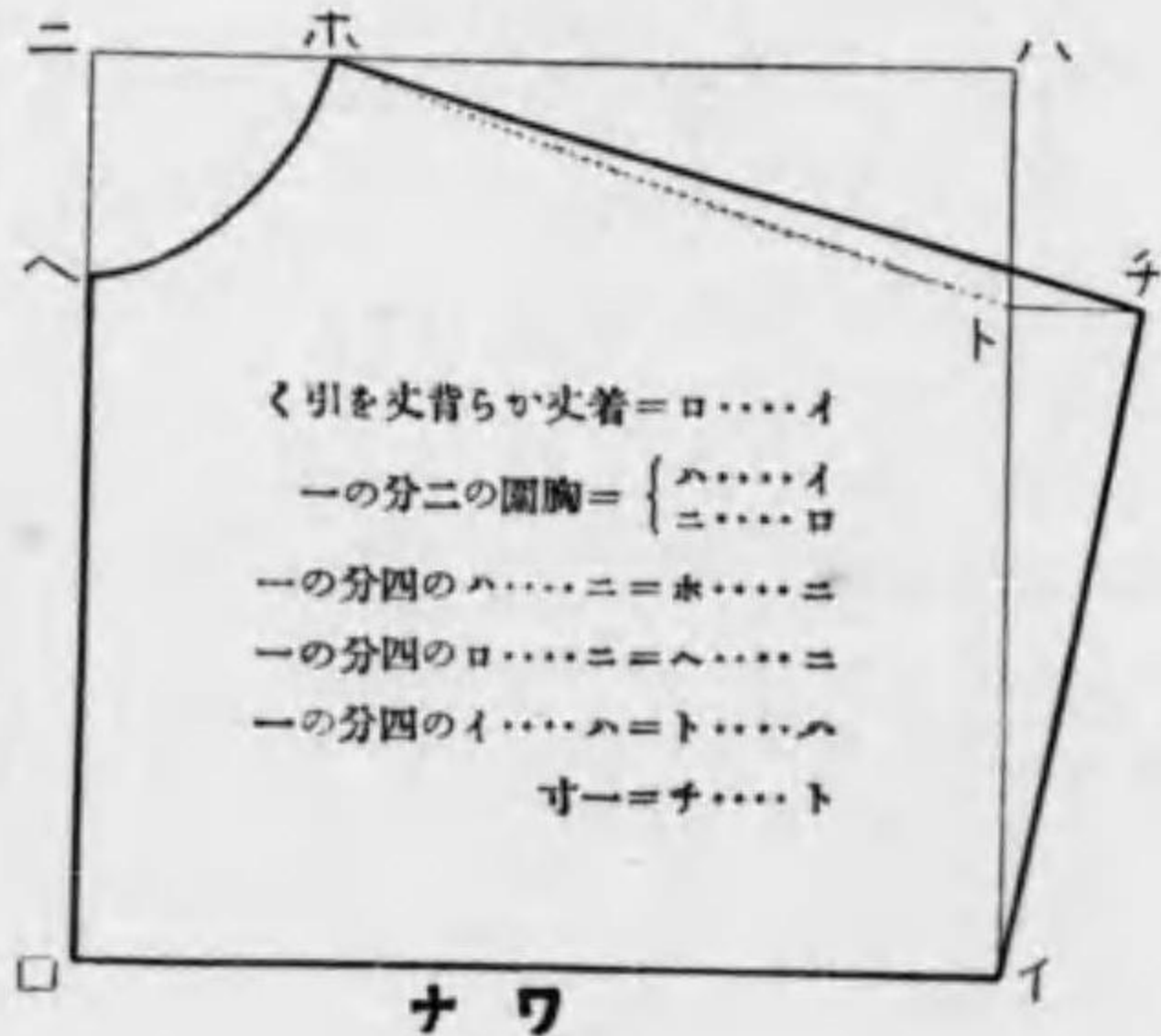
(2) ウェイストとスローアス



り上 來 出 ト ス イ ェ ウ (圖四十二第)

方ち裁のスア-ロズ (圖五十二第)

身 前 = ロ、ヘ、ホ、ト、イ  
 身 後 = ロ、ヘ、ホ、チ、イ



ウェイストの帯に釦をつけ、それにスローアスを吊ります。

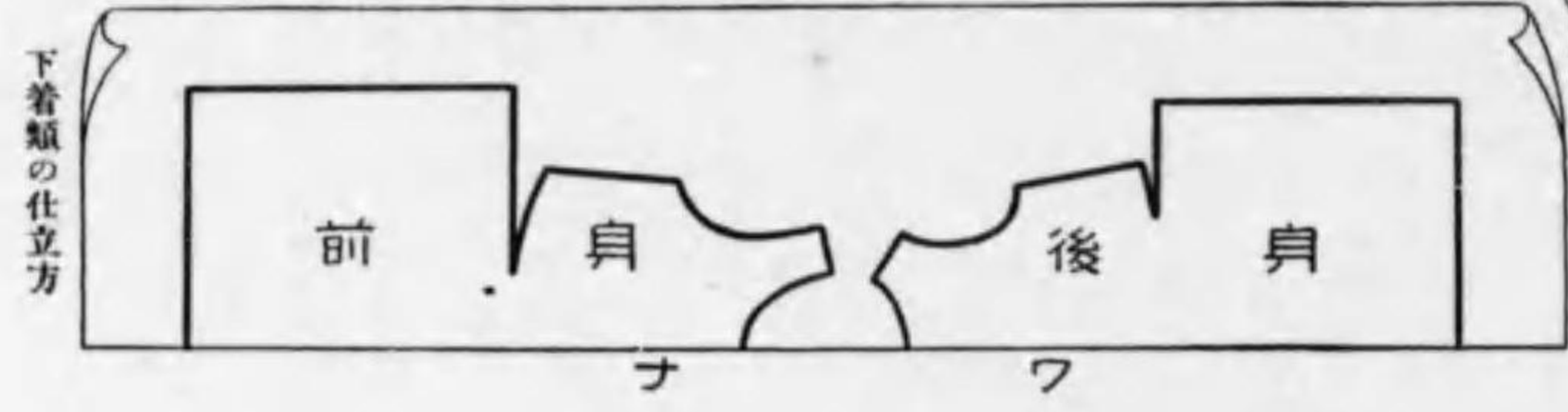
ズローアス縫ひ方 この形を二枚(右足と左足)裁ち、まづ脇(第二十五圖)でツナになつてゐるところに、上より四寸くらの切込みを入れ、前には持出し、後には見返しをつけます。次に前中央(ホ)……(ト)、後中央(ホ)……(チ)を、各縫合せ、次に股下(ホ)……(ヘ)を縫合せます。最後に、腹圍に寸法を合せて、帯をつけ、そして圖のやうに釦孔をか

下着類の仕立方

がります。

ウェイスト縫ひ方 ツからヨまで、後の餘分に裁つてある布を、裏に折返して、ミシンをかけ、凡そ原型の裾になるところ(第二十三圖のオ、ホ、ト、ニ)へ、幅二寸くらの布を、横に縫ひつけます。次に肩を合せ、袖割と袷割に斜布の見返しをつけます。そして次に、横につけた布の上に釦をつけ、これを仕上げます。

倍二、のたへ加をみ込折の裾及び代縫の肩各に丈身 幅尺二布用 (圖七十二第)

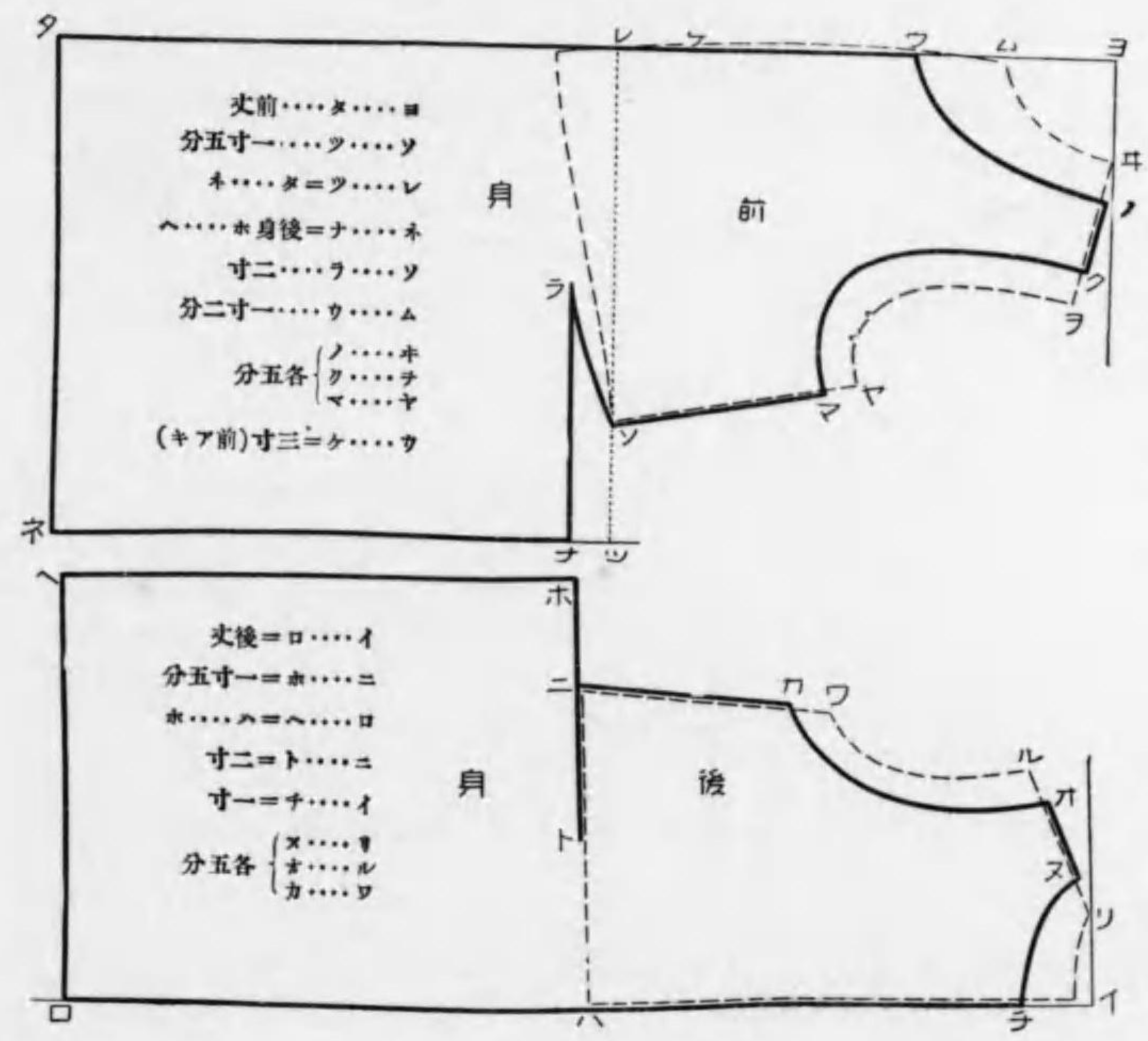


(圖八十二第) り上來出ズーミエシ

これは、七八歳標準の裁ち方(後丈一尺四寸、前丈一尺四寸五分)です。  
併し、九歳でも、十歳でも、或は十三、四歳でも、原型より型紙の作り方は、皆な同様の方法であります。  
縫ひ方 Ⅱ まづ胸の脇を切込みまで、袋縫に縫ひます。  
次にスカートの脇を縫ひ、(袋縫)ホ……ト、ラ……ナの切込みを、身と同じ寸法に縫ひ縮めて、身とスカートを縫合せます。  
次に裾の折込みをなし、前身の上の中央に、圖のやうに持出しと見返しをつけ、袖割と袴割に斜布をつけて、仕上げます。

(3) シュミーズの作り方(一)

(第二十六圖) 原型より型紙の作り方



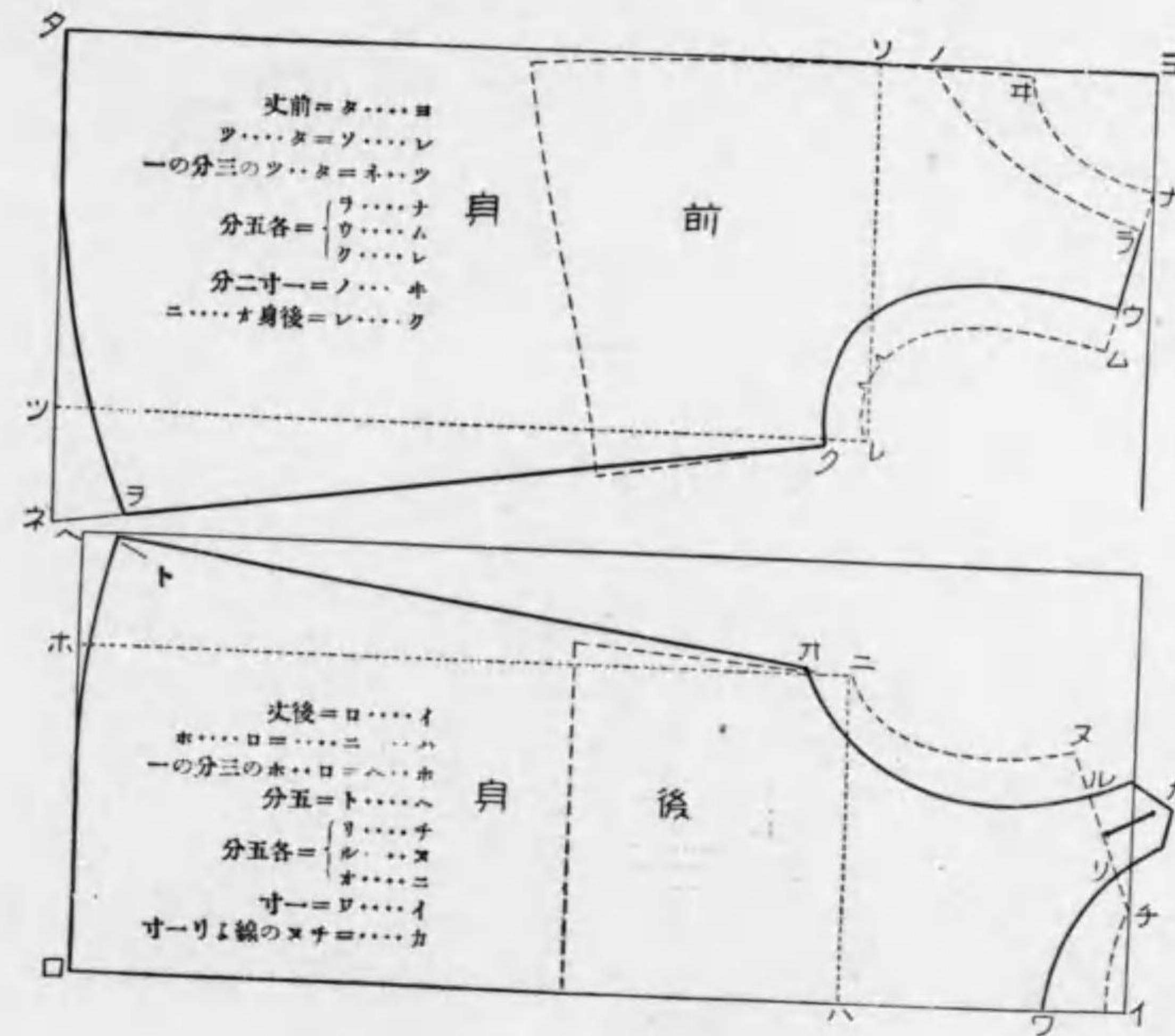
丈前……タ……ヨ  
分五寸一……ツ……ソ  
ホ……タニツ……レ  
へ……ホ身後ニナ……ネ  
寸二……ラ……ソ  
分二寸一……ウ……ム  
分五各 { ノ……ホ  
          ク……チ  
          マ……ヤ  
(キア前)寸三ニケ……ウ

丈後＝ロ……イ  
分五寸一＝ホ……ニ  
ホ……ハ＝ヘ……ロ  
寸二＝ト……ニ  
寸一＝チ……イ  
分五各 { ヌ……キ  
          オ……ル  
          カ……ワ

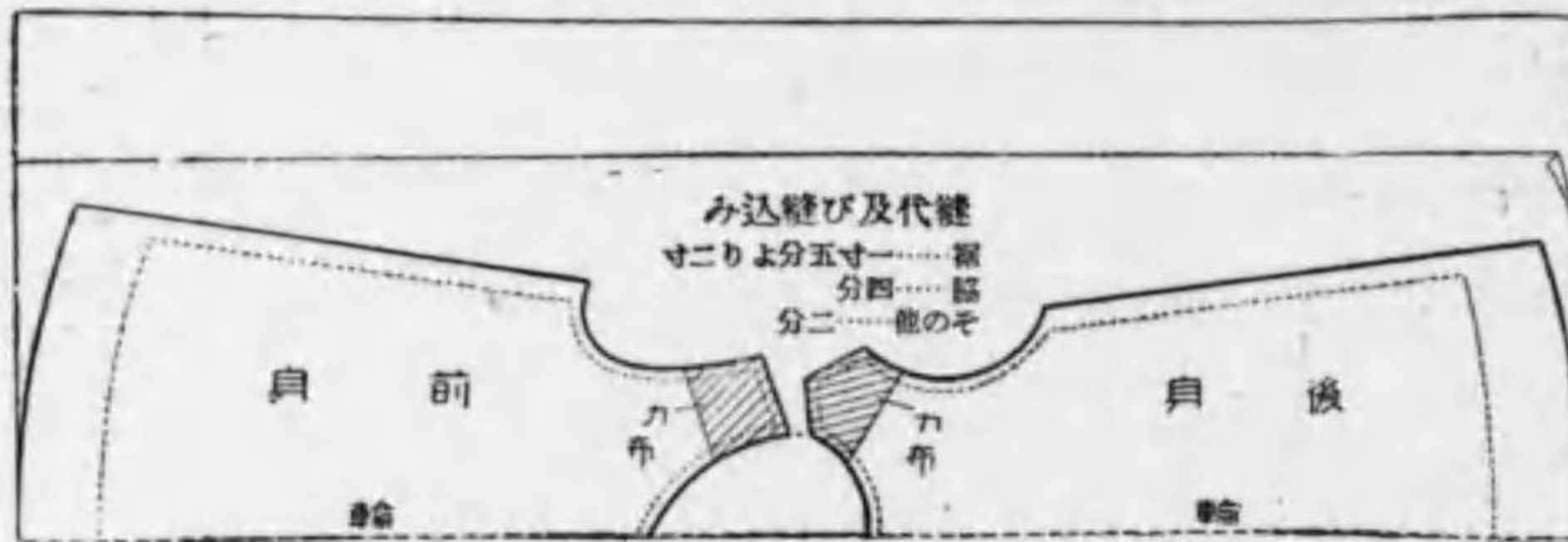
(4) シミーズの作り方(二)

四五歳用は、前丈一尺三寸四分、後丈一尺三寸です。

(第二十九圖) 原型より製紙の作り方



六七歳より十一、二歳用も、原型より製紙の作り方は、各同様の割合で結構です。



(線切裁は線太、紙型は線点) (寸二尺三布用) 方ち裁ので幅ルネ (圖一十三第)



り上束出のズーミュシ (圖十三第)

六七歳より十一、二歳用も裁ち方は同じです。用布は、各丈に上下の縫代約二寸を加へた丈の二倍を要します。裾にレース等をつけるときはそれだけ短く裁ちます。

縫ひ方りまづ、両脇を縫ひ、裾を折込みます。(レースをつけるときは、先につけておきます。) 肩に力布をつけ、(裁ち方圖の斜線の部分) 衿割と袖割に斜切をつけて、縁を取ります。

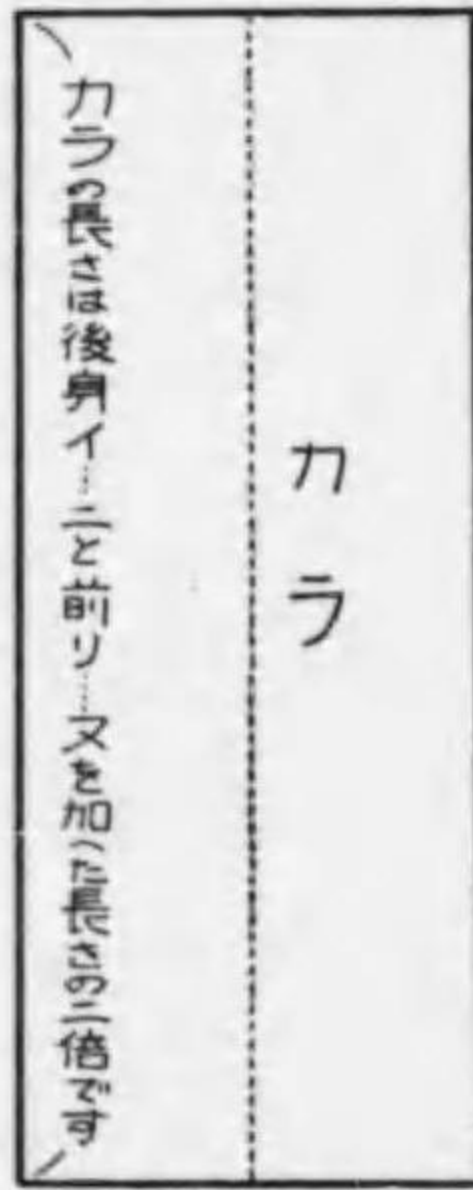
最後に、後肩に釦孔をかゝつてから、前肩に釦をつけますと、出来上ります。

二三歳より四五歳用のドレス

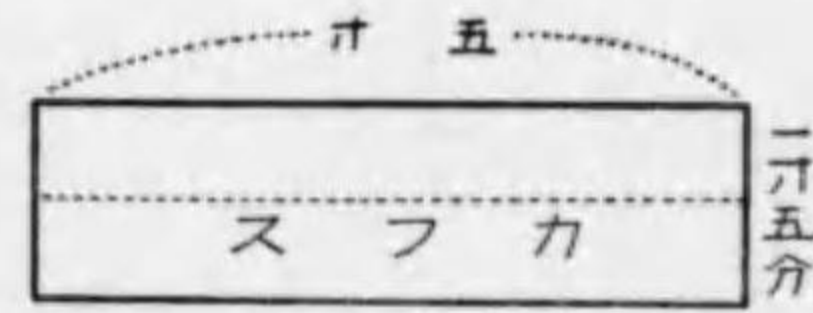


三一

り上來出のスレド歳三二 (圖四十三第)



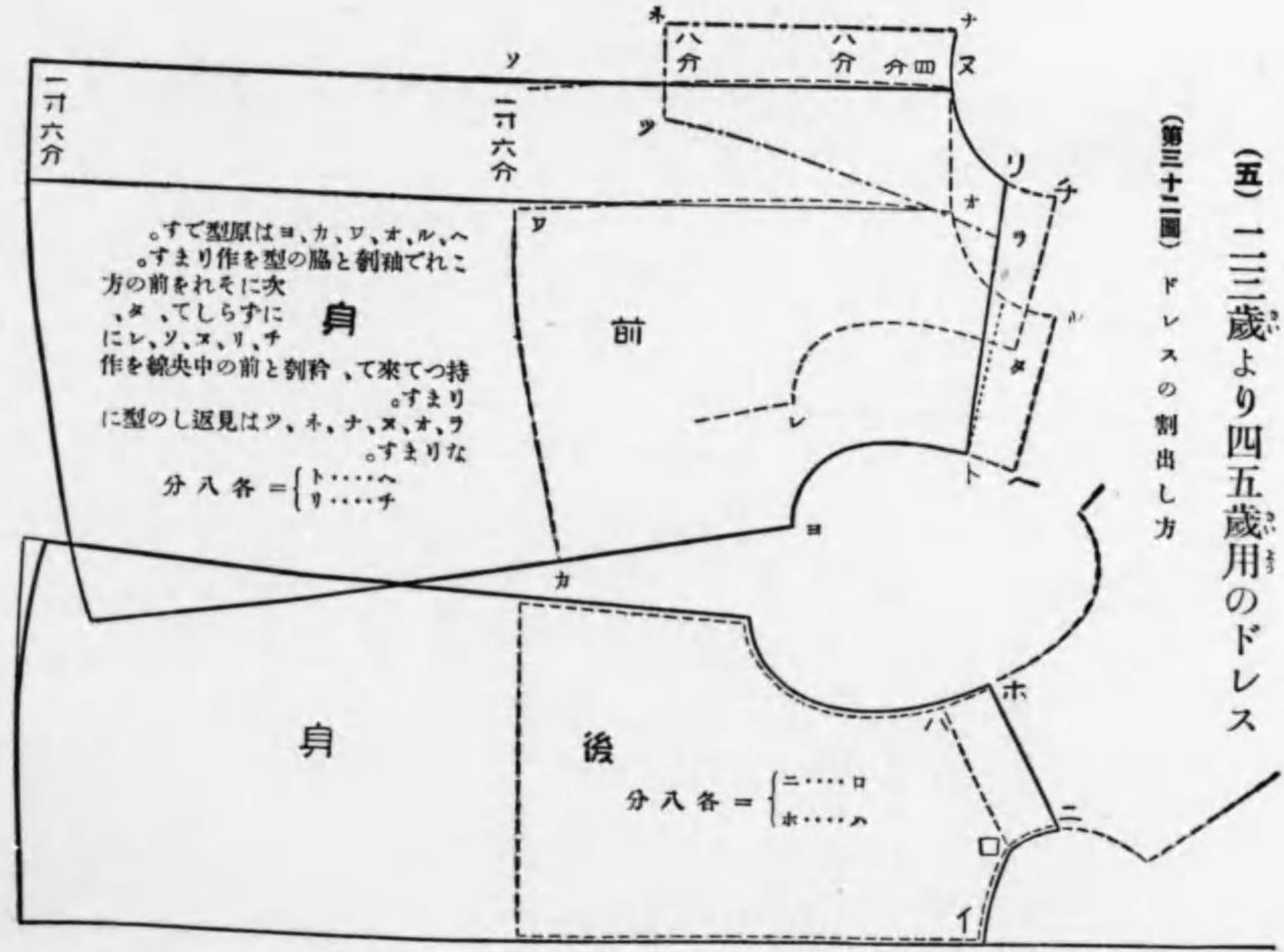
(第三十三圖) 袖とカフスとカラーの裁ち方



婦人子供服の作り方

(五) 二三歳より四五歳用のドレス

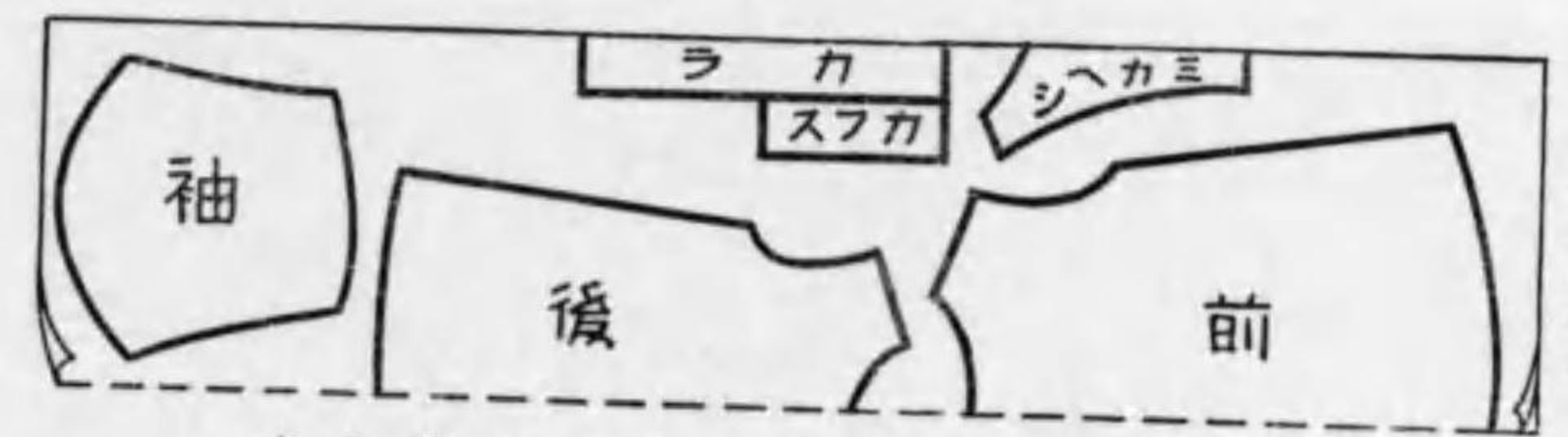
(第三十二圖) ドレスの割出し方



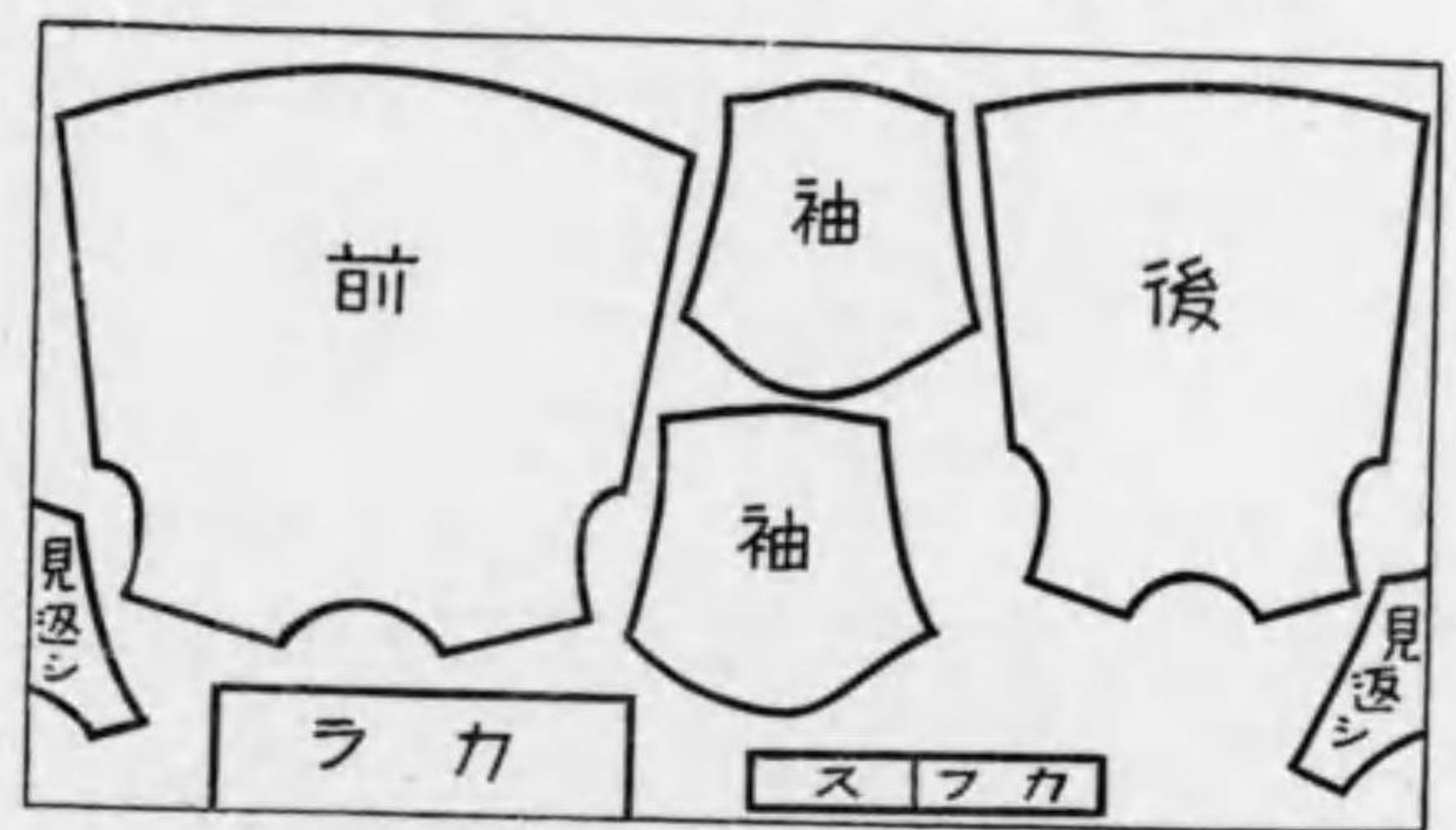
三〇

婦人子供服の作り方

注意 Ⅱ型紙を裁つとき、圖のやうに肩の縫目が少し前に廻つてゐますから、後身に前の原型の分を八分ほど足して裁ち、前は反對に、それだけ原型よりも減じます。前の裳を、一本一分につまんで縫ふとすれば、八本で一丈六分廣く、裁つておきま



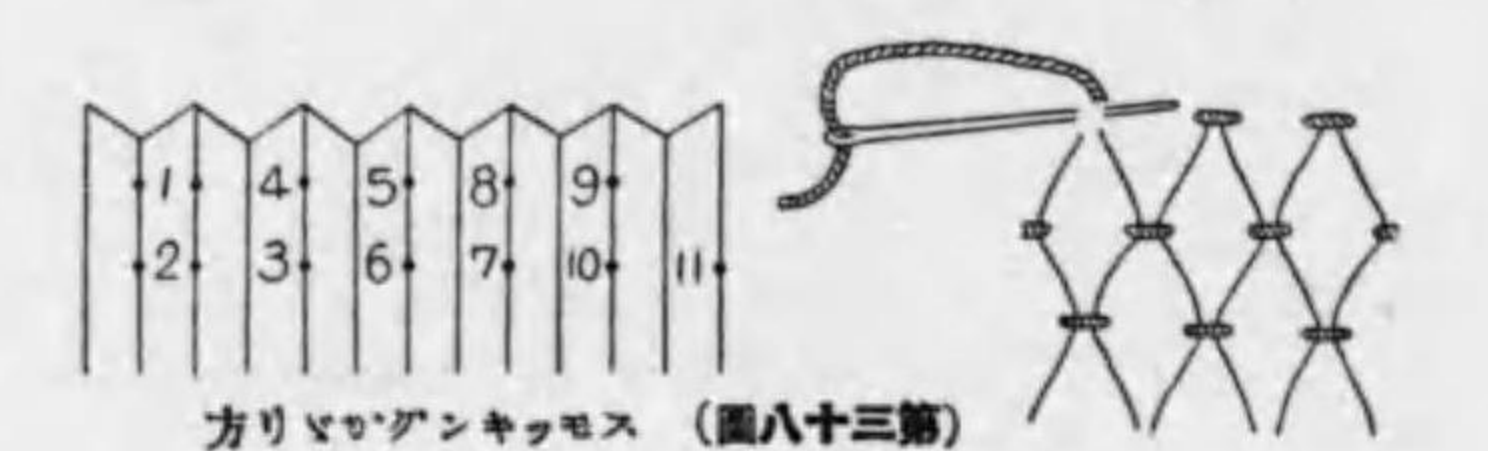
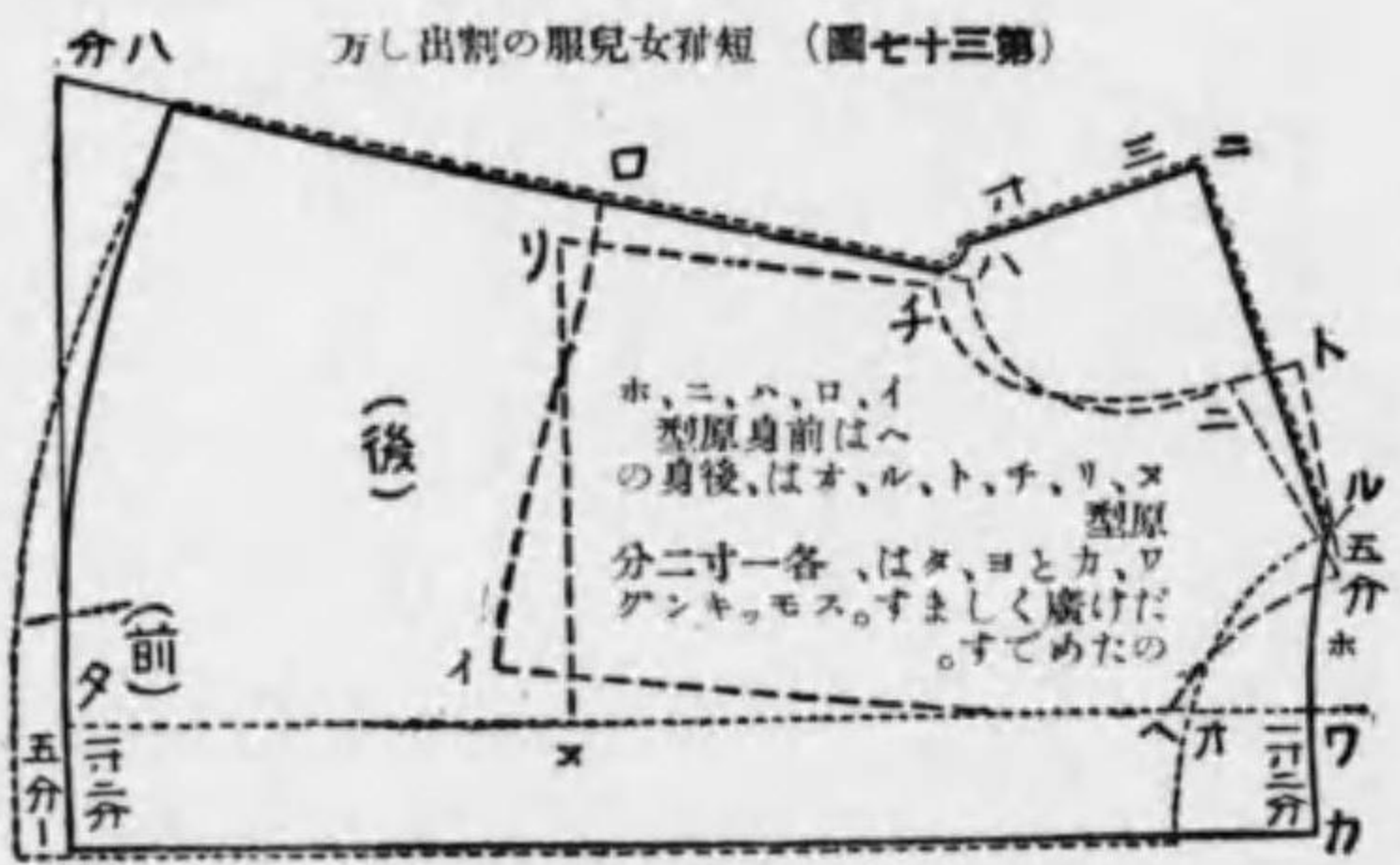
方ち裁のて尺四幅尺二 (圖五十三第)



方ち裁のて尺二幅寸六尺三 (圖六十三第)

す。衿の長さは、裁つた衿割を計つて、合せて裁ちます。  
縫ひ方Ⅱ袖は普通に仕上げます。前身に裳を取り、ミシンをかけて見返しをつけます。肩と脇を縫ひ、裾をまつり、衿をつけます。衿は兩端を縫ひ、身頃の裏よりつけて、表で目立たぬやうに細くくけます。

(六) 短袖女兒服の仕立方



方リマカグンキッモス (圖八十三第)

裁ち方Ⅰ原型より型紙裁ち方はキモノスリーブの項を御覽ください。  
縫ひ方Ⅰまづ、前身と後身にスモッキング(飾りかぶり)をいたします。脇と肩とを縫ひ、袖口と袴割に斜布

で、細い線を取ります。  
スモッキングかぶり方Ⅰスモッキングをする布の場所を三分幅で縦に折目をつけ、横にも三分に標をつけて、第三十八圖のやうにとめます。

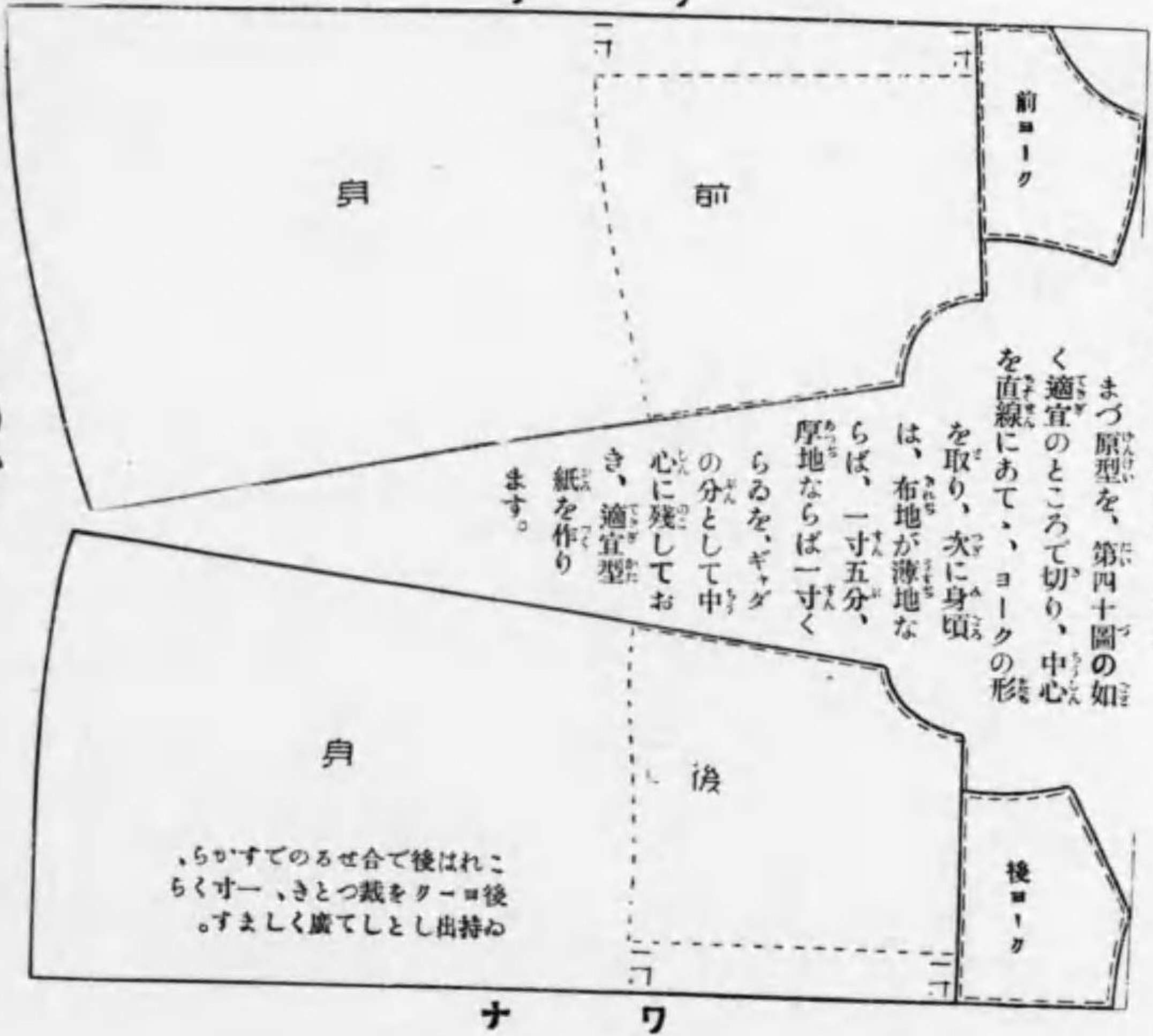


服女少 (圖九十三第) 上出来出の服兒女は或

方し出割の服兒女附ターヨ (圖十四第)



(圖一十四第) 兒女服出上り



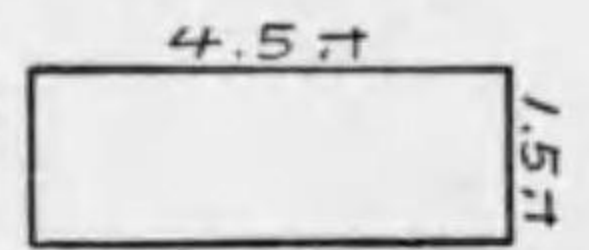
婦人子供服の作り方  
(七) ヨーク附女兒服の仕立方

まづ原型を、第四十圖の如く適宜のところて切り、中心を直線にあて、ヨークの形を取り、次に身頃は、布地が薄地ならば、一寸五分、厚地ならば一寸くらゐを、ギダの分として中心に残しておき、適宜型紙を作り紙を作ります。

はこれ後合せのてのすから、後ターヨを裁き、とす。すましく廣てしし出持ぬ



方ち裁の袖 (圖二十四第)



フスカ (圖三十四第)

注意：この型は薄い布地で作るときは、前後に取るギダのために、原型より一寸五分くらゐ、廣く裁ちます。厚地の場合は一寸くらゐの餘分て結構です。縫ひ方：袖は普通、身頃は、前はスカートの上を、ヨークの幅と同じに縫ひ縮めて合せます。後はスカートの中心を上より三寸切明けて、持出し見返しをつけ、後ヨークも、左は中心より見返しのやうに折込み、右側は中心より五六分を持出して折り、各スカートの上を縫ひ縮めて、ヨークを縫ひつけます。次に肩、脇、裾、袖附は普通でよろしく、衿は斜布で細い縁、或は見返しをつけます。



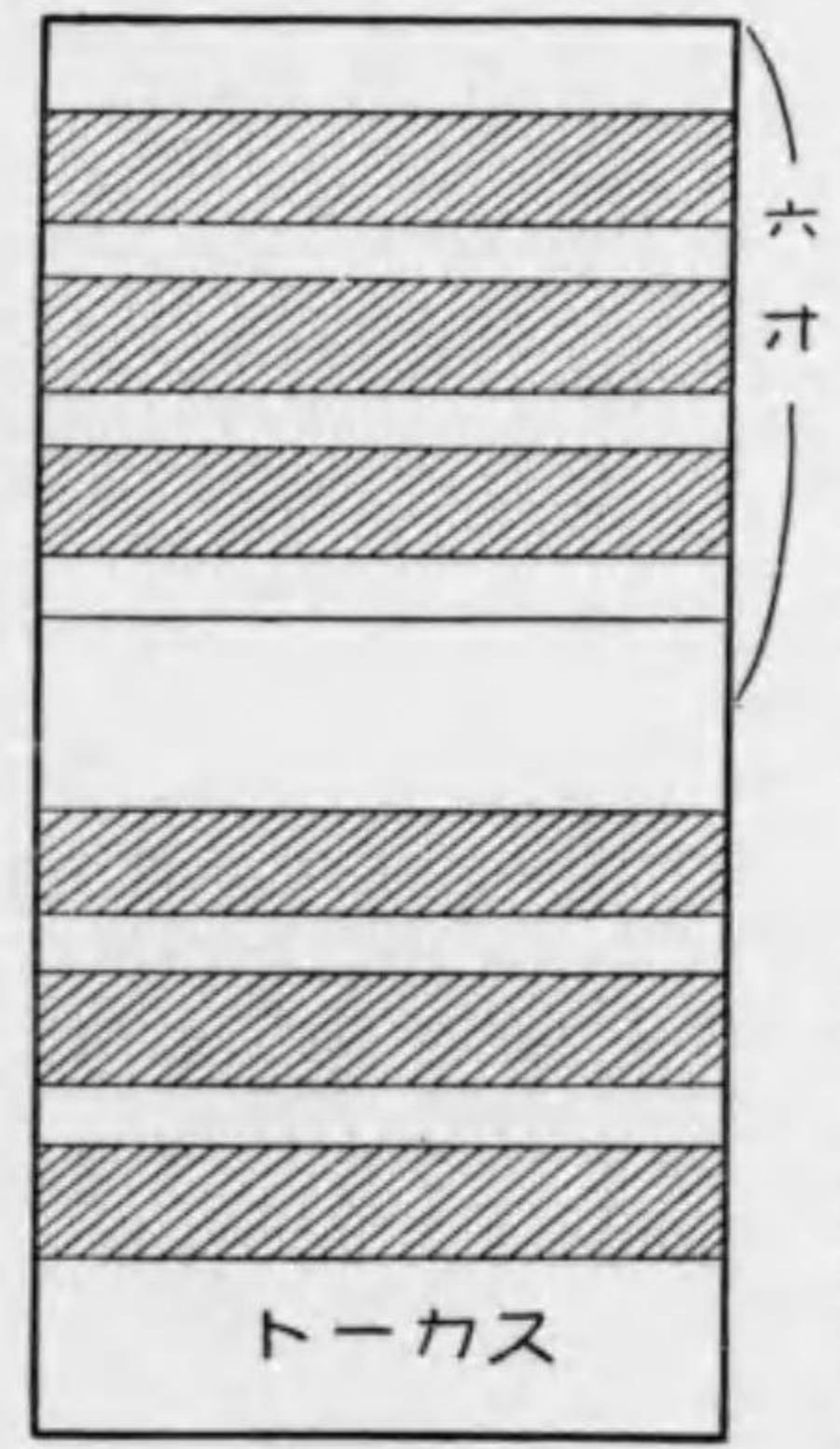
(第四十五圖) 用布二尺幅五尺での裁ち方

ヨーク附女兒服の仕立方

(八) 袖なし女兒服の仕立方

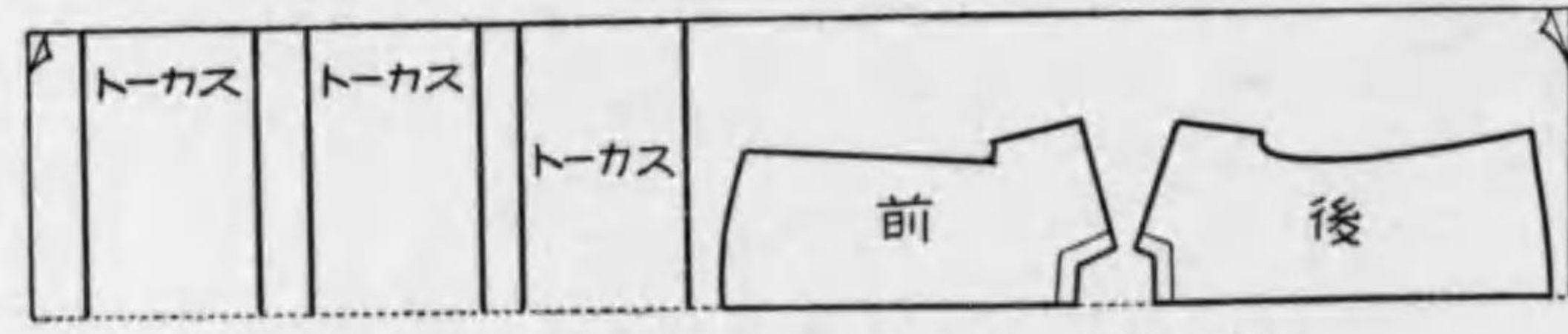
原型より型紙の作り方は、キモノスリーブの項を御参照ください。スカートは、左右に各三本づ、のプリーツ(装)があります。假に五分幅のプリーツとすれば、第四十六圖の斜線の部分、即ち装の下になりますとところが、一寸餘分に布を要します。ゆゑに、左右各六本で六寸、身

頃の裾幅より廣く裁ちます。縫ひ方は、身はまづ前後の衿割に飾りをつけ、肩と脇を縫ひ、袖口を裏に返し、三つ折にしてまつります。衿割を少し大きくいたしますと、頭から着ることができますが、衿割の餘りに大きいのを好まぬときは、左の肩を、前を見返し、後を持出し

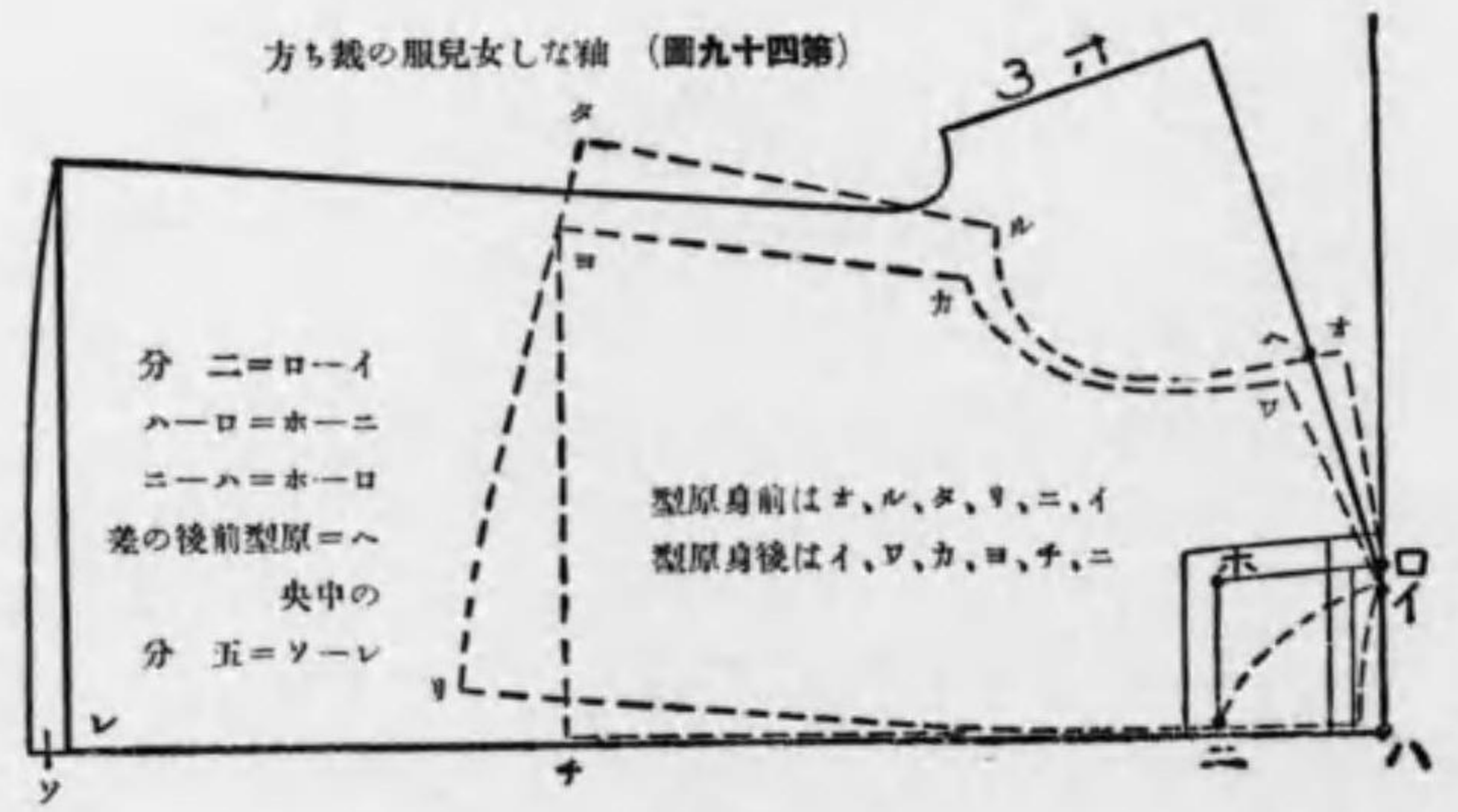


トーカス  
ナワ  
(圖六十四第)  
方し出割のトーカス

(第四十七圖) 袖なし女兒服の出来上り(身長二尺)



方ち裁ので寸五尺五幅尺二布用 (圖八十四第)



方ち裁の服兒女しな袖 (圖九十四第)

分 二=ローイ  
ハ-ロ=ホーニ  
ニ-ハ=ホーロ  
差の後前型原=ハ  
中央の  
分 五=ソーレ

型原身前はオ、ル、タ、リ、ニ、イ  
型原身後はイ、ワ、カ、ロ、チ、ニ

にして明けます。

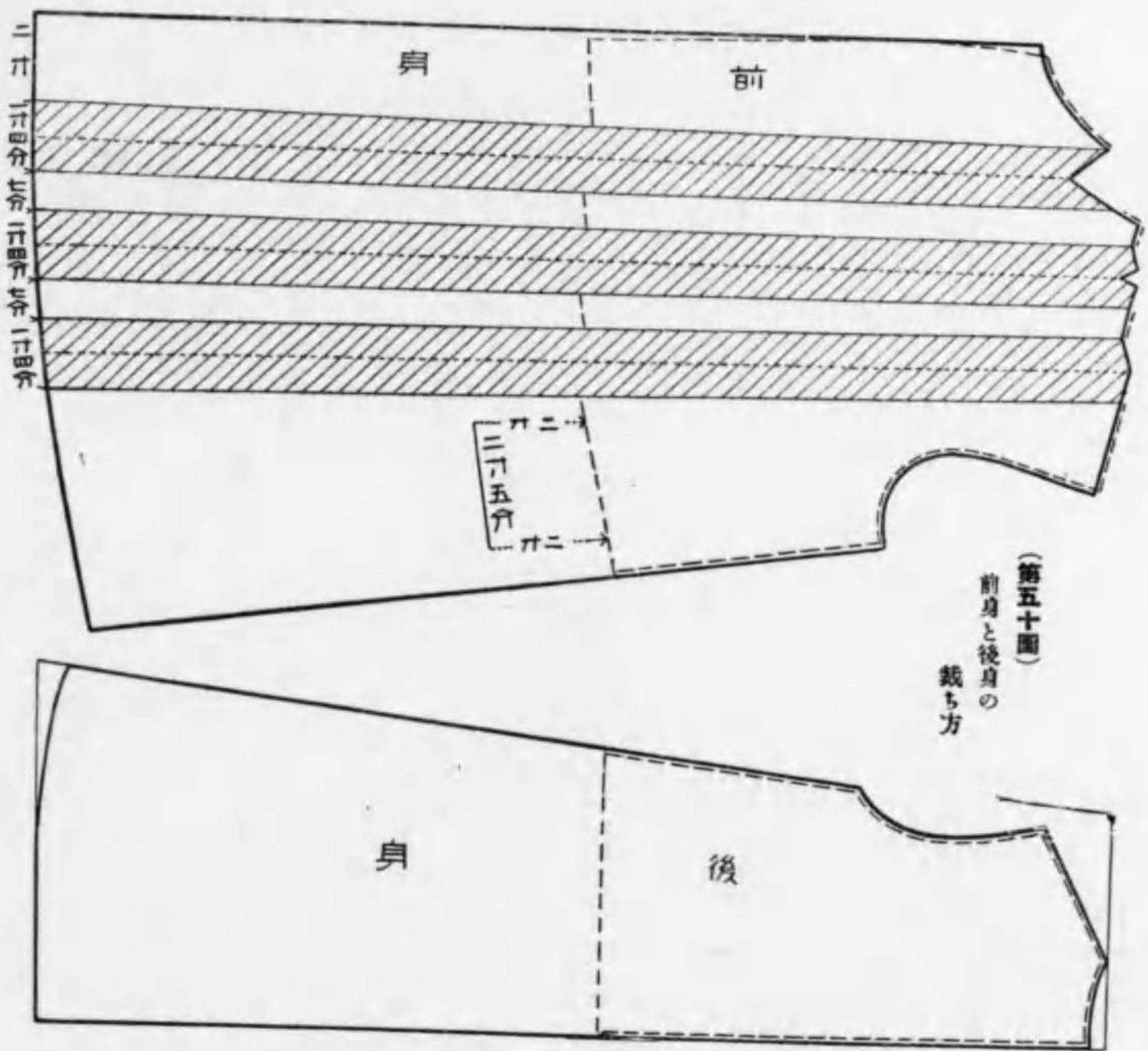
スカートは輪に縫ひ、身頃の裾の寸法に合せて装を取ります。そのとき接目を装の中に折込むやう、注意

袖なし女兒服の仕立方

します。  
飾紐は、恰好よく結んだものを、縫ひつけます。



(九) 衿附女兒服の仕立方



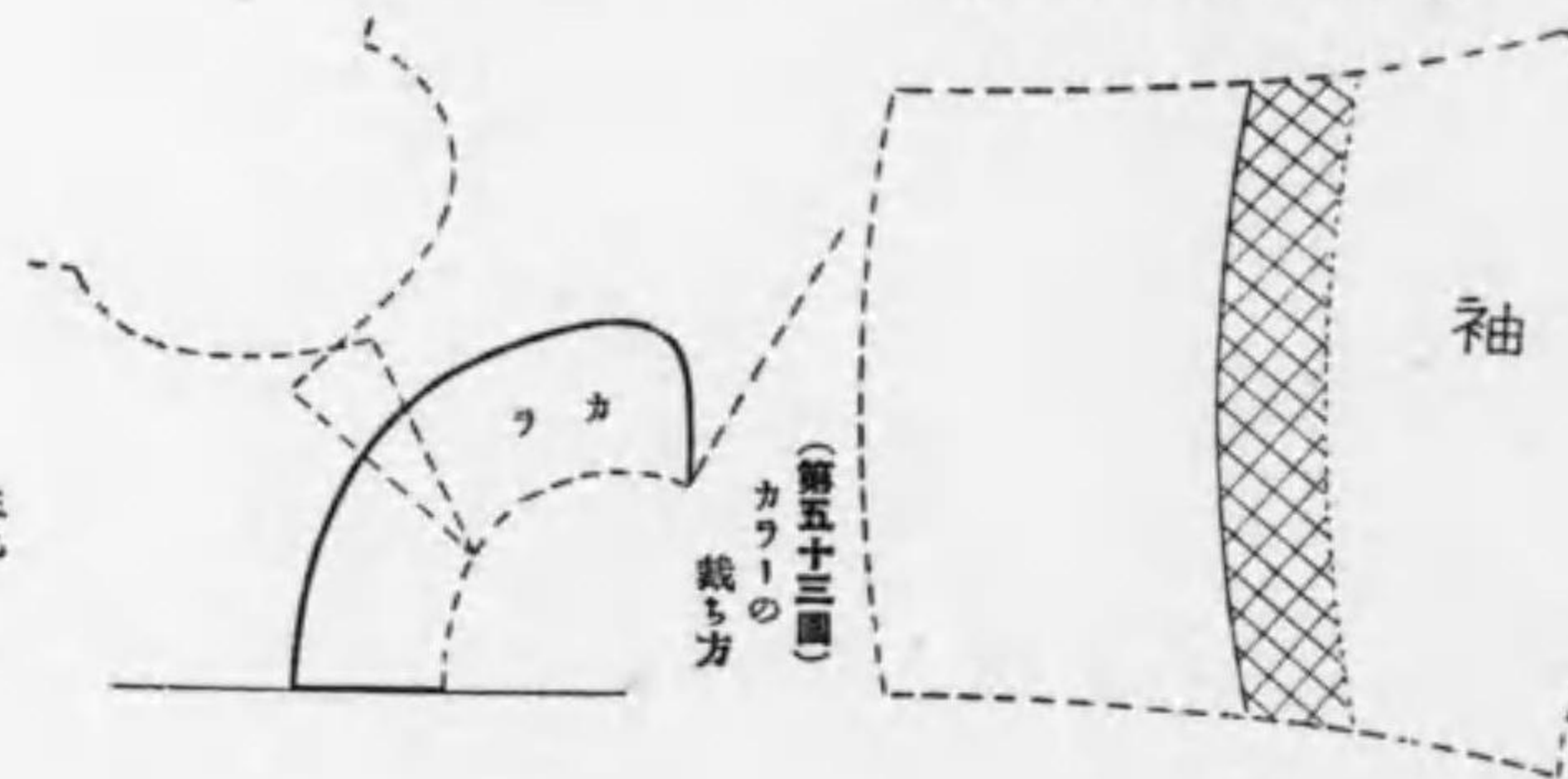
(第五十圖) 女兒服の出来上り



注意し、まづ、型紙を作るとき

に、装の位置をよく見て、前中心より二寸のところを第一の装山と定め、装幅七分として、第一の装の折込みを一寸四分、山を七分、第二の装の折込みを一寸四分と、漸次第三までを、型紙とする紙を折つて作り、その上に原型をおいて裁ちます。用布の幅の広い場合は、前は一枚で取り、足りないときは、どこでも装の下に接目があるやうに考へて、布を取ります。

方ち裁の袖 (圖二十五第)

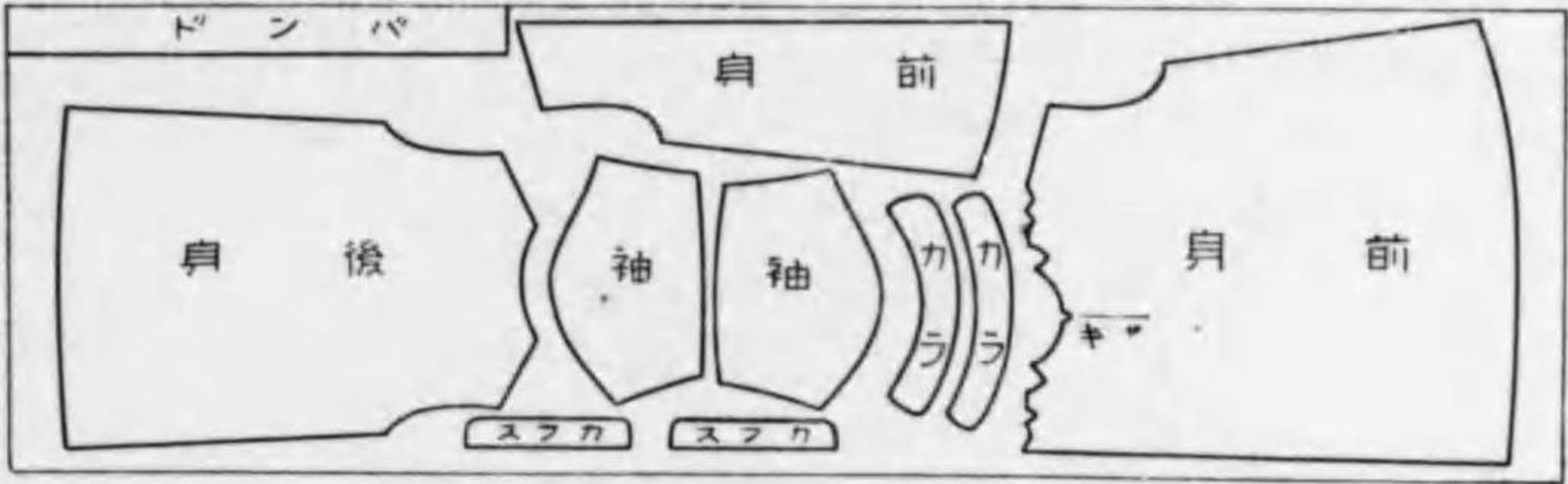


衿附女兒服の仕立方

(第五十四圖)

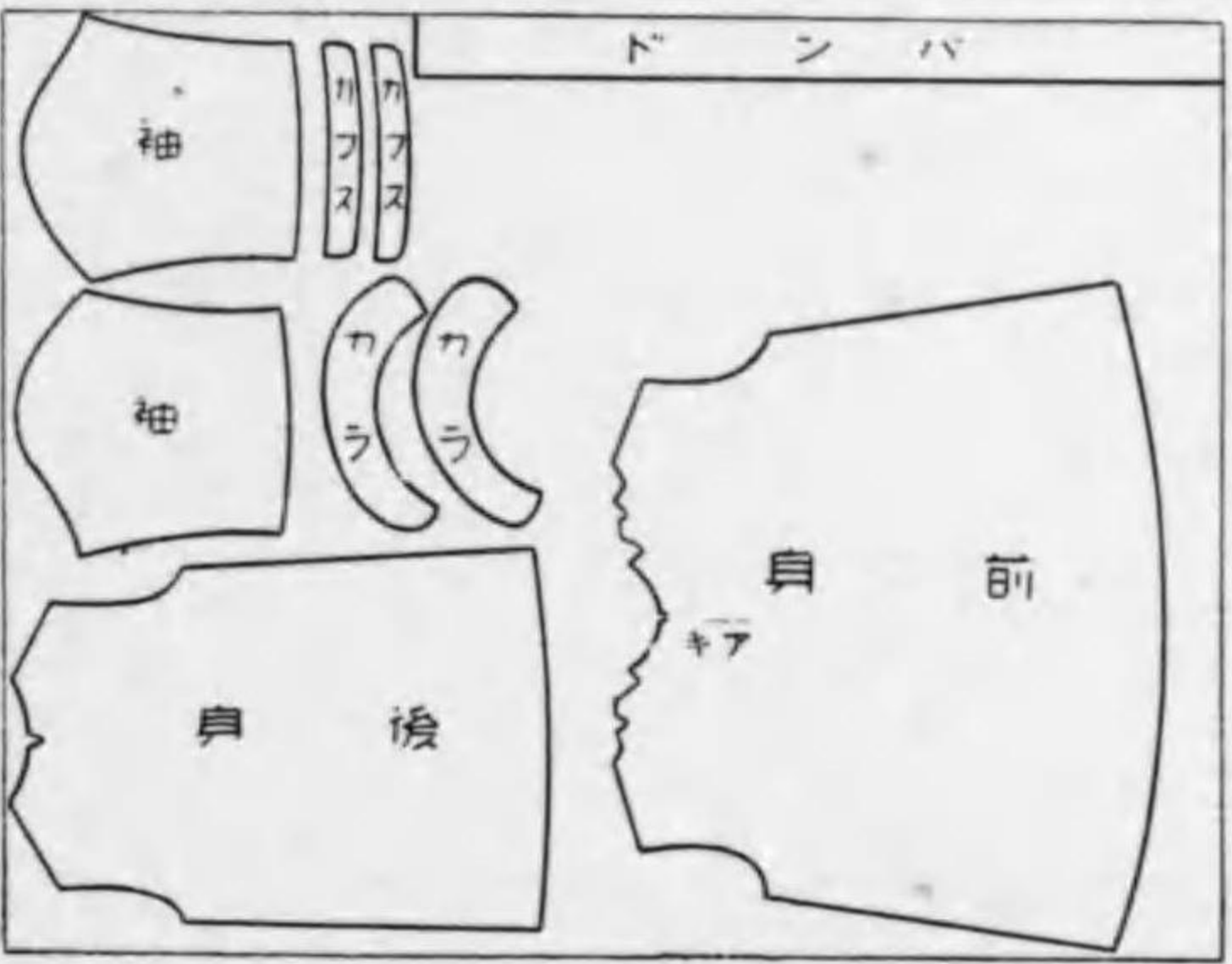
用布二尺幅六尺七寸

での裁ち方



(第五十五圖)

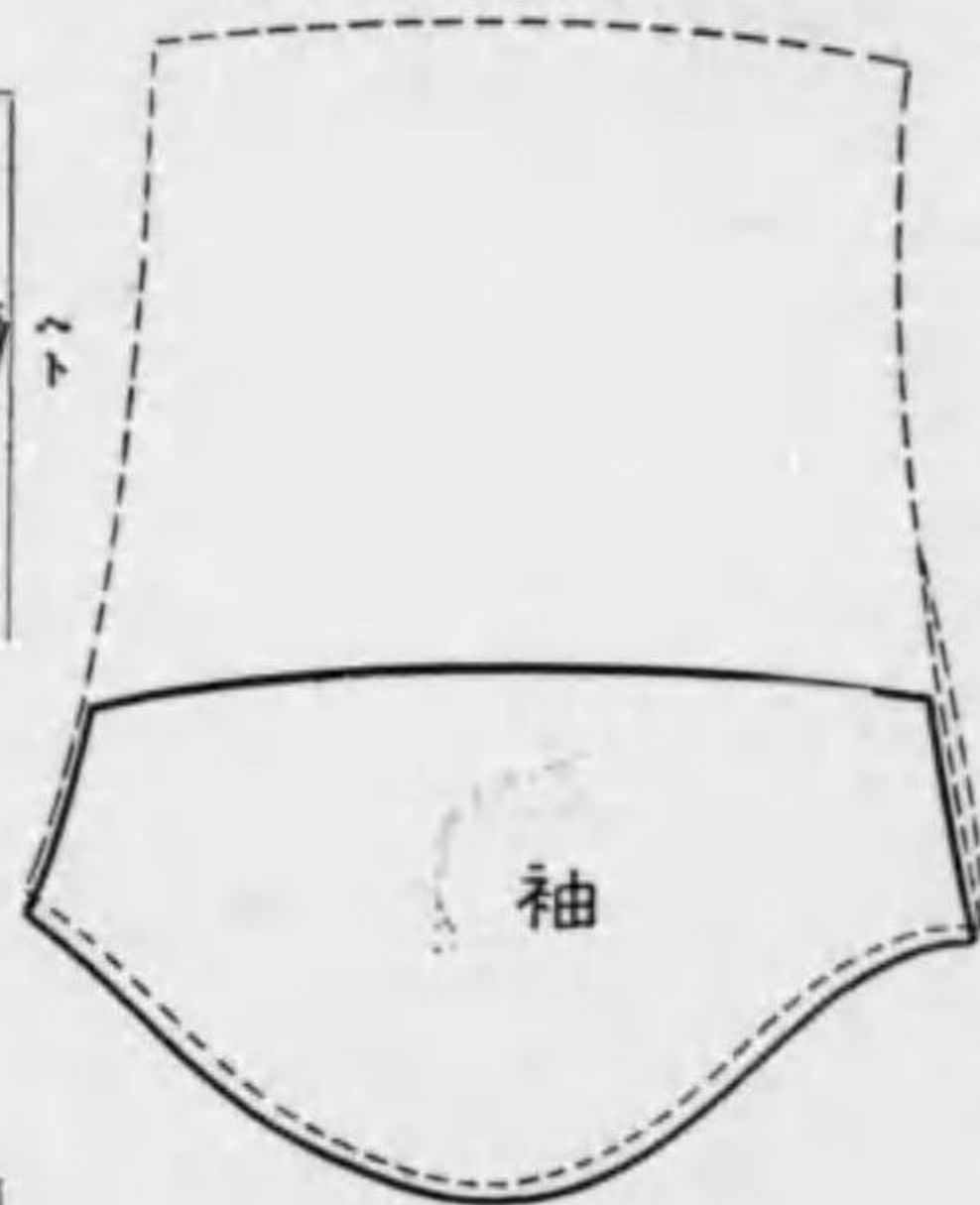
用布三尺六寸幅四尺六寸での裁ち方



縫ひ方 袖、衿、帯は普通に縫ひます。

前身はまづ、中心に明きを、四寸乃至五寸作ります。それから袷を折り、丈の中央部くらゐまで、中から縫つておきます。その他、肩、脇、裾、衿附、袖附等は普通です。

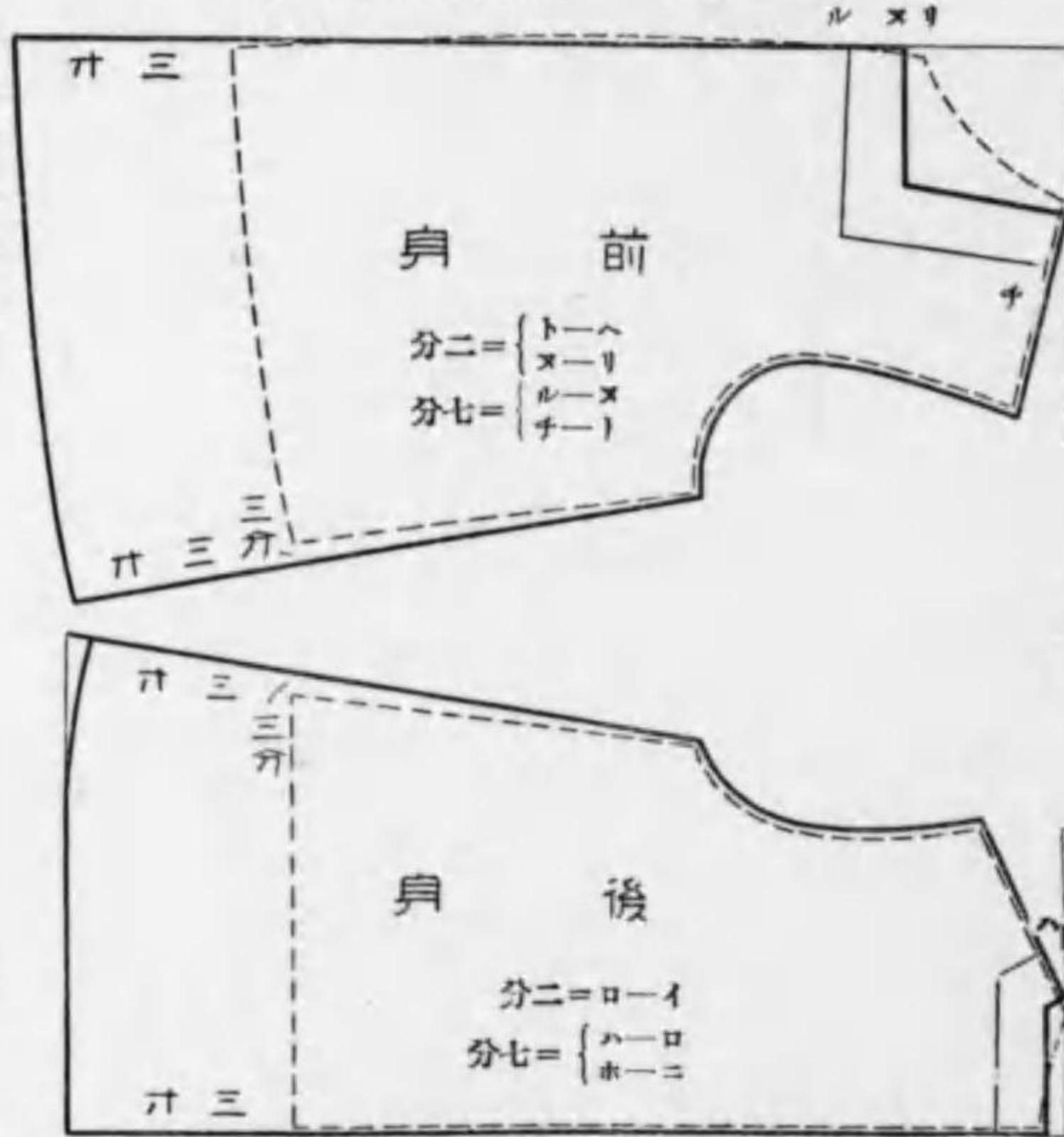
袖の服兒女袖半 (圖六十五第)



(二〇) 半袖女兒服の仕立方

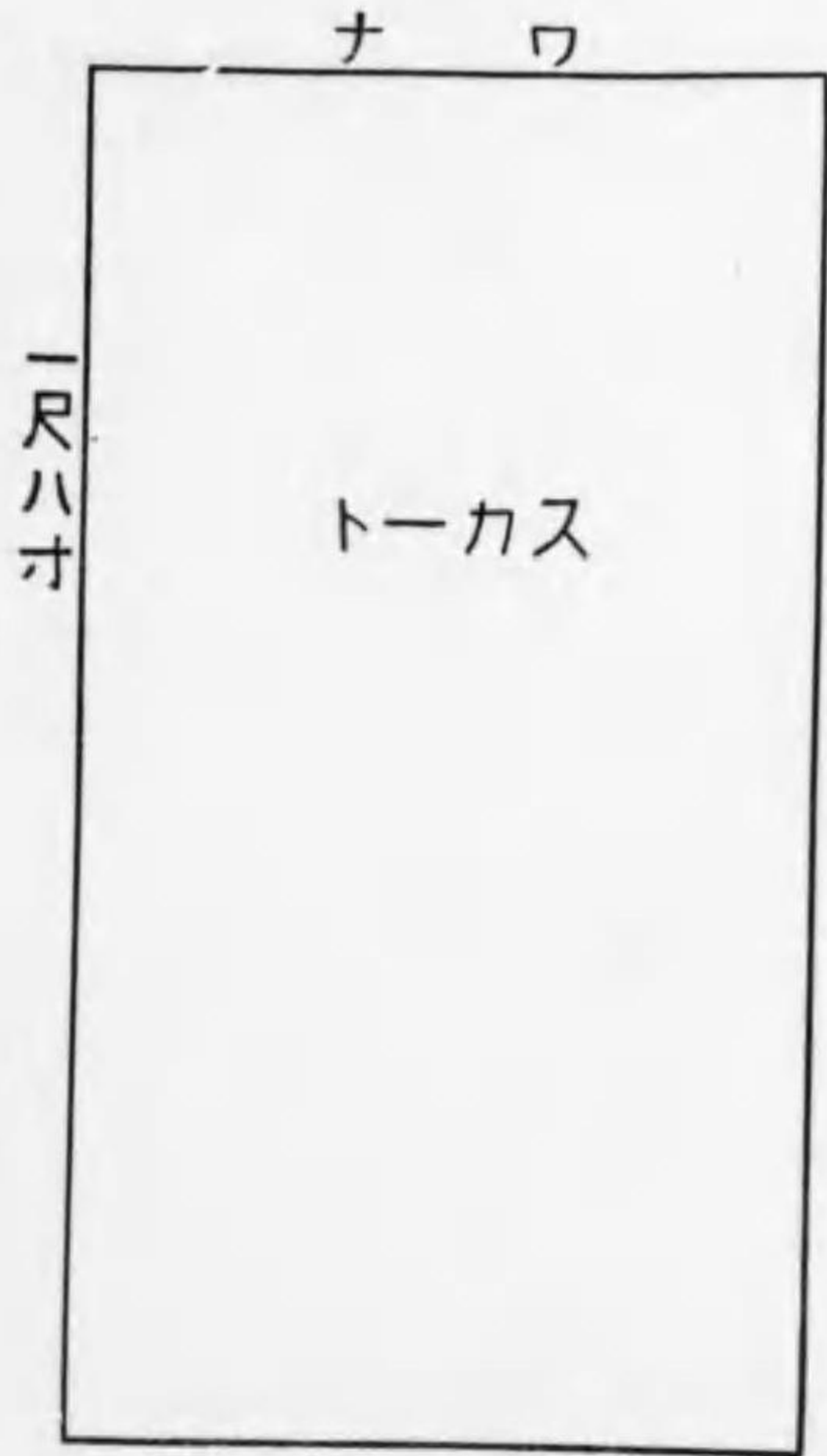
この型は十歳から十八歳くらゐの女兒に適當で、袖は半袖にしても、また長くしても適宜です。長くするときは原型の通りでよいのです。

身後と身前の服兒女袖半 (圖七十五第)



半袖女兒服の仕立方

(第五十八圖) 半袖女児服のスカート



スカート用布は、假に腰圍を二尺として、それに、一寸の深さの襷を四つ取るとしますと、一つの襷に就き、二寸づつ、四つで、八寸だけ餘分の布を要します。

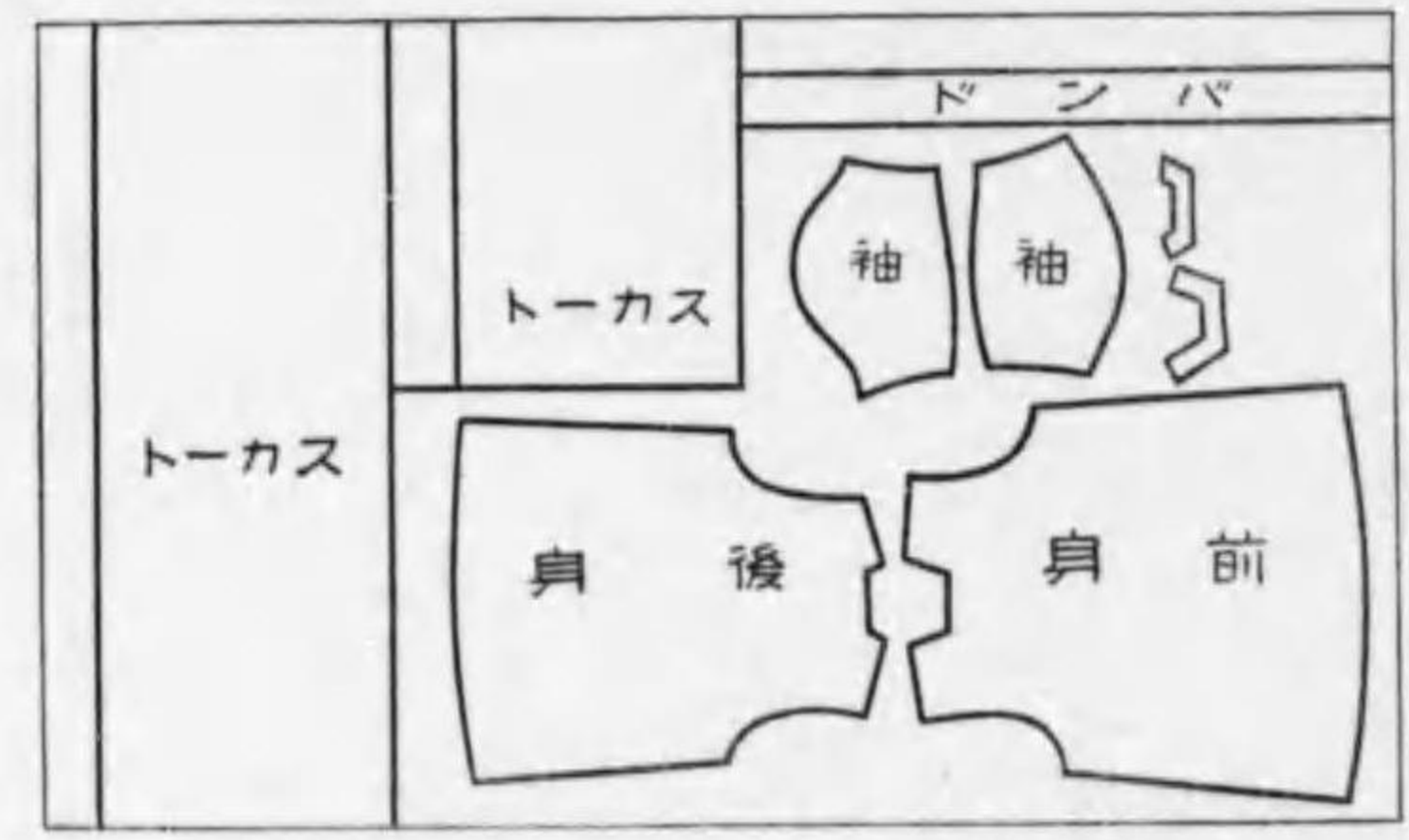
即ち、半分に就き一尺八寸、輪にすれば、三尺六寸の布が要るわけがあります。  
帯は、幅八分、長さ二尺三寸くらゐに仕上げます。



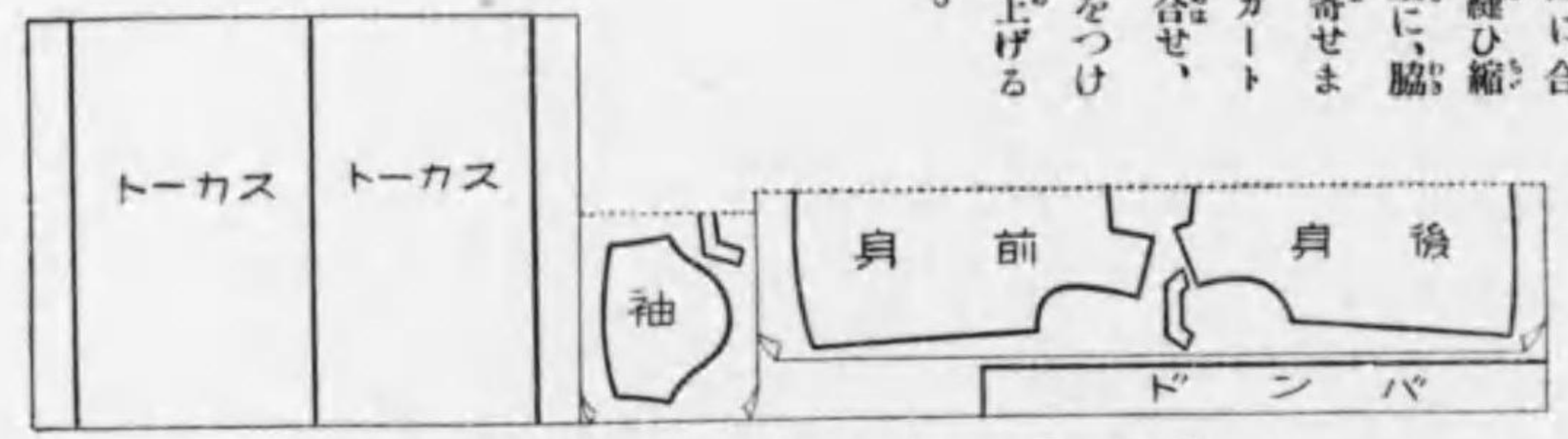
(第五十九圖) 半袖女児服の出来上り

縫ひ方、まづ袖を縫ひ、バンドを作ります。身頃は、前後の衿列に見返しを飾りとして、表につけます。そして肩で明けても、背中で明けてもよろしいので、肩で明ける場合には、前に見返し、後に持出しをつけます。背幅の場合は、右に見返し、左に持出しをつけます。  
スカートは、輪に縫ひ合せ、裾をまつり、腰圍(二尺)丈に合せて、襷

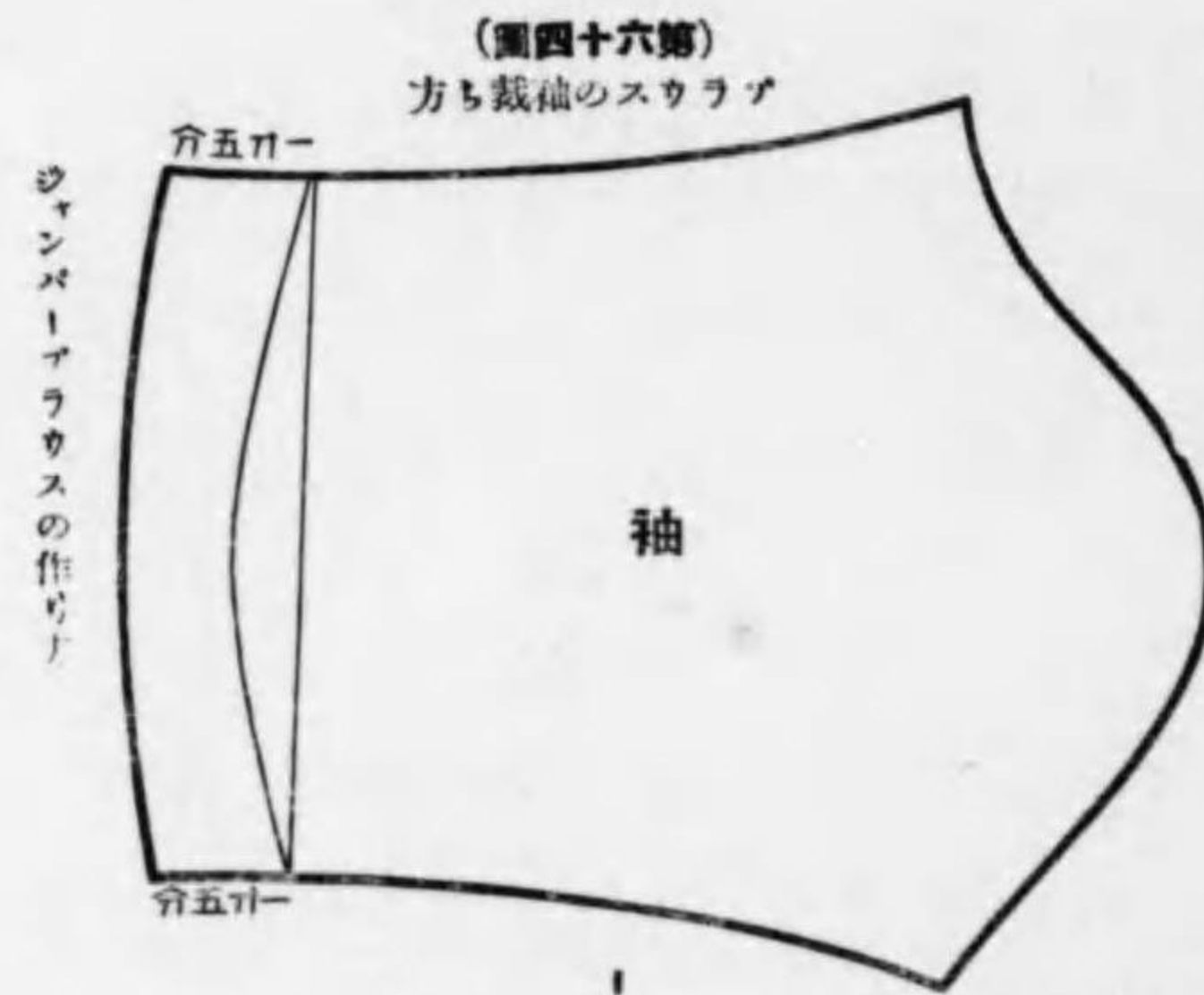
を取り、身頃も腰圍に合せて、縫ひ縮め、(主に、脇の方に寄せます)スカートと縫ひ合せ、バンドをつけて、仕上げるのです。



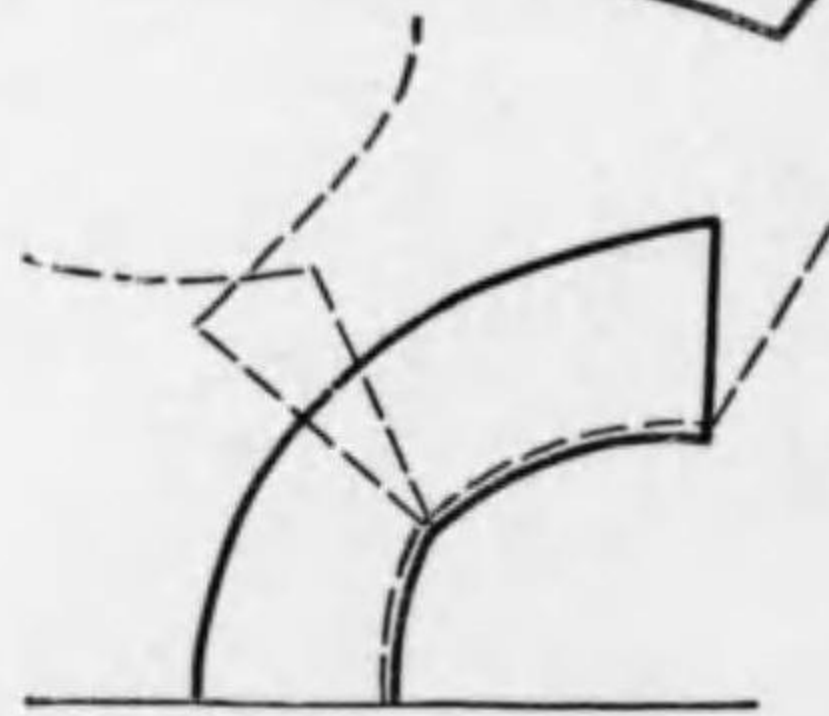
方ち裁ので寸八尺四幅尺二布用 (圖十六第)



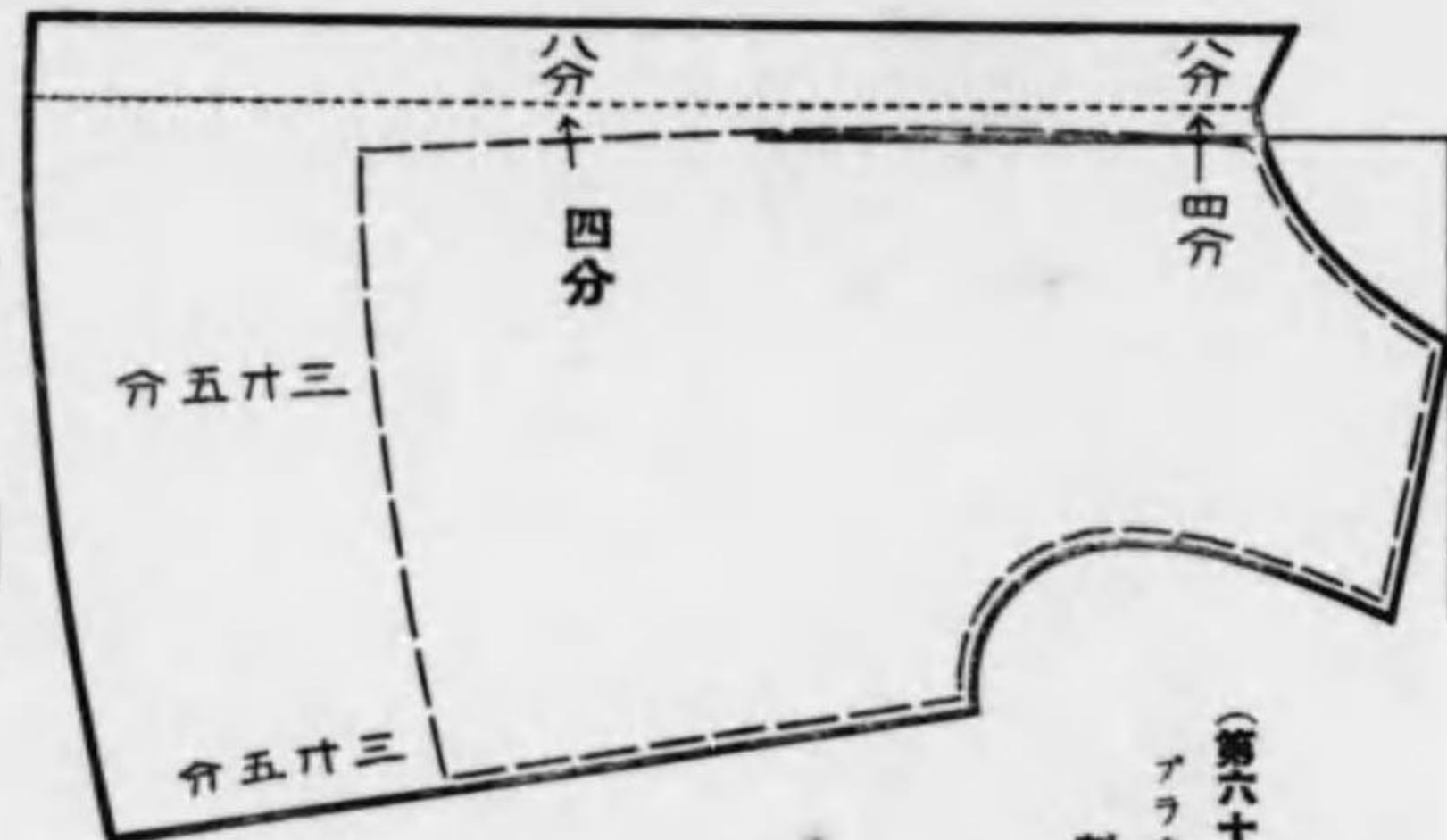
方ち裁ので尺七幅寸八尺一布用 (圖一十六第)



四五



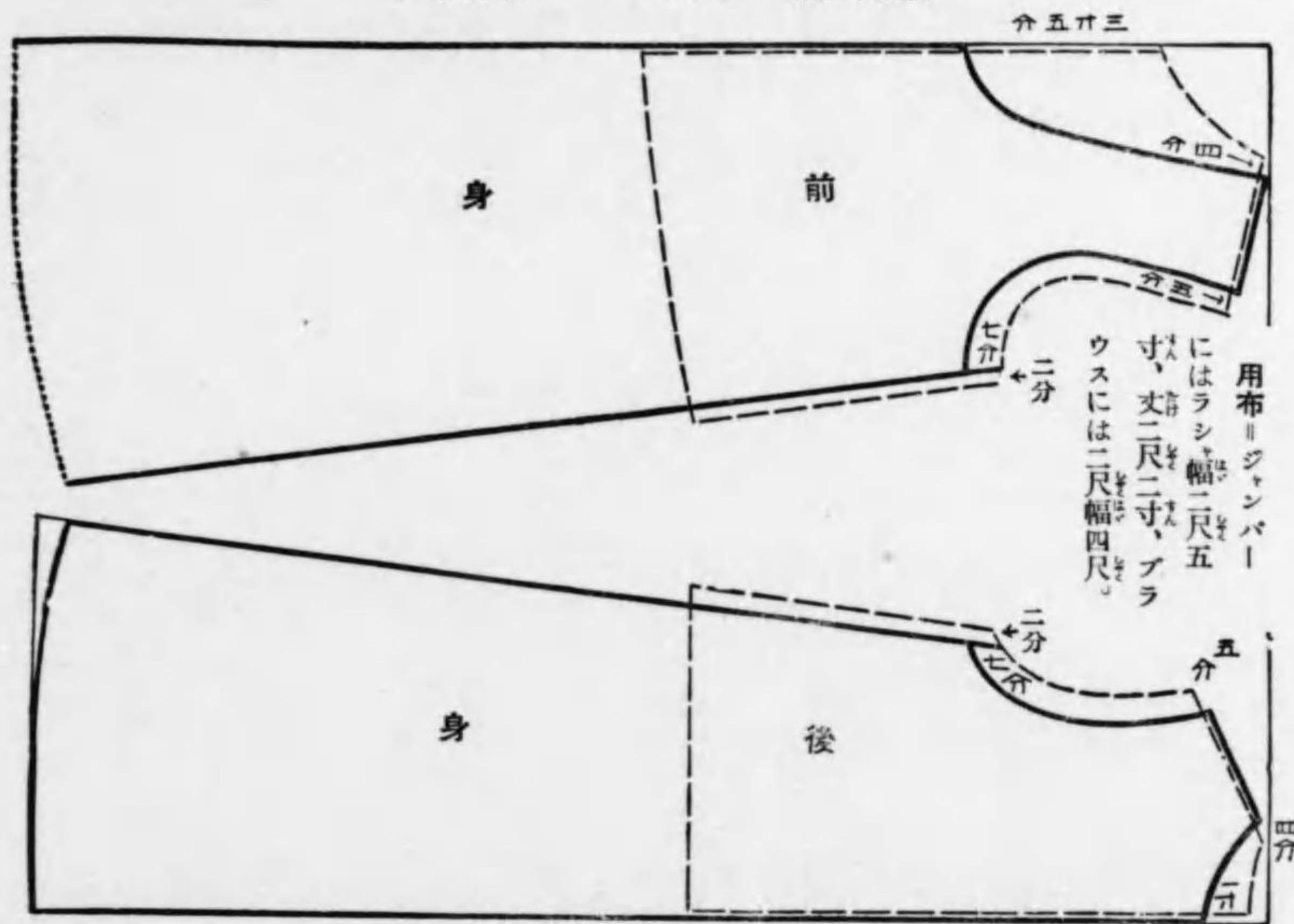
(第六十五圖)  
アラウスの衿の裁ち方



(第六十三圖)  
アラウスの  
割出し方



製作型紙の - マン + ジ (圖二十六第)



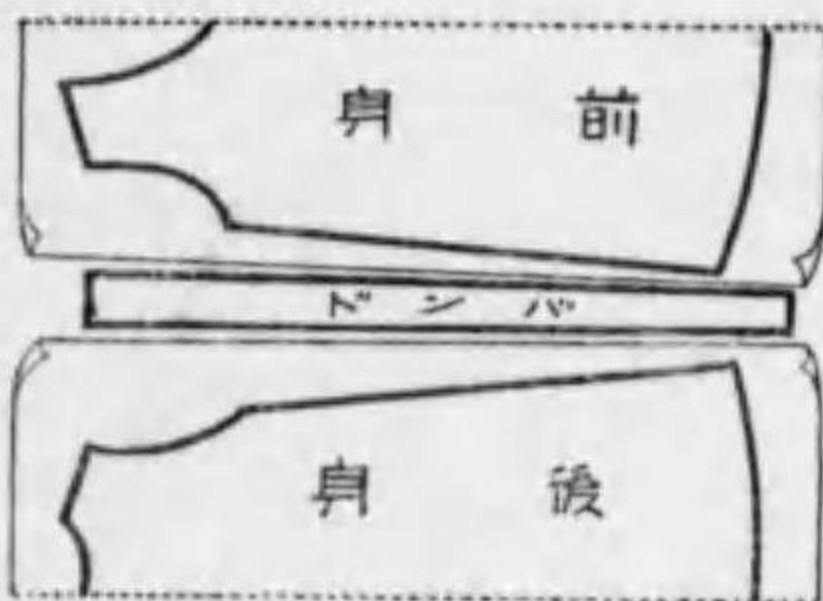
(一) ジャンパーブラウスの作り方

婦人子供服の作り方

四四

縫ひ方  
ジャンパーは肩と脇を縫ひ、裾の折込みをまつり、衿刺と袖刺に斜布

(第六十六圖) ジャンパーの裁ち方



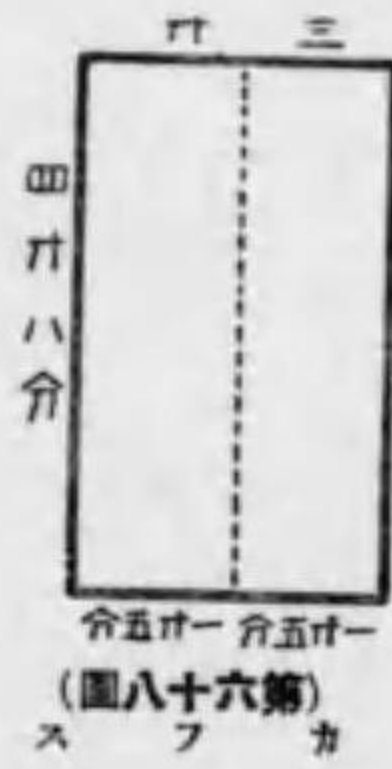
方裁のスワラブ (第七十六圖)



裁ち方注意  
これは、ジャンパー、ブラウスの二つから出来てゐます。ブラウスは普通に、胸圍もゆつたりとしてゐてよいが、ジャンパーは、脇のあたりが比較的體にびつたりと合ふ方が恰好がよろしく、第六十六圖のやうに、原型より少し狭くいたします。

用布は、ジャンパーにはラシャやサージを用ひ、ブラウスにはギンガム、キャラコ、ネル、富士絹等を用ひます。

裾は細く三つ折にしてミシンをかけ、原型の背丈のところ幅五六分の布をつけ、その中にテープを通して結びます。



(第八十六圖) スカートの裁ち方

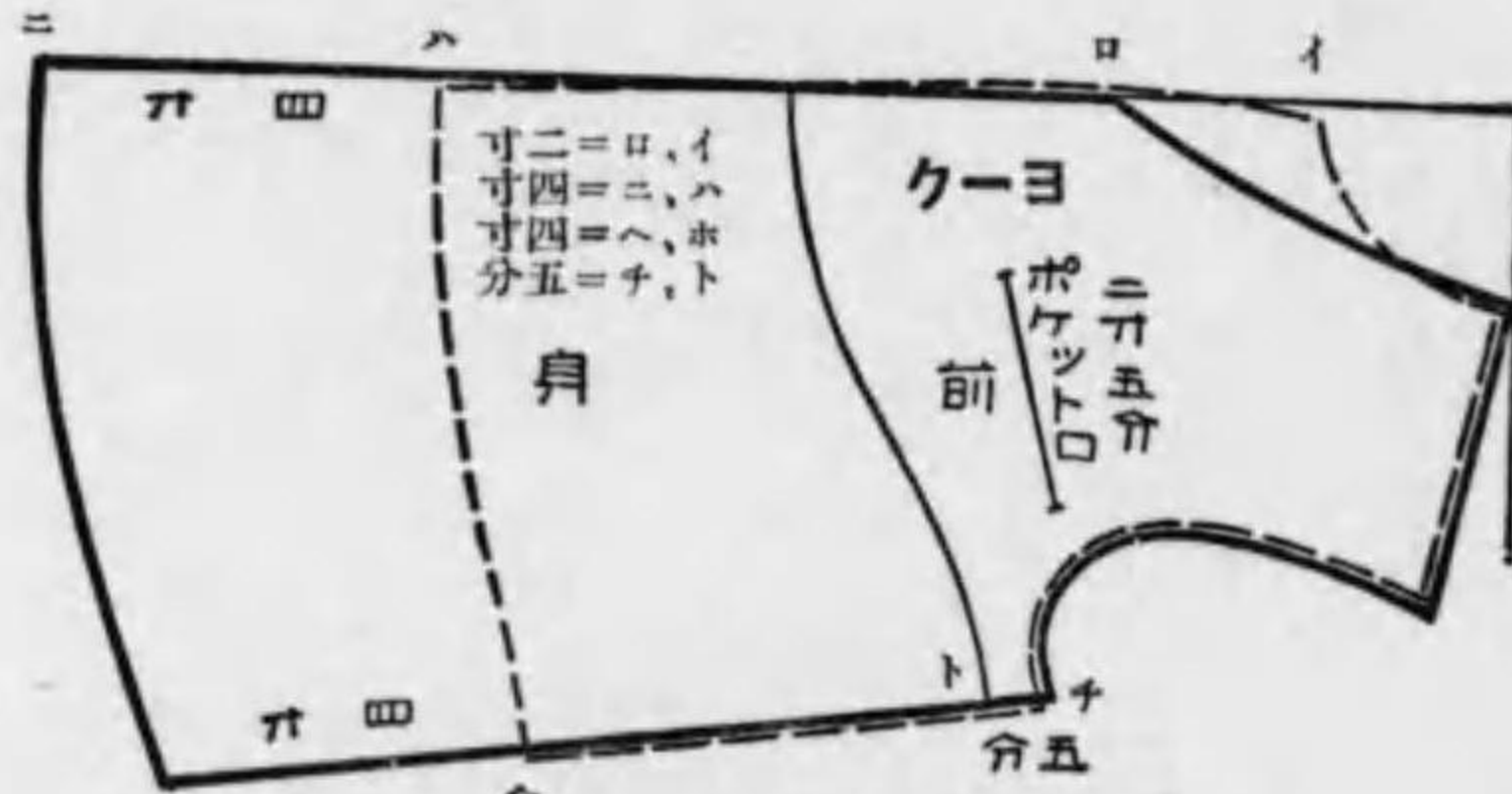


(第六十九圖) ジャンパーの出来上り

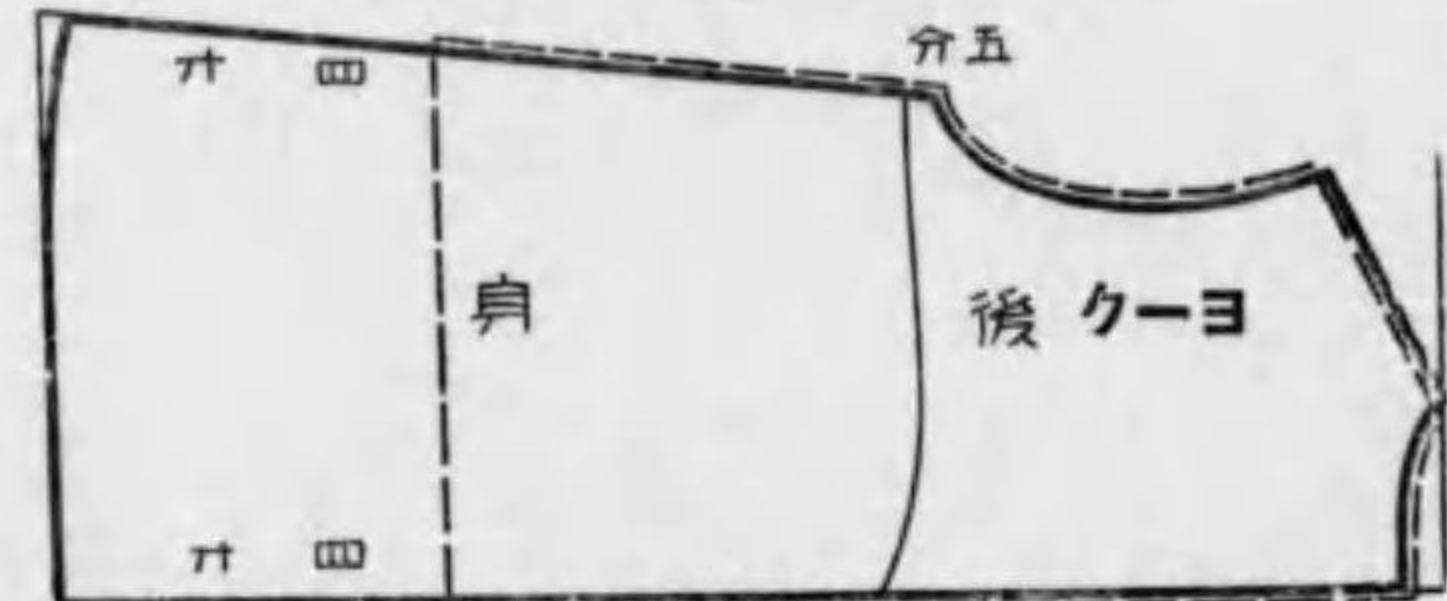
て細く縁を取るか、或は裏に見返ししやうにまつります。帯は、長さ七八分から一寸くらゐに仕上げます。ブラウスは、袖、衿等は、普通に縫ひます。

前身の打合せは、上前も下前も、布地に表裏のないときは、何れも表に折り、飾ミシンをかけ、表裏のある布は、裏に折返すか、或は別に切離して表につけます。

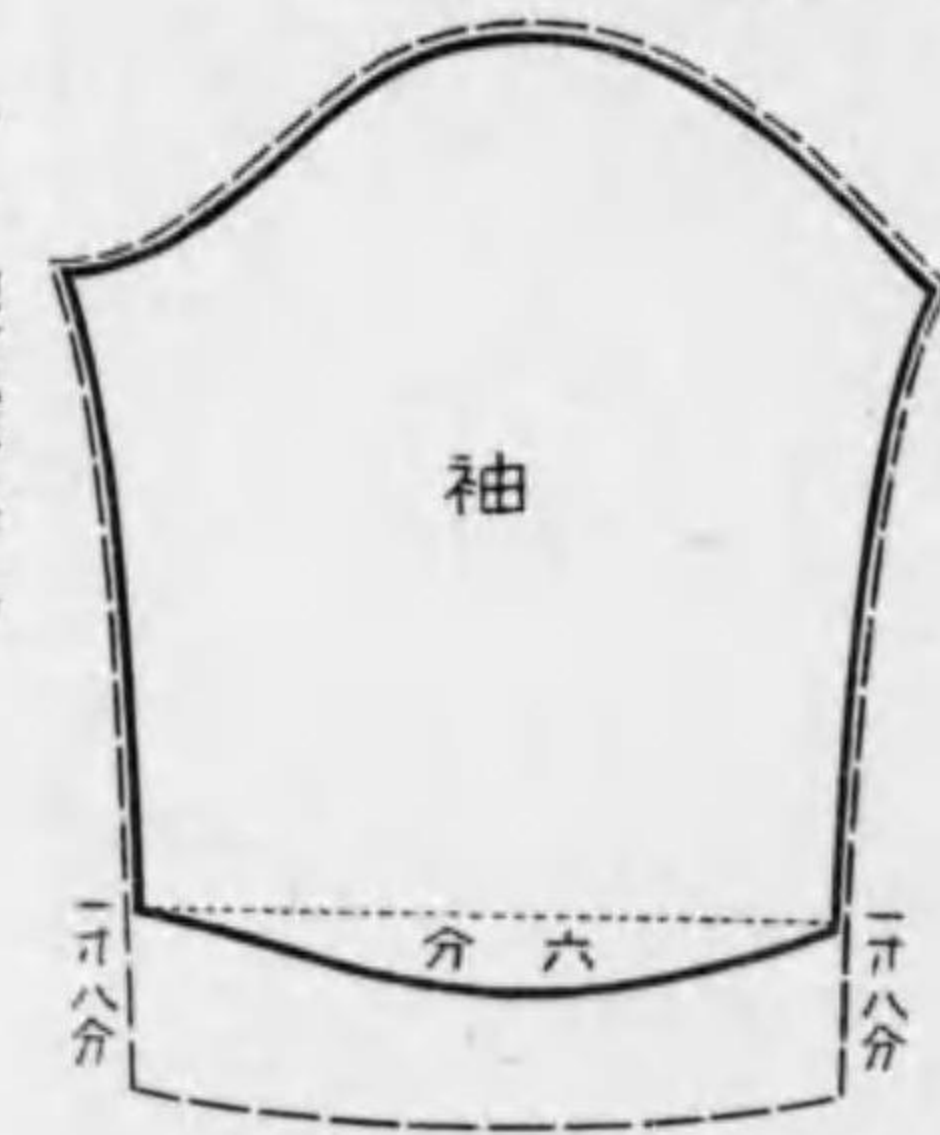
(二二) セーラー型女児服の作り方



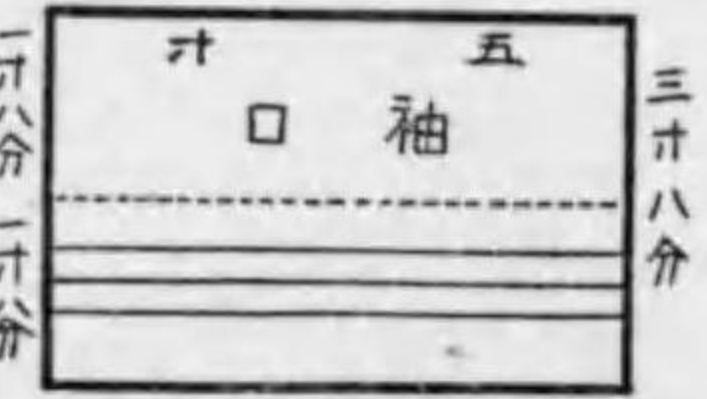
身後と身前の服兒女 (圖十七第)



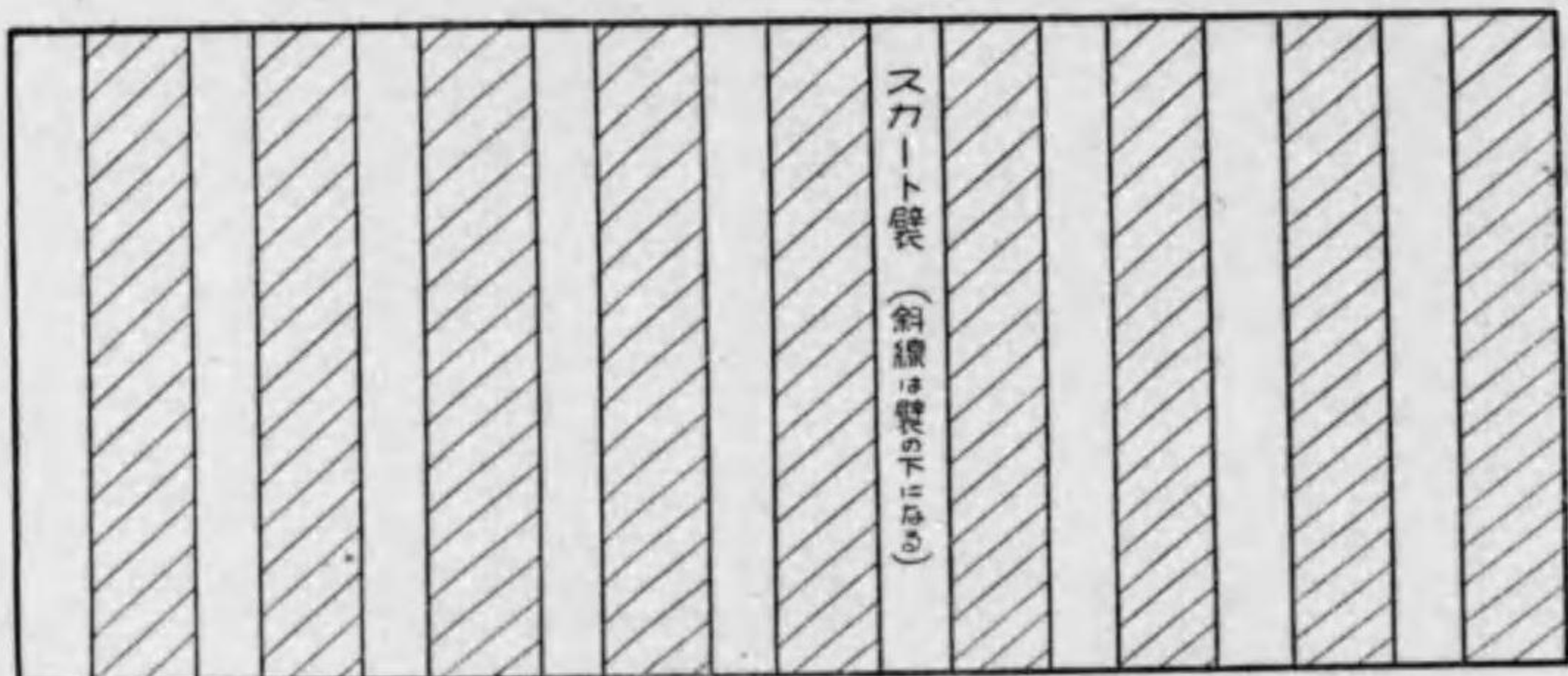
袖の服兒女 (圖一十七第)



セーラー型女児服の作り方



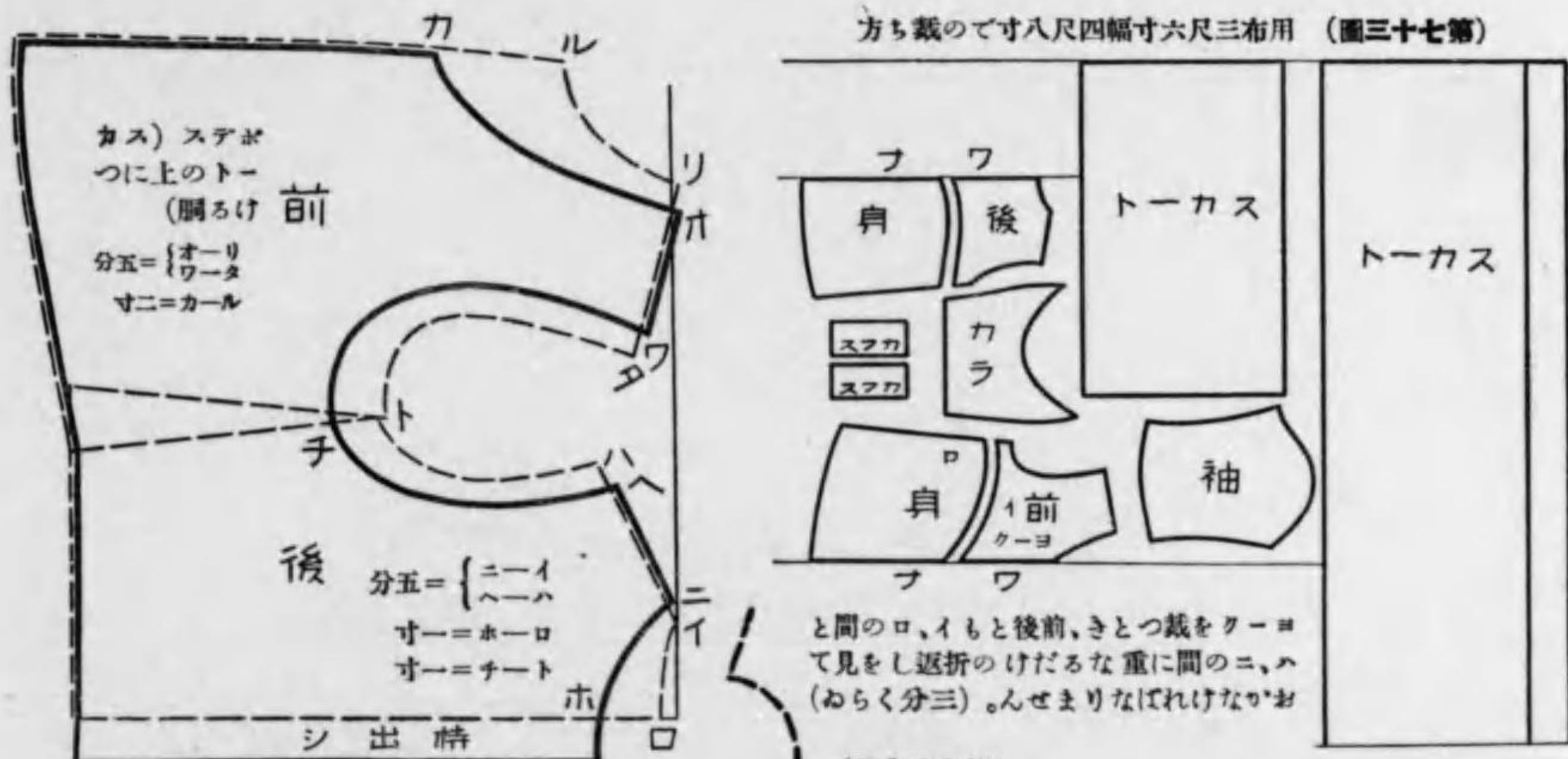
スワカの服兒女 (圖二十七第)



方り取の装のトーカス (圖七十七第)

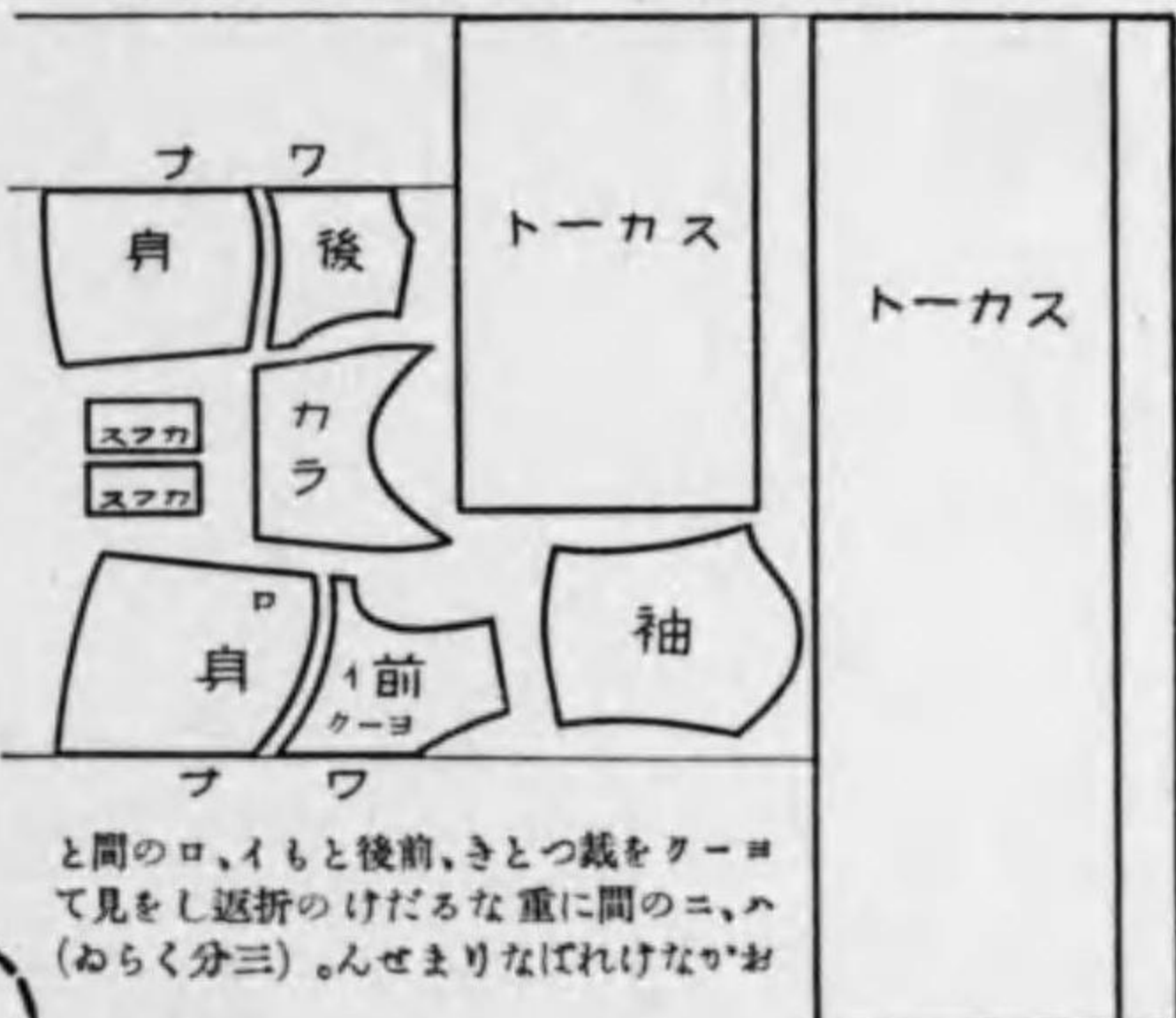
(第七十八圖) 女児服の出来上り

縫ひ方、袖口に装を寄せ、ミシンをかけます。衿は普通に縫つておきます。カフスに心を入れ、衿とカフスに飾りを縫ひつけます。カフスをつけ、袖下を縫ひ、袖を仕上げます。身頃、前身と後身を、ヨークと接合させます。まづヨークの下を標の通りに折つて、身の上に載せ、飾ミシンをかけます。前の明きとポケットを作り、脇と肩とを縫ひ、縫目は割ります。裾をまつり、衿と袖をつけます。スカートにウエストは、前か後で明けます。持出し見返しにして、肩と脇とを縫ひ、衿刺と袖刺に斜布で、見返しを細くします。スカートは、布を輪に縫合せ、腰圍に合せて装を取り、濕りをして、よくアイロンをかけ、ウエストと、接合させます。装を取るとき、縫目をなるべく装の中に入れるやうにします。



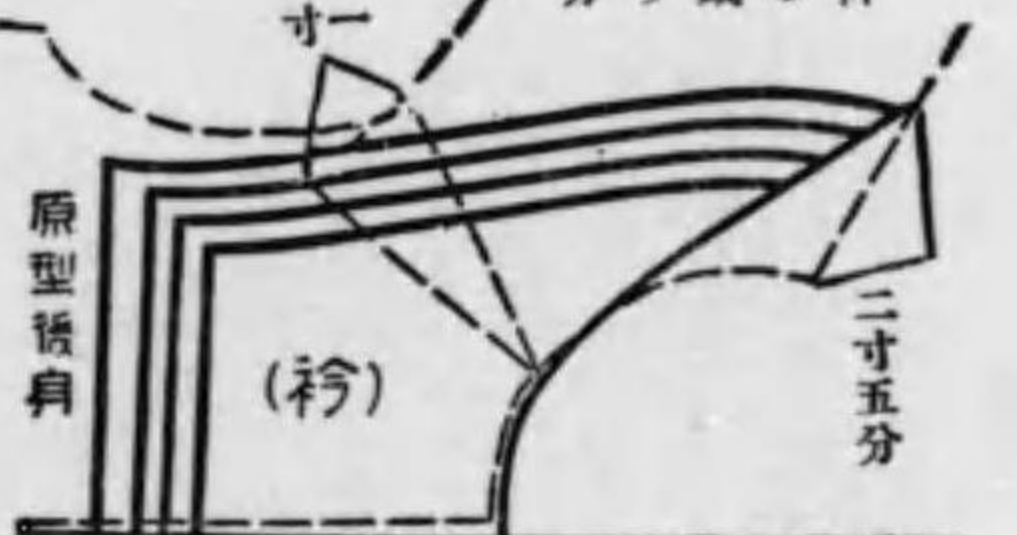
(圖五十七第) 後と前のステボ

方ち裁ので寸八尺四幅寸六尺三布用 (圖三十七第)

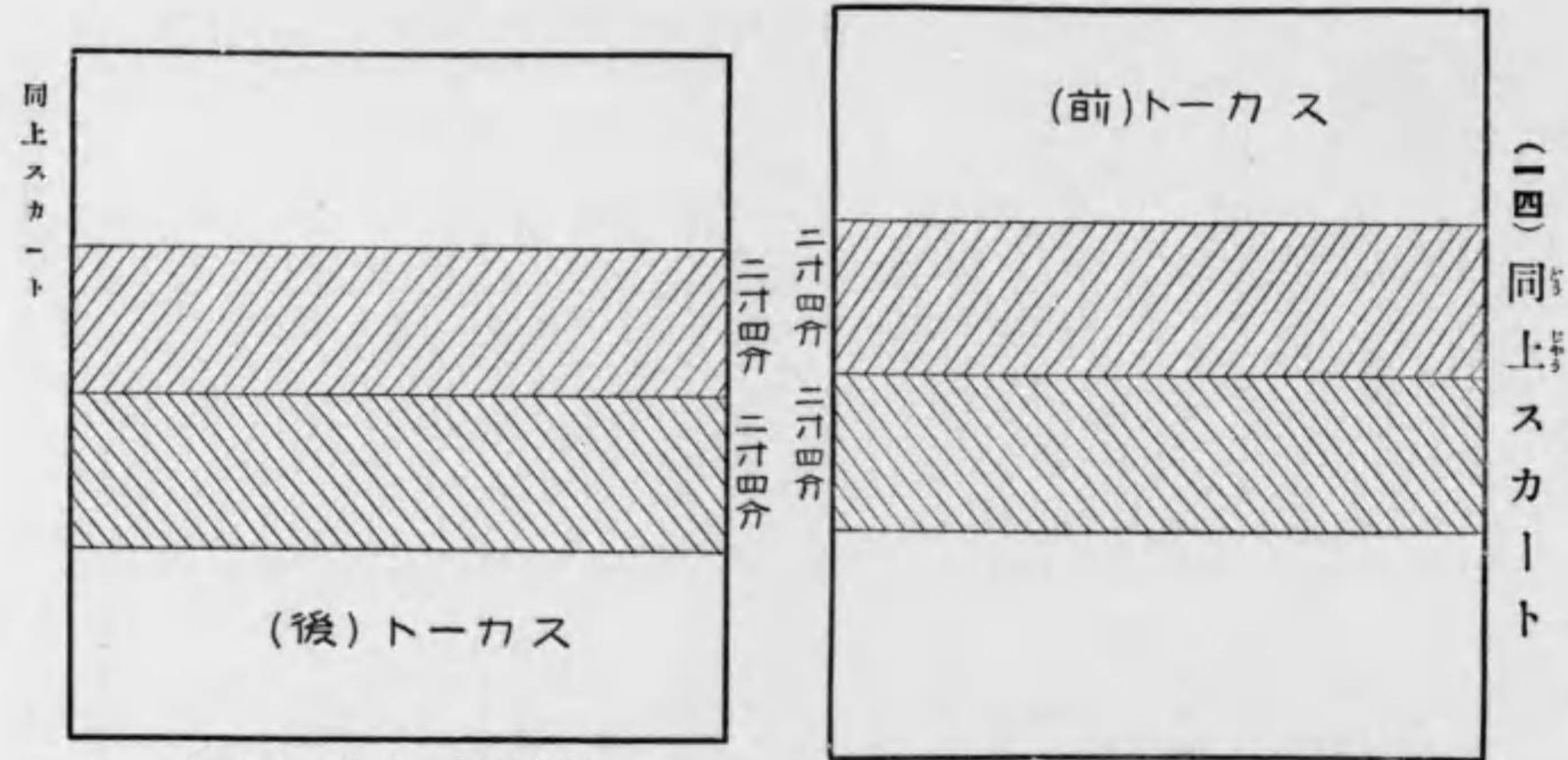


と間のロ、イもと後前、きとつ裁をクローで見をし返折のけだるな重に間のニ、ハ(おらく分三)。んせまりなげれけなかお

(圖六十七第) 方ち裁の衿



(圖四十七第) 方ち裁ので寸五尺一幅尺二布用



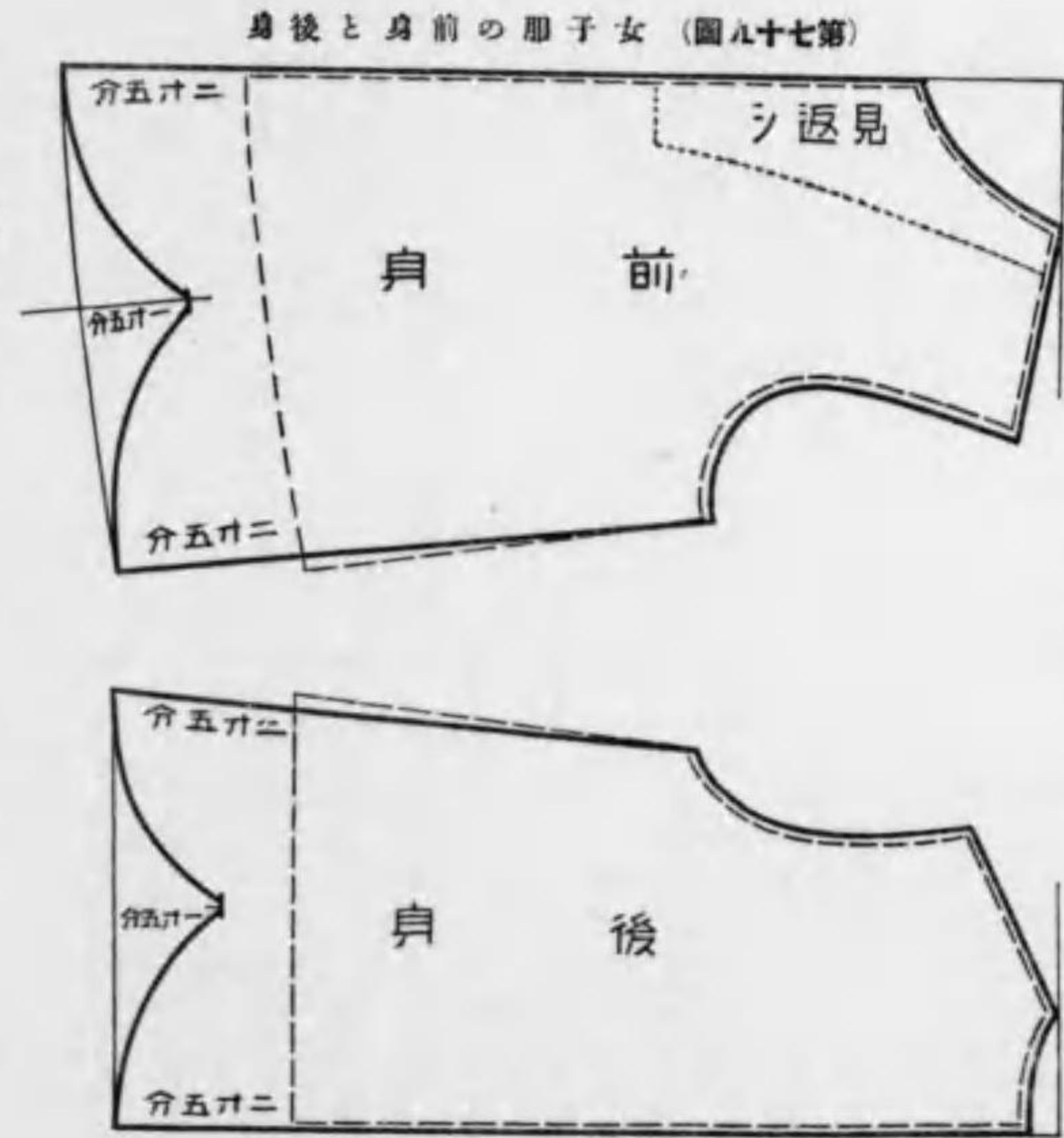
後のトーカー (圖三十八第)

前のトーカー (圖二十八第)

注意 スカ  
ートは前後共  
各身頃の裾幅  
に、圖の斜線  
の部分だけ廣  
く裁ちます。  
スカートの裝  
は、前だけで  
も結構であり  
ます。また裝  
の深さは、用  
布の都合で、  
少しくらゐ淺  
くても、深  
くてもかまひ  
せん。衿の飾  
紐は、うつり  
のよい別布で  
もよく、用布  
の薄地の場合  
は、共布でも  
結構です。

五一

(二四) 同上スカート



身後と身前の那子女 (圖九十七第)

袖 (圖十八第)

4.8寸

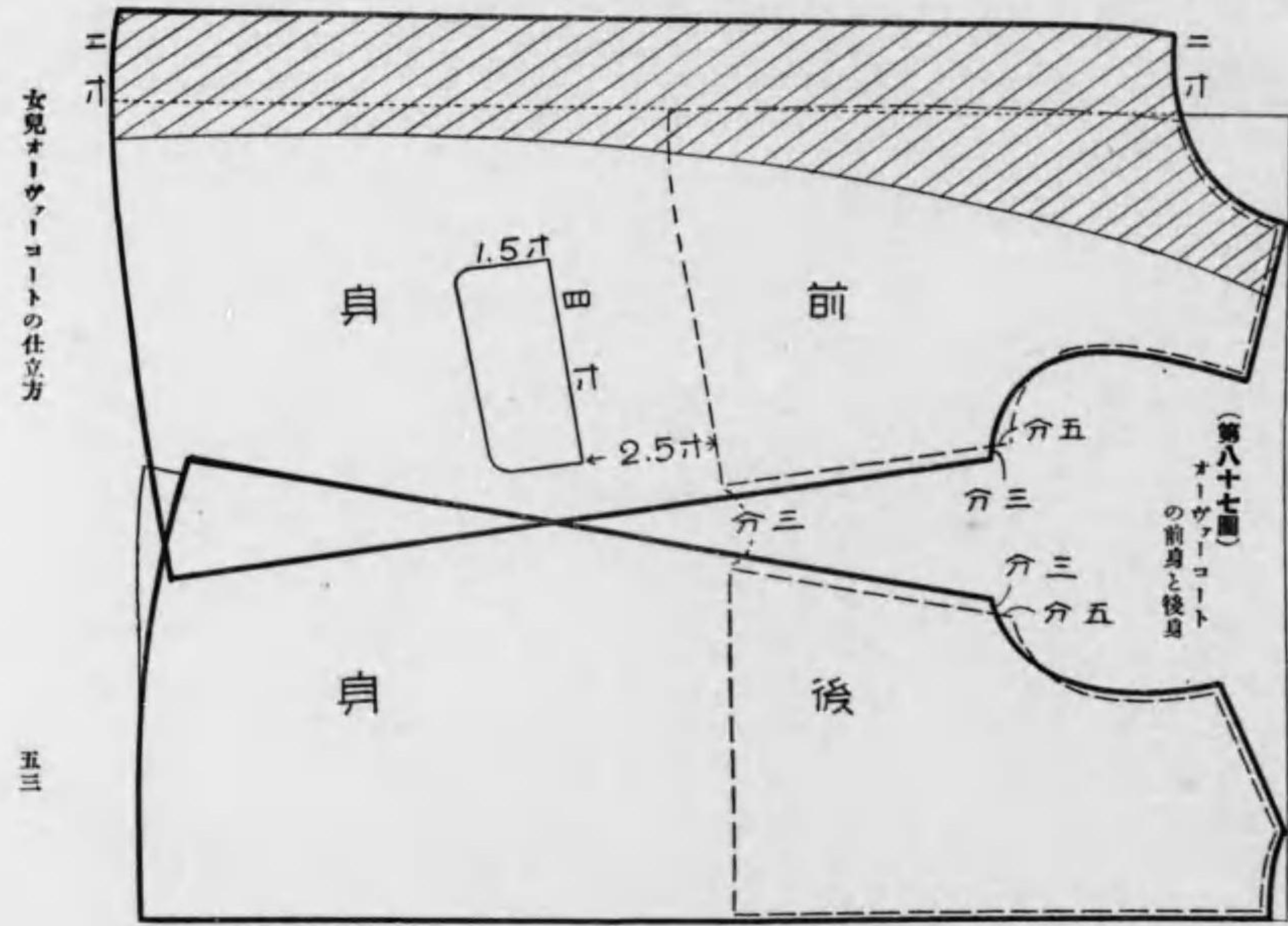
スフカ

スフカ (圖一十八第)

婦人子供服の作り方

(二三) 十七八歳向の女子服

五〇



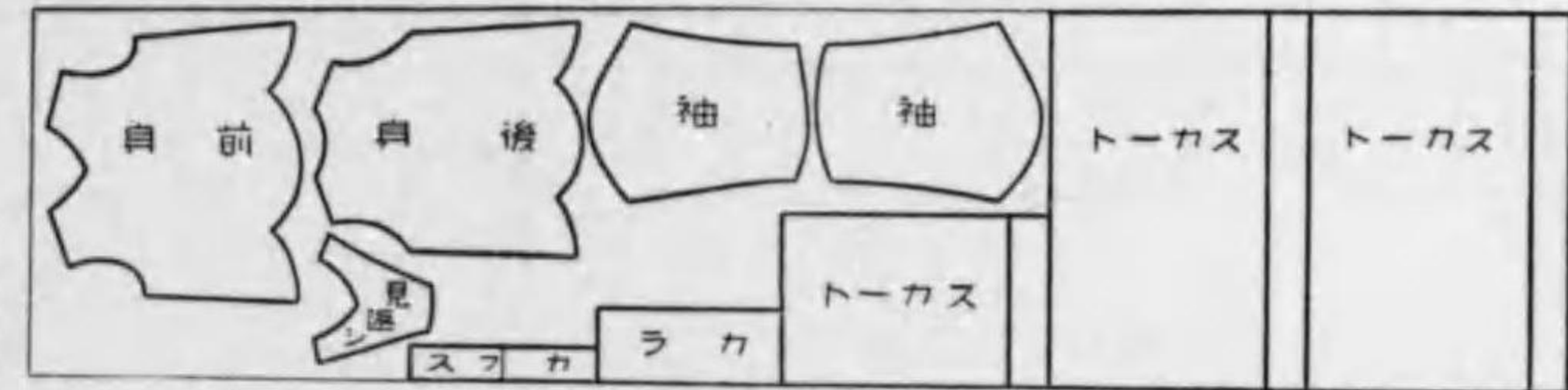
女児オーバーコートの仕立方

(一五) 女児オーバーコートの仕立方(その二)



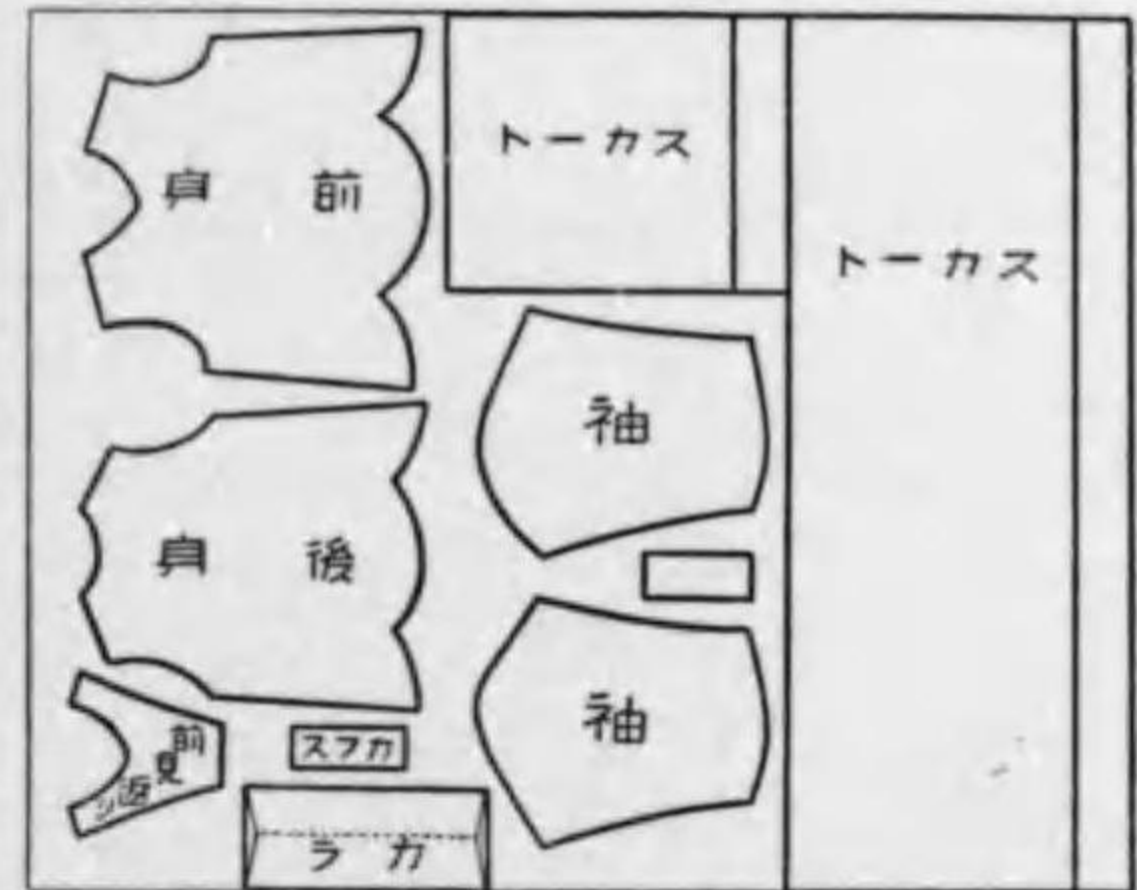
(第八十六圖)

出来上り



方ち裁ので寸二尺八幅尺二布用り上寸七尺一楯肩寸六尺二丈身 (圖四十八第)

婦人子供服の作り方



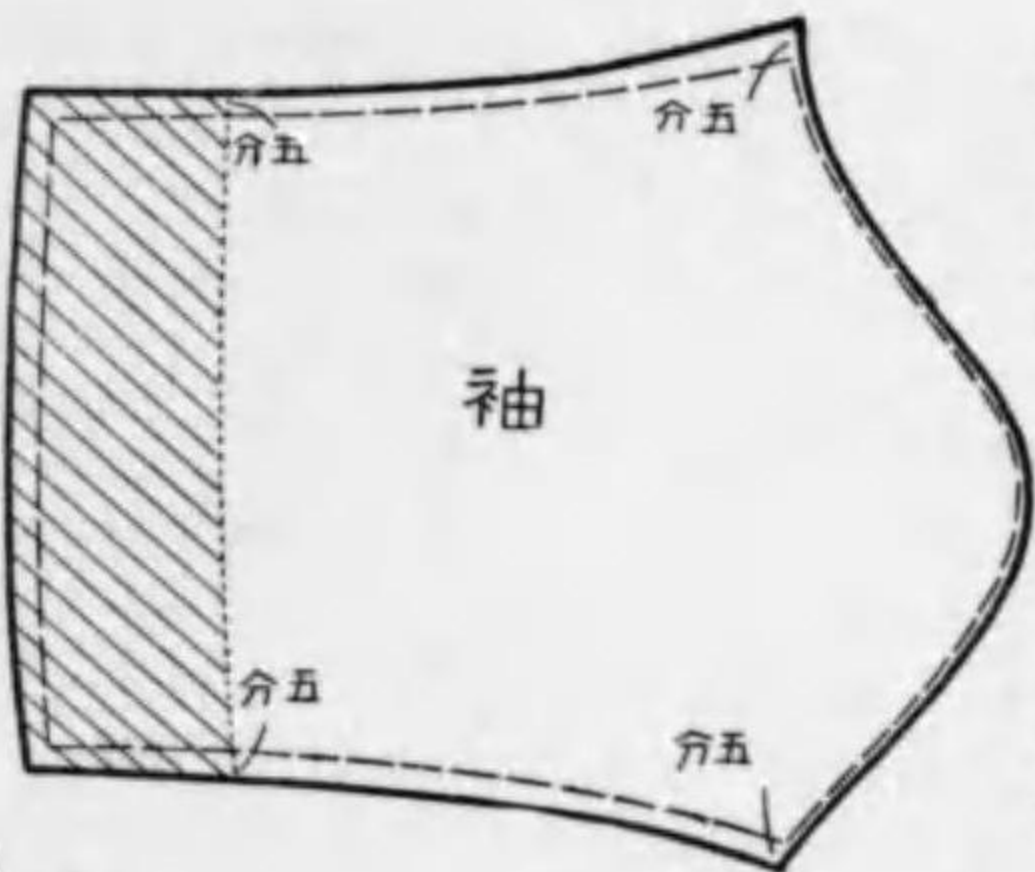
方ち裁ので寸五尺四幅寸六尺三布用 (圖五十八第)

五二

縫ひ方 袖は普通に縫ひ、身頃は前身に見返しをつけ、肩と脇を縫ひ、衿と袖をつけます。スカートは輪に縫ひ、布の都合で縫目は定まりませんが、なるべく装てかかれるところへ入れます。両脇に縫目はあつてもなくても結構です。出来上り圖のやうに、装の上部に三寸くらゐミシンをかけ、身頃の裾を上に乗せてミシンをかけます。飾紐を二本作り、肩の縫目につけます。



(第八十八圖) オールウェアコート袖



(第九十圖)

ウェアのカラー



ナワ



(圖九十八第) 出上り丈一尺一寸肩幅一尺五寸上寸五尺方裁の袖



(圖九十九第) 裏用二尺四寸五寸裁の方

普通のドレスの上に着るものから、ドレスと同じ寸法の原型から裁つときは、身幅を三分くらゐづ、広く取り、袖割を脇で、下へ五分ほど割り下げて、ゆつくり袖の通るやうにします。従つて、袖を各五分づ、広く、裁ちます。

縫ひ方、袖に表袖に縫標をして、裏袖に合せ、その通りを、篋てうつ

します。表裏共袖下を縫ひ、裏袖を袖附の方へ二分ほど餘分に出して、縫目を緩めます。(これは萬一、裏袖の吊れるときは、袖に皺が出来ますから、それを防ぐため、裏は中で皺が出来るやうにしておきます。) 表袖口を標通りに折り、裏袖を少し控

袖口へまつりつけます。

前身に表に縫標をして、前身の裏と見返しを縫合せておき、次に見返しを第九十二圖のやうに縫ひつけ、これを表に返し、表裏をきつちり合せて袂をかけ、肩、脇等の縫標を裏にうつし、後身も表裏を重ねて、縫標を裏にうつします。表裏共脇を縫ひ、緩ちて表に返し、表裾を標通りに折り、裏を控へてまつりつけます。表の肩を合せ、前肩裏を表の縫目に緩ちつけ、裏を上にしてまつりつけます。衿は普通縫ひ、身頃の衿割に合せ、裏よりつけて、表でまつります。つまり衿で身頃を挟むやうにするのです。最後に袖をつけ、裏でまつり、仕上げます。

身前の一ツアーオ (圖二十九第)



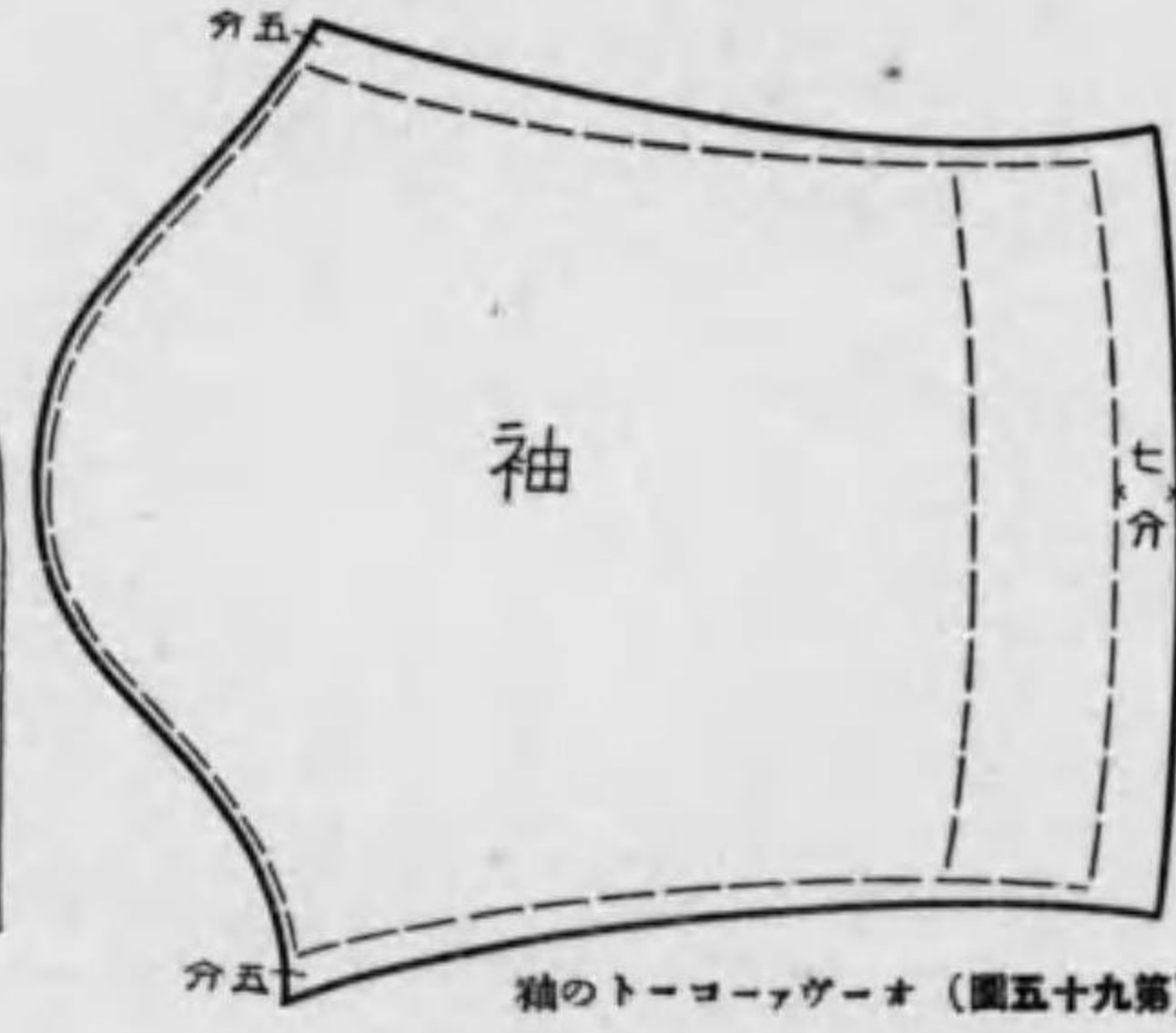
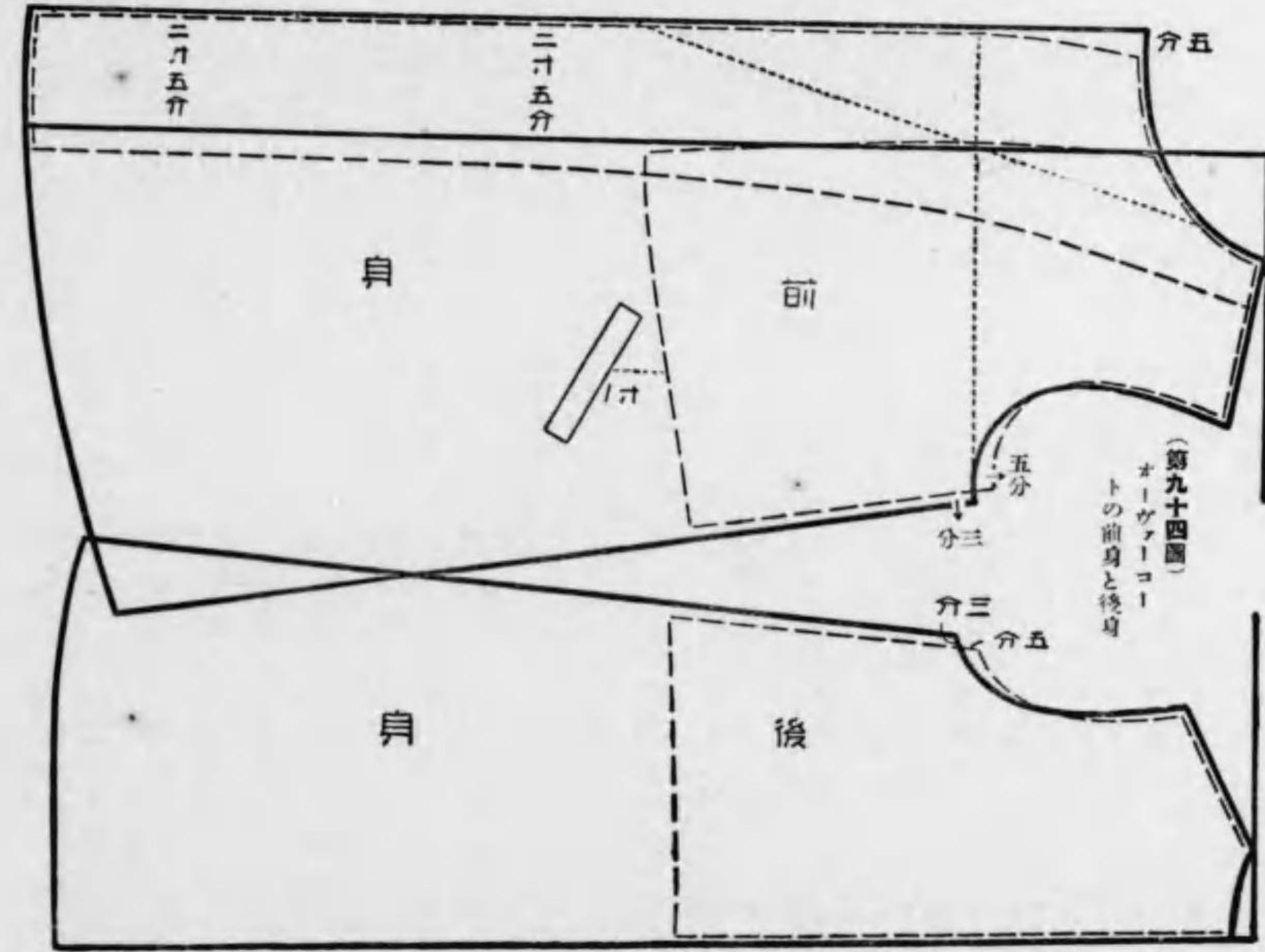
へてまつりつけます。カフスは、袖口の仕上りより三分大きく、別に作つて、

(第九十三圖) オールウェアコート出来上り



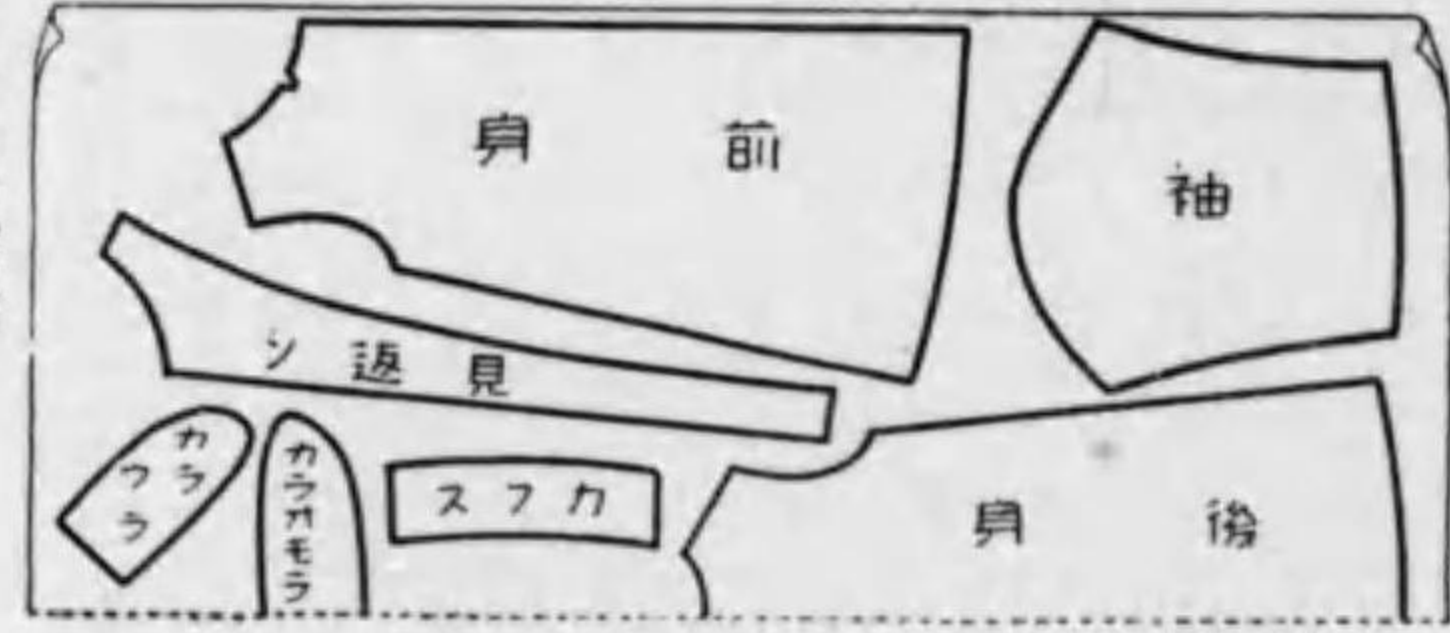
女児オールウェアコートの仕立方

(一六) 女児オーバーコート（その二）の仕立方



注意：オーヴァーコートは、下にいろいろと澤山に着勝ちです。から、身幅や袖附をゆつくりと作ります。まづ、原型より型紙の作り方のところを、よく御参照ください。

女児オーバーコートの仕立方



ナ ヲ 分五寸七尺一拵肩 上寸二尺二寸身 (圖七十九第) 方ち裁ので寸五尺四幅寸六尺三布用表



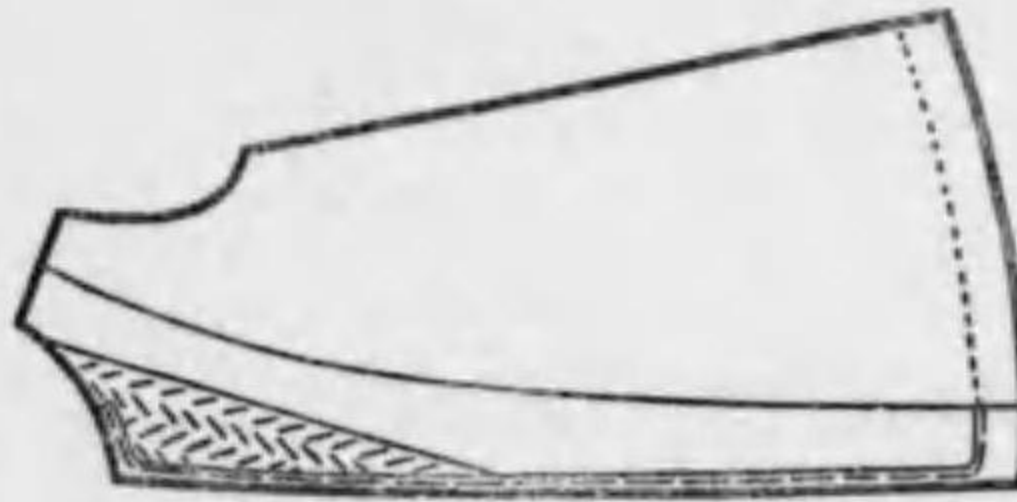
方ち裁ので寸五尺五幅尺二布用裏 (圖八十九第)



縫ひ方袖は初め、表裏の袖下を縫ひ、袖附の方で、裏を二三分出して、縫目を緩めます。表袖口を、標通りに折込み、その端を表に針目の



(圖九十九第) 方し刺の衿



方し縫の心 (圖百第)

袖口の仕上りより、三分ほど大きく作つてまつりつけます。衿はまづ裏衿を接ぎ、心を平に緩め、第九十九圖のやうに刺します。次に表と合せて縫ひ、心を縫込みのところだけ切取り、表に返して襟をかけ、アイロンをかけます。前身に心を入れて、ボタンホールやポケットを作ります。心の緩ち方見返しと前身裏を表に合せ、縫合せた點線のやうに縫ひます。縫目を割つて表に返し、襟をしてアイロンをかけ、裏も表も脇を縫ひ、表裾を標通りに折込み、表に見えぬやう緩ちつけます。裏を折つてまつりつけ、肩の表を縫ひ、裏と緩ちつけて、後を上にしてまつり、衿は裏よりつけて表でまつり、袖をつけ、袖裏をまつ、て仕上げます。



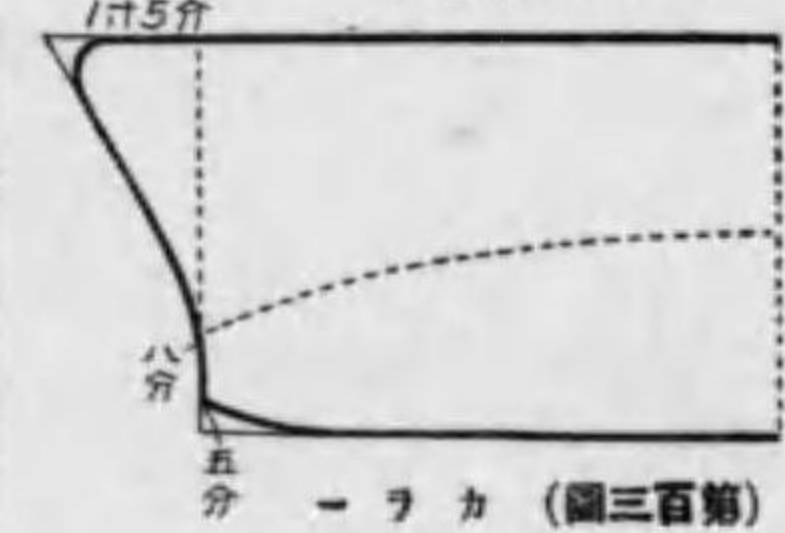
(圖百一圖) オトヴァーコートの上り

(一七) ケープの仕立方

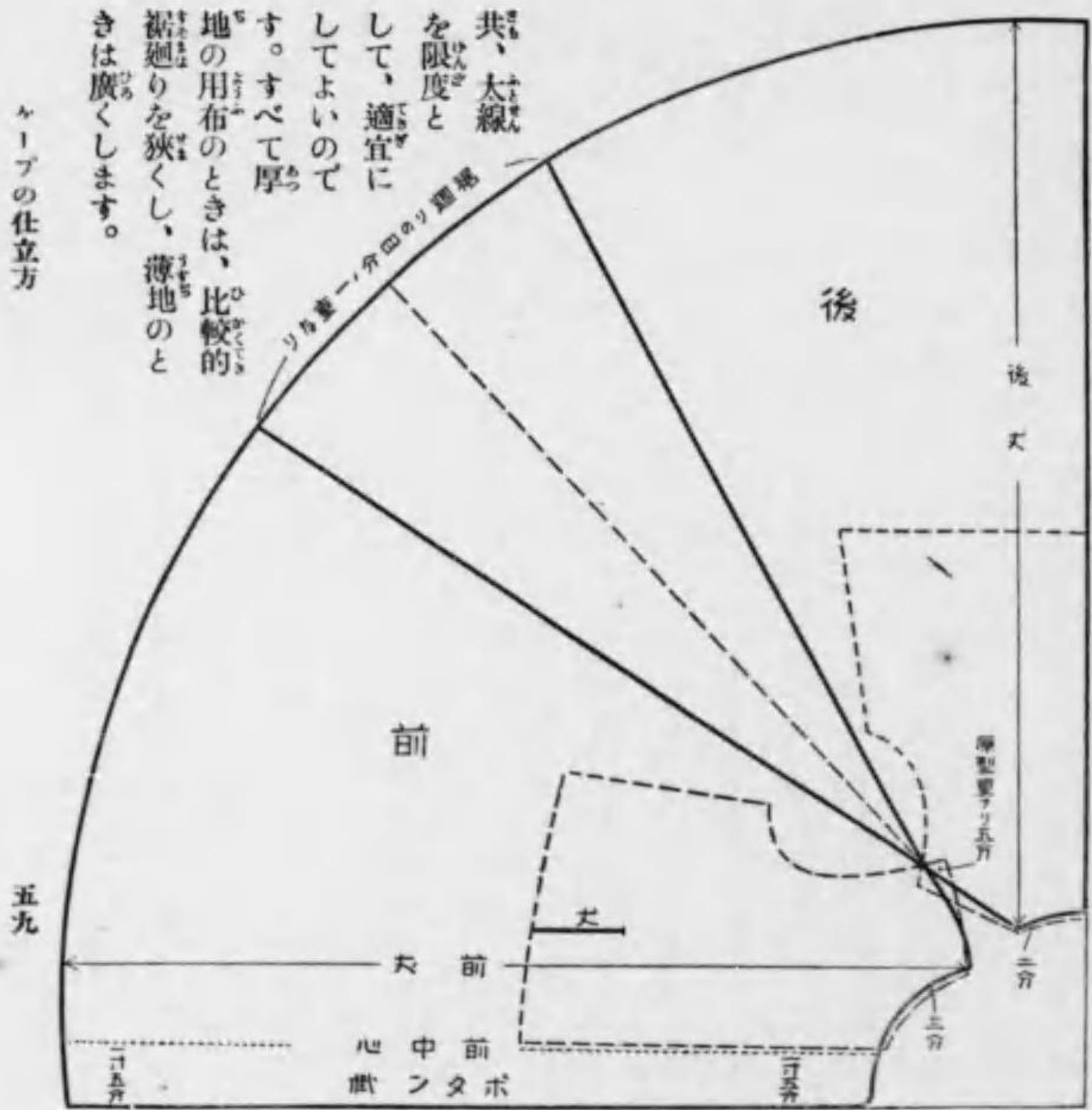


(圖二百第) 前上出のプーケ

注意 用布を充分に用ふときは、前後共脇は、中央の點線まで取つてもよいのですが、用布の都合では、前後

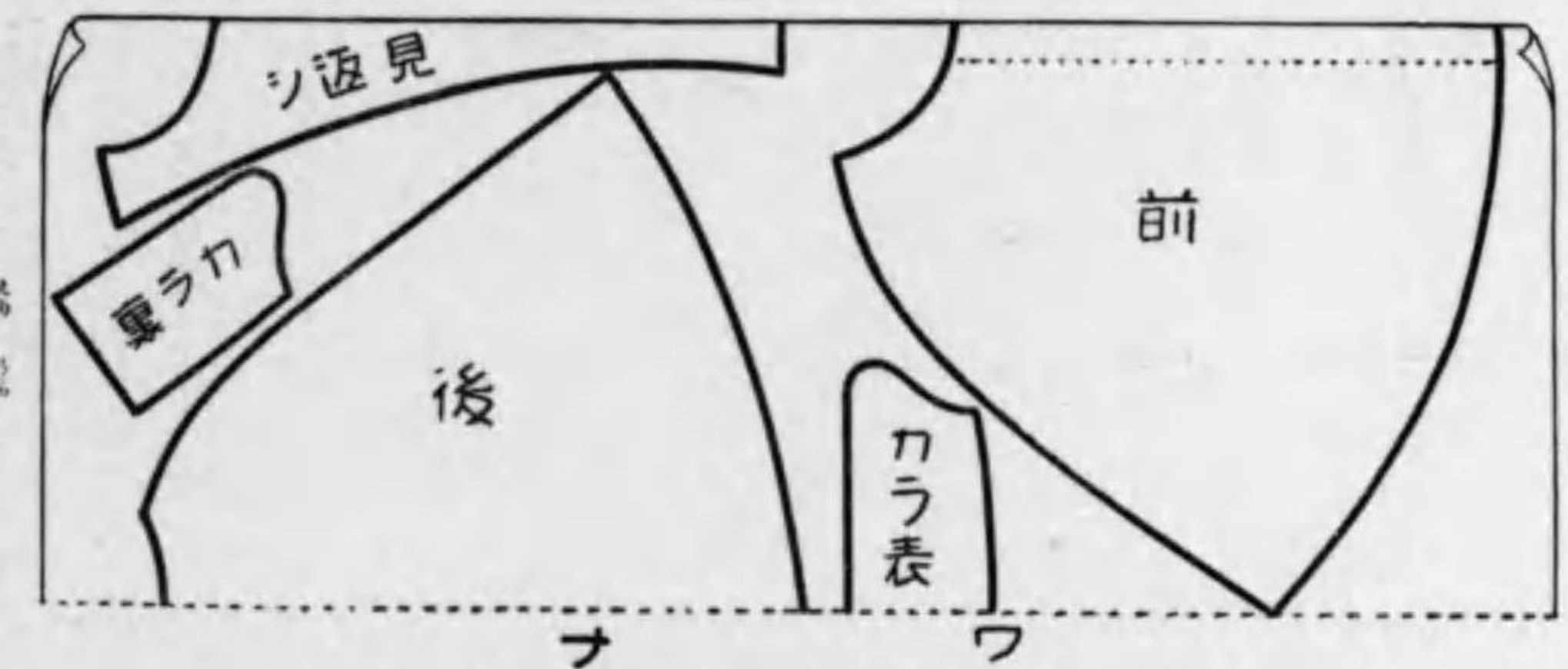


ーラカ (圖三百第)



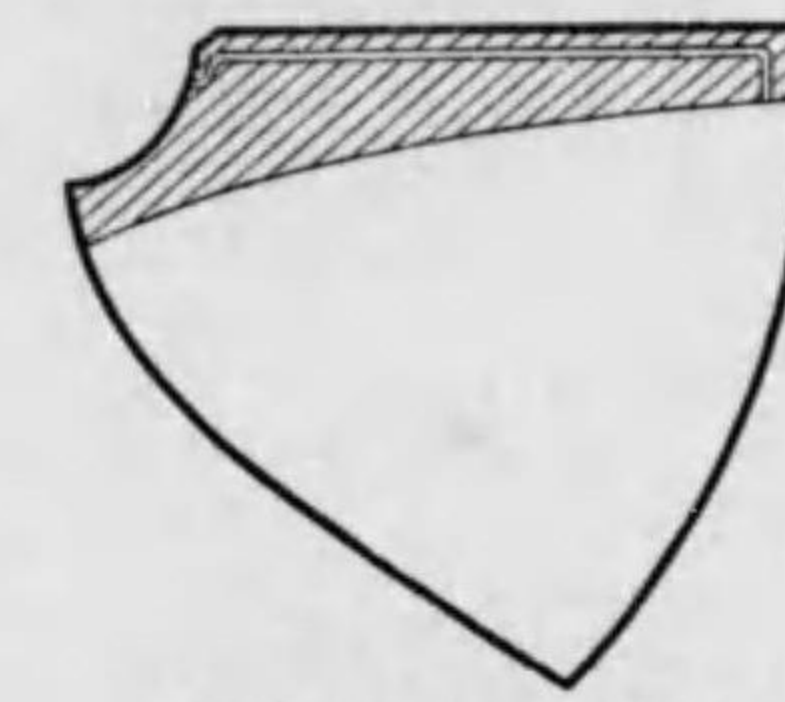
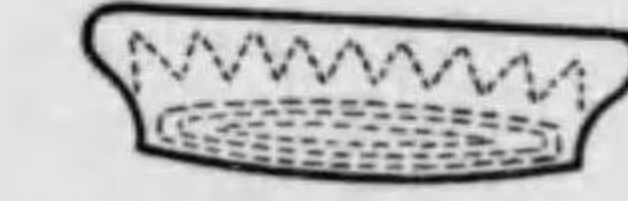
共、太線を限度として、適宜にしてよいのです。すべて厚地の用布のときは、比較的裾廻りを狭くし、薄地のときは廣くします。

ケープの仕立方



方ち裁ので寸八尺四幅寸六尺三布用 上尺二丈身 (圖五百第)

に合せ、衿附の一方を残して、ぐるりと縫合せ、縫込みの心地を切取つて、表に返しておきます。  
前身し手出しを作り、見返しをつくところに見返しの寸法より少し小さく心地をつけ、第七七圖のやうにテープを引き、假に緩ちて、表と合せて縫ひます。そして餘りの心地を切落し、表に返します。  
釦孔も豫め作つておきます。  
前身が出来上りましたら、脇を合せて縫ひます。  
肩裏がつくときは、裏も脇を合せて、脇の縫目で緩ち、前は見返しの下に入れて、裾を折ります。  
衿し衿は裏からつけて、表で丈夫にまつります。



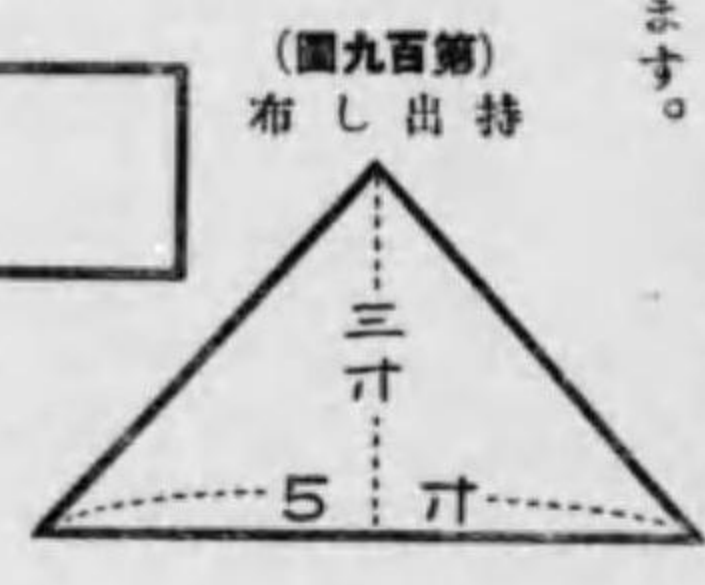
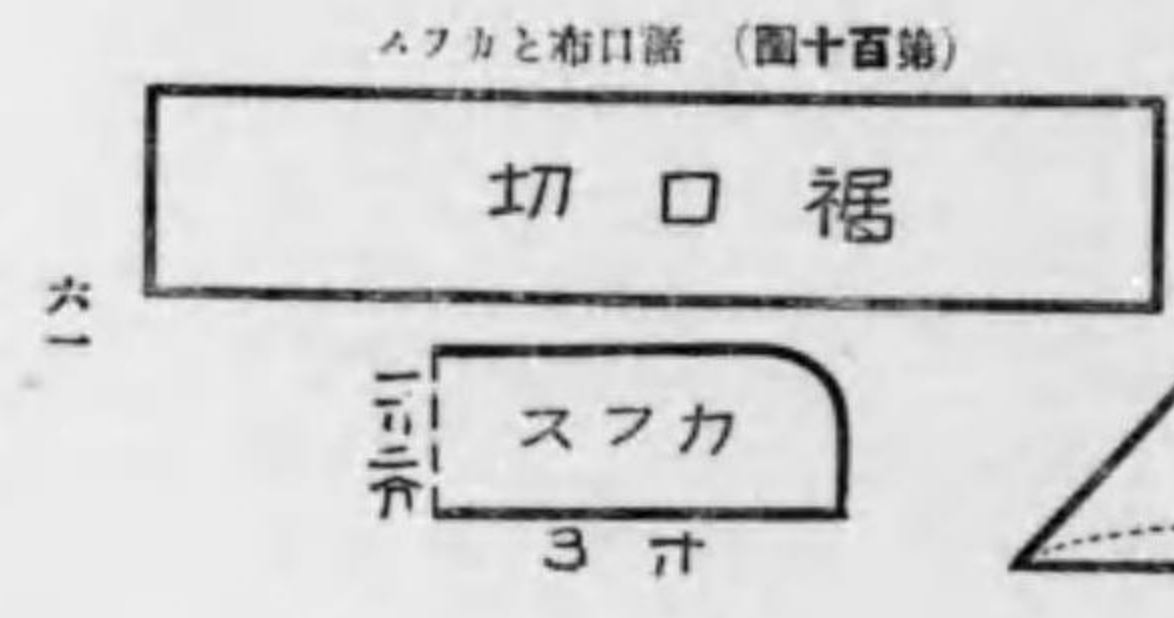
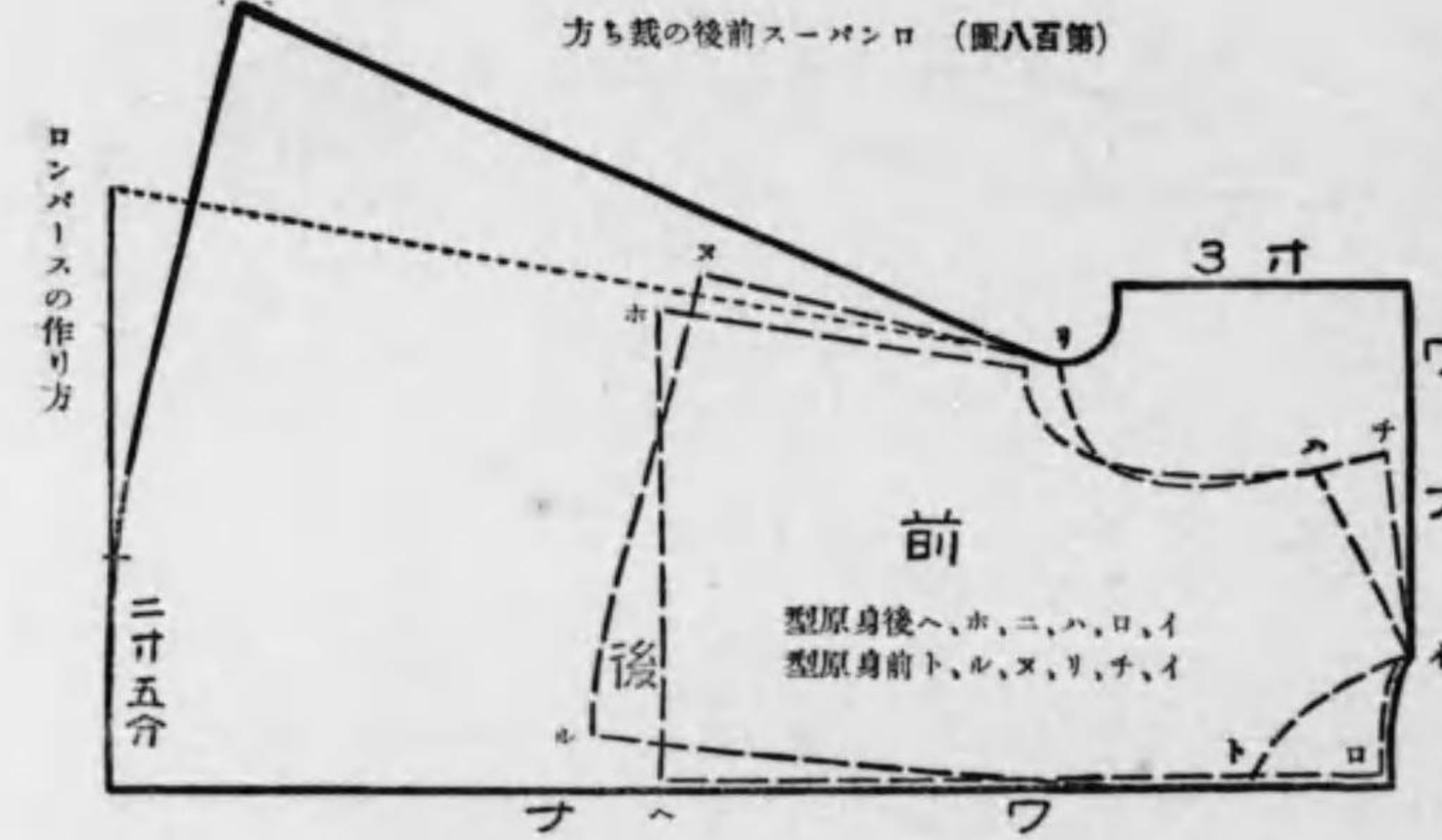
縫ひ方、衿し衿の裏は、裁ち方圖にもあるやうに、斜に取り、そして真中を接ぎ、心地も斜にして合せ、第六六圖のやうにミシんで刺します。次に表衿と中表

(二八) ロンパースの作り方

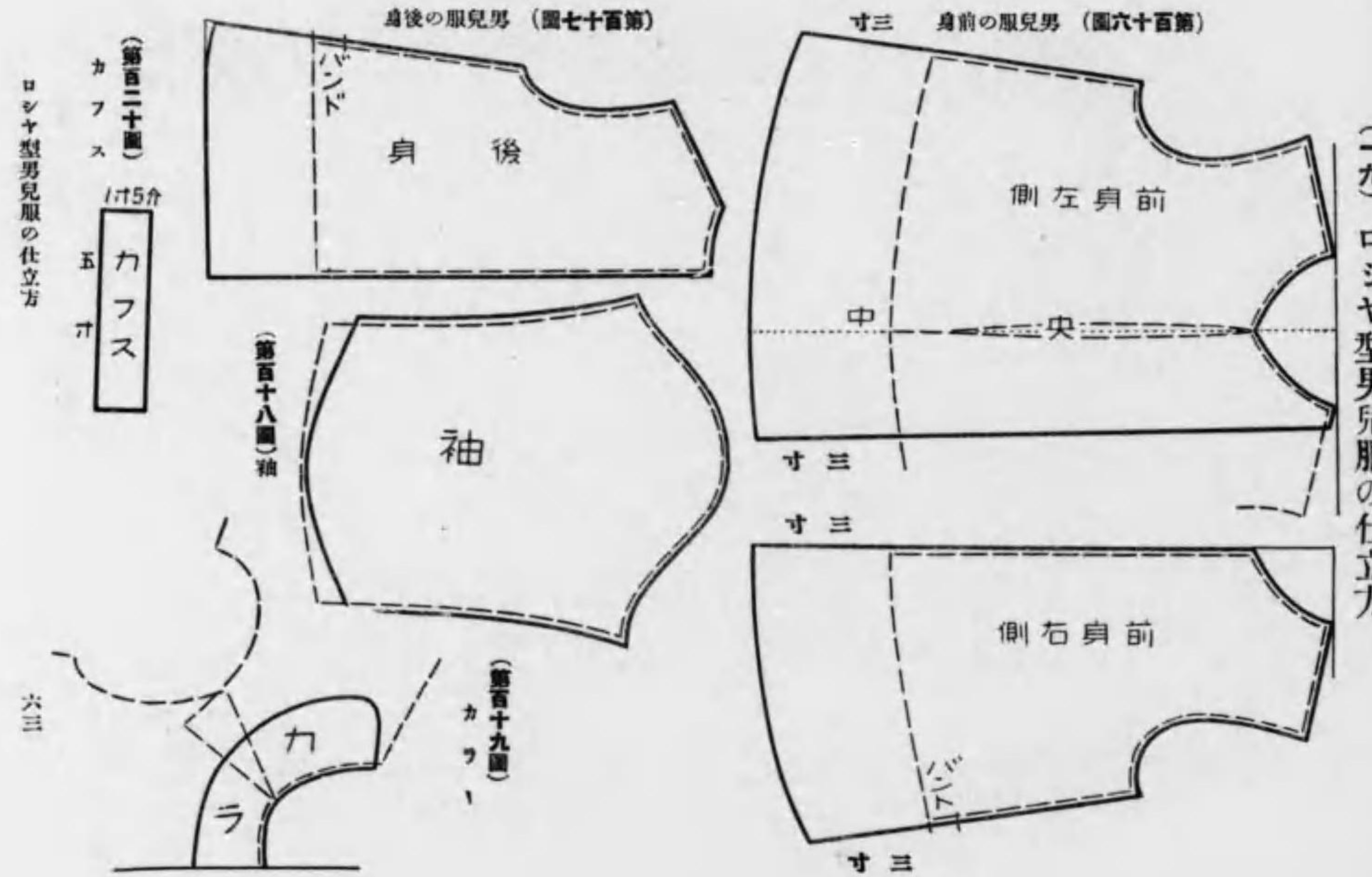
縫ひ方し背の中心を上より四寸ほど明け、前にポケットをつけ、袖口は、各裏と合せて仕上げます。  
股下の三角の布は三枚取り、第十四圖のやうに、一枚は後につけ、残り二枚は、二方を縫合せて返し、

前の股下を挟んでつけます。脇を縫ひ、裾の両脚になるところを縫ひ縮め、裾口布をつけます。そのとき、同じく第十四圖のやうに、後の方に八分出し、こへ釦をつけます。最後に袖口と衿をつけます。

注意し袖を長くするときは、適宜に袖口に接ぐか、または、用布の都合により、續けて長く裁ちます。



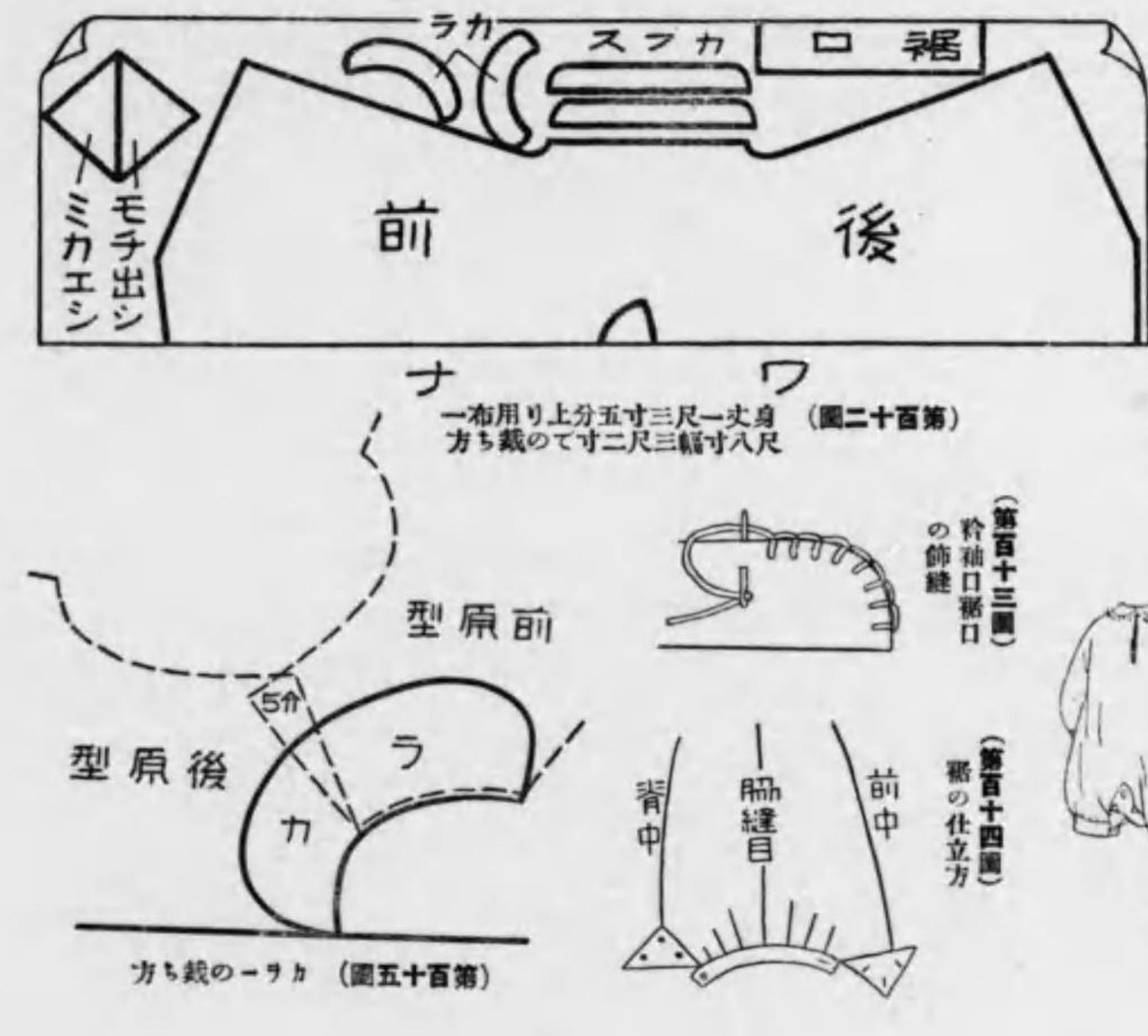
ロンパースの作り方



(一九) ロシヤ型男兒服の仕立方

ロシヤ型男兒服の仕立方

六三



婦人子供服の作り方 (第百十一圖) ロンパースの出来上り



六二

方ち裁の-ラカ (圖五十百第)

(第百十三圖) 衿袖口裾口の飾縫

(第百十四圖) 裾の仕立方

注意 左右形の異なる

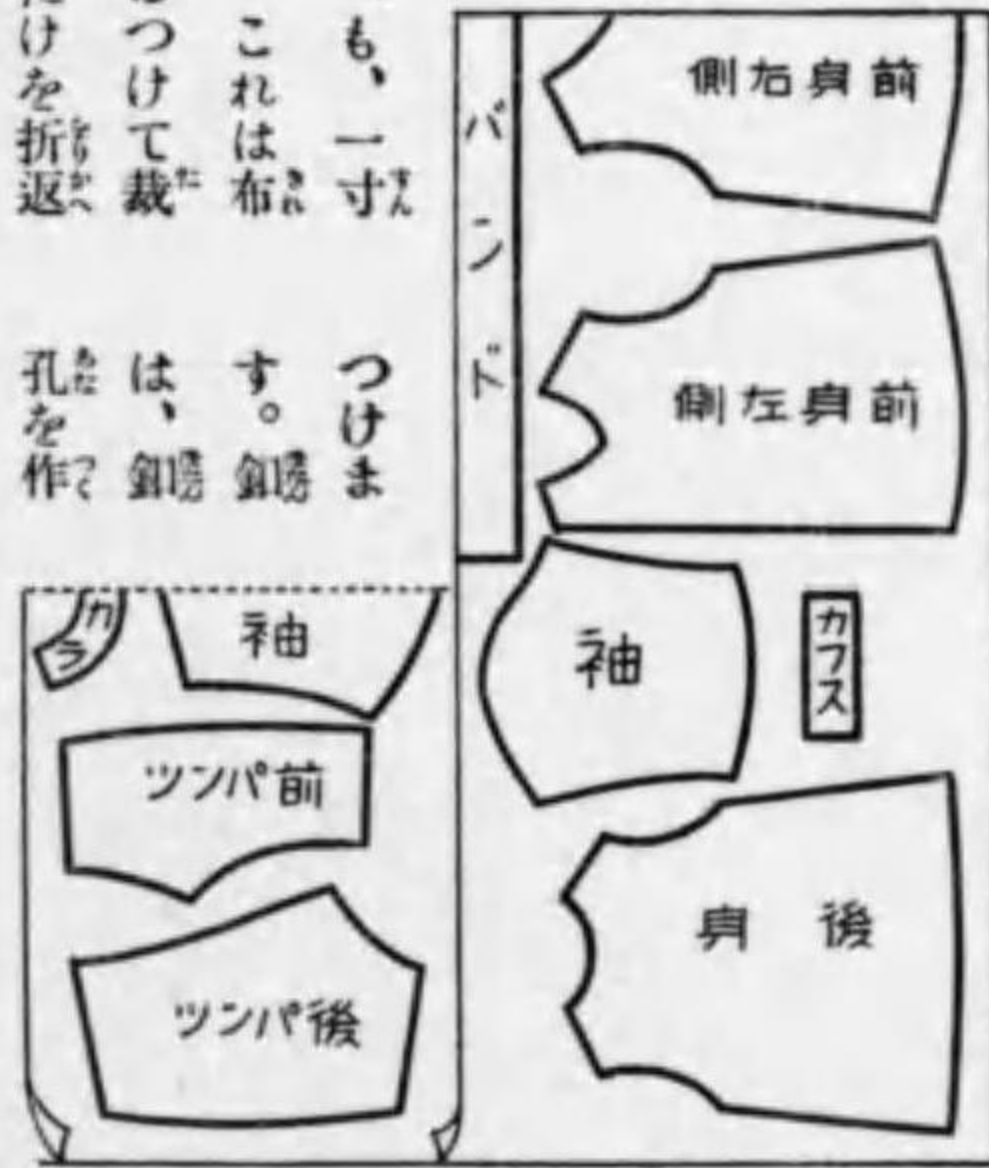
ときは布の表裏によく注意して裁ちます。

縫ひ方 袖、衿、バンド等は普通に作りま

す。前身右側へも、左側側縫ひのついてゐるところへも、一寸幅くらの裏をつけます。これは布を裁つときに、八分くらゐつけて裁つておきますと、その分だけを折返すだけで結構です。脇と肩を縫ひ、衿と袖をつけます。衿は、右側は前

の端までつけ、左側は前の中央までつけて、残りを右へ斜布を、そのまゝ、續けて

(第百二十一圖) 用布ラシャ幅二尺八寸での裁ち方



つけます。縫ひは、鈕孔を作つても、スナップスをつけて飾釦にしても、結構です。

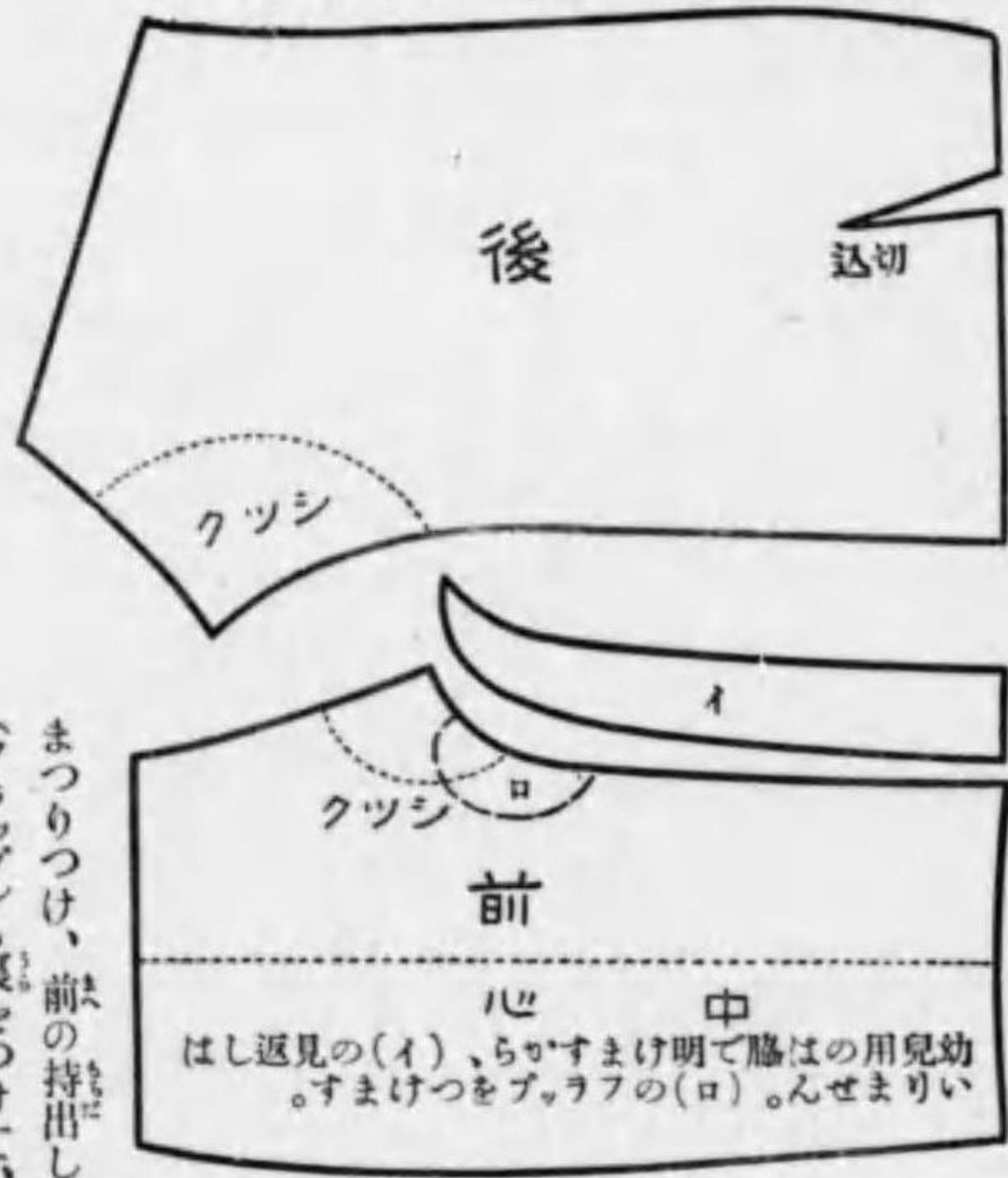


り上來出の服兒男型アシロ (圖二十二百第)

(二〇) ニッカースの作り方(その一)

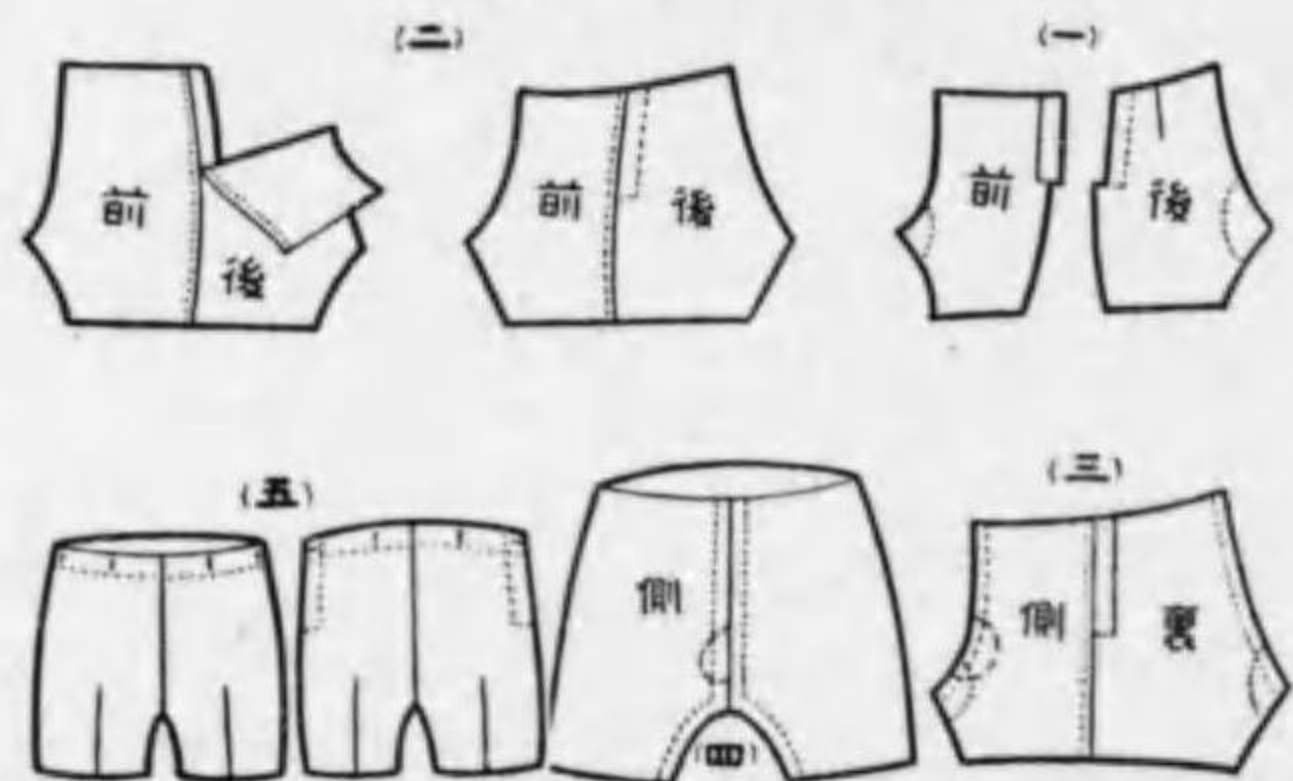
裁ち方 型紙を、圖のやうに並べて取り、前の中心は布目が真直になるやうに注意します。縫代も裾口は一、二寸、その他は二分くらゐ取り、用布は、ラシャ幅のときは脇丈に三寸加へた、け、一尺八寸から二尺幅(ネル幅)のときは、脇丈に三寸加へたものを、二倍を要します。

身前と身後のスカートニ (圖三十二百第)



五、六歳までの仕立方で、まづ、裏地をシツクを取り、前後共裏より

順序方立仕 (圖四十二百第)

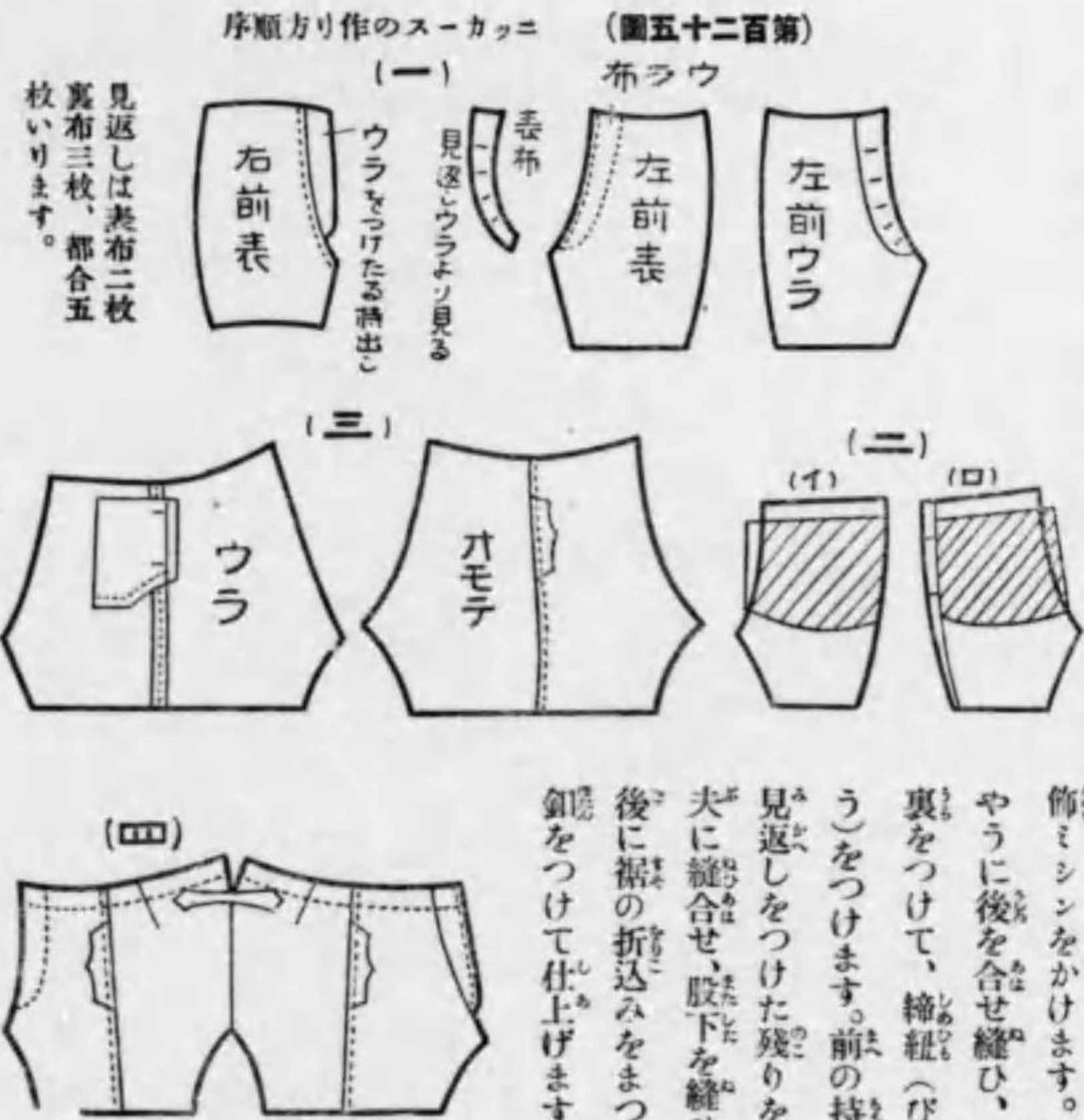


まつりつけ、前の持出し(フリップ)も裏をつけて、縫ひます。次に前身の脇の上に持出しをつけ、後の脇の上に、見返しをつつけ、(第百二十四圖) 参照) 後の上部の切込みも縫ひ、脇を縫合せます。(二)参照) 次に、前後を合せて縫ひますが、そのとき、前の右側に持出しをつけ、(三)参照) 次に股下を縫合せ、(四)参照) 裾を折込んでまつり、最後に腰に前後共、各別に一寸幅上りくらゐに裏をつけ、釦孔を作ります。

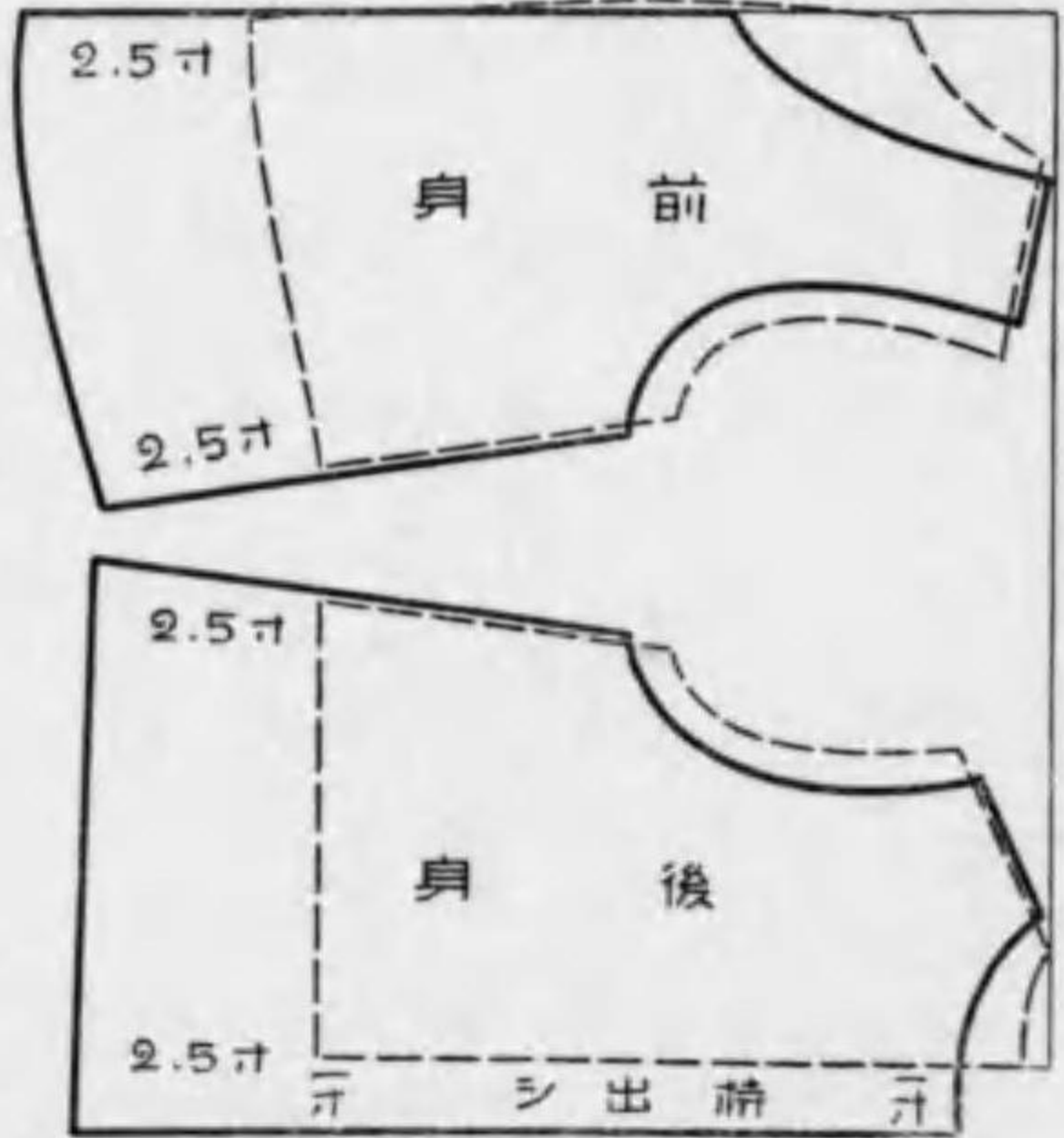
(二二) ニッカースの作り方(その二)

七八歳以上の仕立方。まづ後の上の切込みを縫ひ、前後に裏よりシツクをつけることは、五六歳までのと同様です。前の見返し持出しを作つてつけますが、このとき上前の見返し裏につける分に釦孔を作つて、それぞれつけます。(第百二十四圖参照)次に、脇に袋切(丈夫な木綿を用ひま

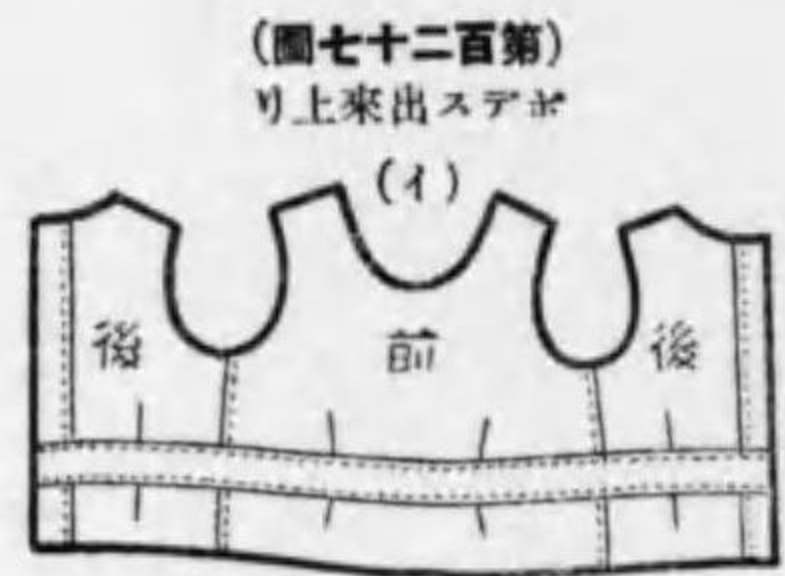
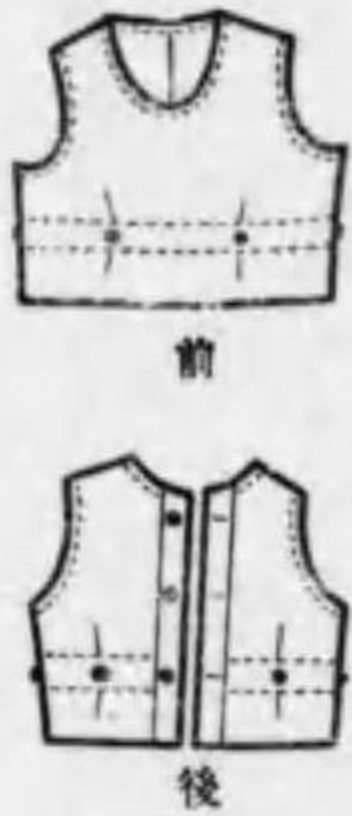
す)を、第百二十五圖(カ、イ)のやうに當て、(ロ)のやうに縫代を折つて、鍔をあてます。それから(三)のやうに、ポケット口より下を後と縫合せ、袋を縫ひます。袋の一方を後身にまつりつけ、表に返し、ポケット口へ、前だけ飾ミシンを掛けます。次に脇、次にポケット口より上を後とよく合せて、飾ミシンをかけます。(四)のやうに後を合せ縫ひ、腰に裏をつけて、締紐(びぢょう)をつけつけます。前の持出し見返しをつけた残りを、丈夫に縫合せ、股下を縫ひ、最後に裾の折込みをまつり、釦をつけて仕上げます。



(三三) ボデスの作り方



(型原は線點)方り作のステキ (圖六十二百第)



ボデスの作り方

縫ひ方。まづ後の持出しを、六分ほど裏に折つて、左右共ミシンをかけます。  
次に第百二十七圖の(イ)のやうに脇を合せ、原型背丈の標より上に釦をつけるために、帯の布を一寸以上二寸くらの幅につけます。そして、腹圍に緩く合せ、餘りの分は髪を寄せておきます。肩を合せ、袖割、袴割に斜布をつけて、仕上げます。釦は、ニッカースの孔に合せてつけます。

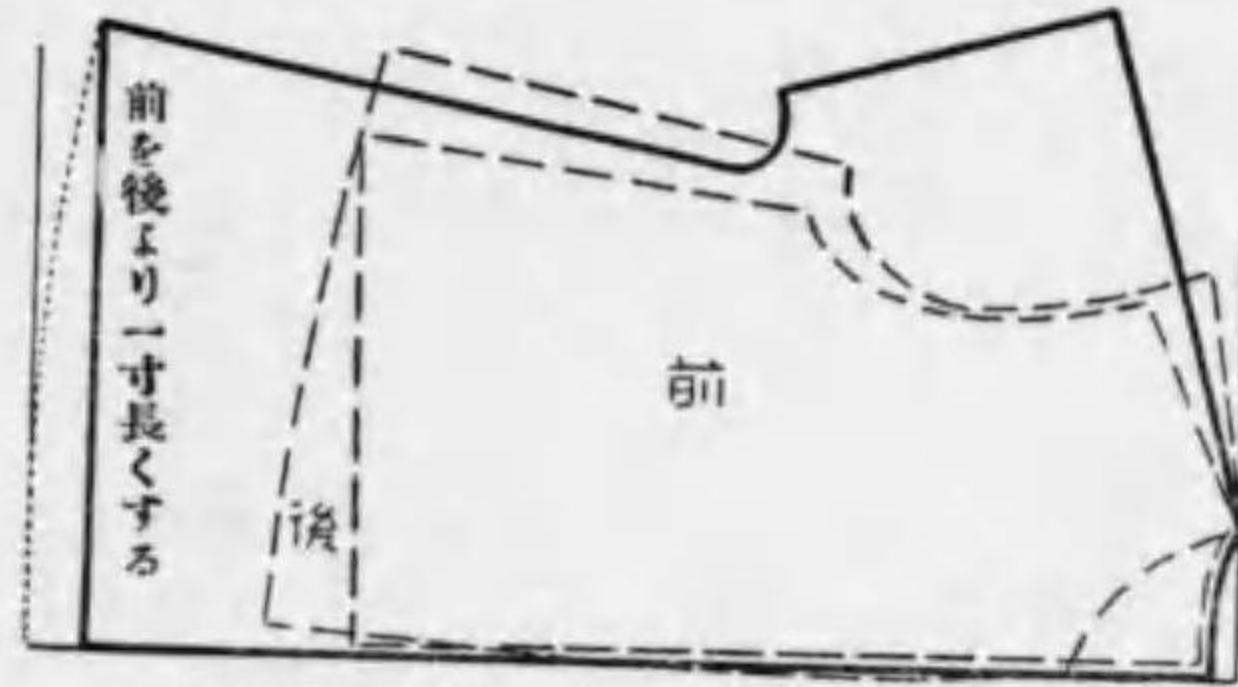
(二二) ウエストの作り方(七、八歳用)



(第百二十八圖) ウエストの出来上り

縫ひ方リカラー、カフスは、普通に裏と合せて作つておきます。前身真中に胸明と、左胸にポケットを作り、肩と脇を縫ひます。

背丈のところへ、ボデスのときのやうに、帯を裏からつけます。そしてカラーとカフスを



方ち裁の頃身トスイエウ (圖九十二百第)

をつけ、帯のところに、ニッカースと合せて鈕をつけて、仕上げます。ニッカースの縫ひ方に就ては、六五、六六頁を、御参照ください。

方ち裁のて尺五幅尺二布用 (圖一十三百第)



(圖十三百第) 方ち裁のーラカ

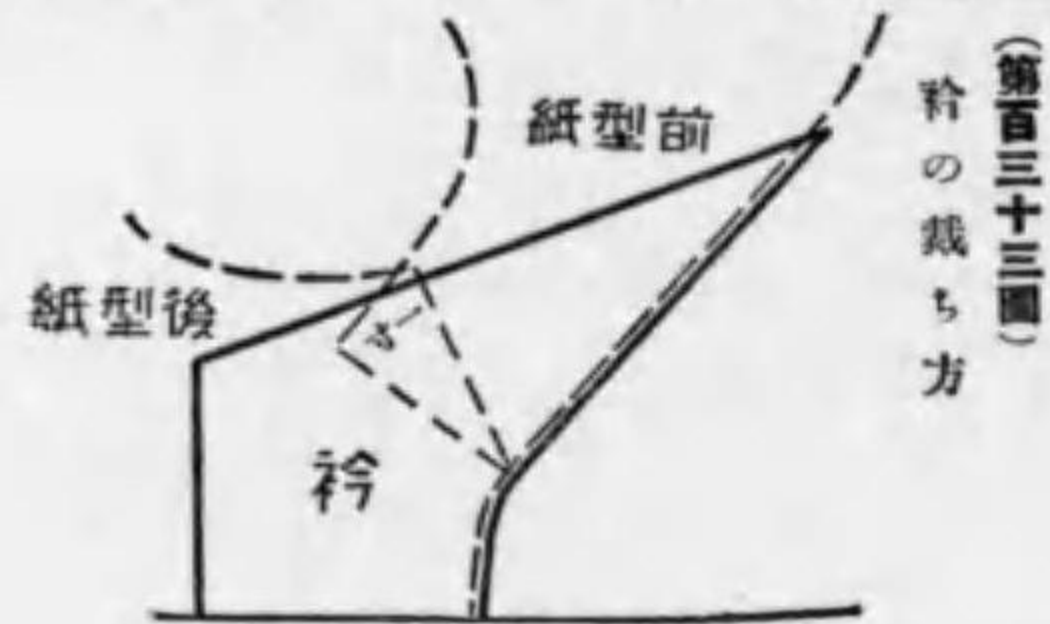
(二四) 水兵型男児服の仕立方

縫ひ方リ衿、袖は、普通に縫ひますが、カラーの縁やカフスにうつりのよい筋を入れます。次に、胸當に裏をつけておきます。

前身左胸にポケットを作り、脇と肩とを縫ひ、裾を折込んでまつり、衿と袖をつけます。ニッカースは、六五、六六頁を御参照ください。



(第百三十二圖) 水兵型服の前身と後身

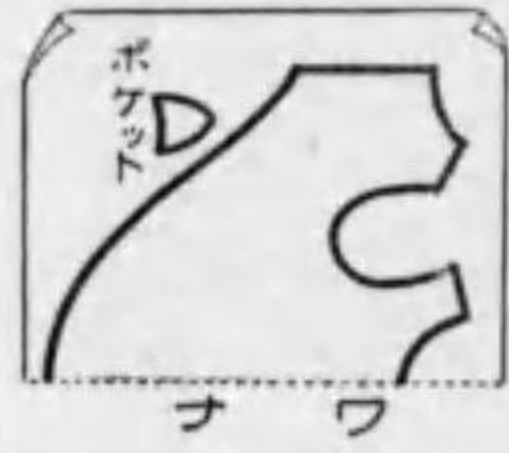


(第百三十三圖) 衿の裁ち方



(圖四十三百第) 水兵型服の出来上り





(第百四十圖) ポケットの作り方

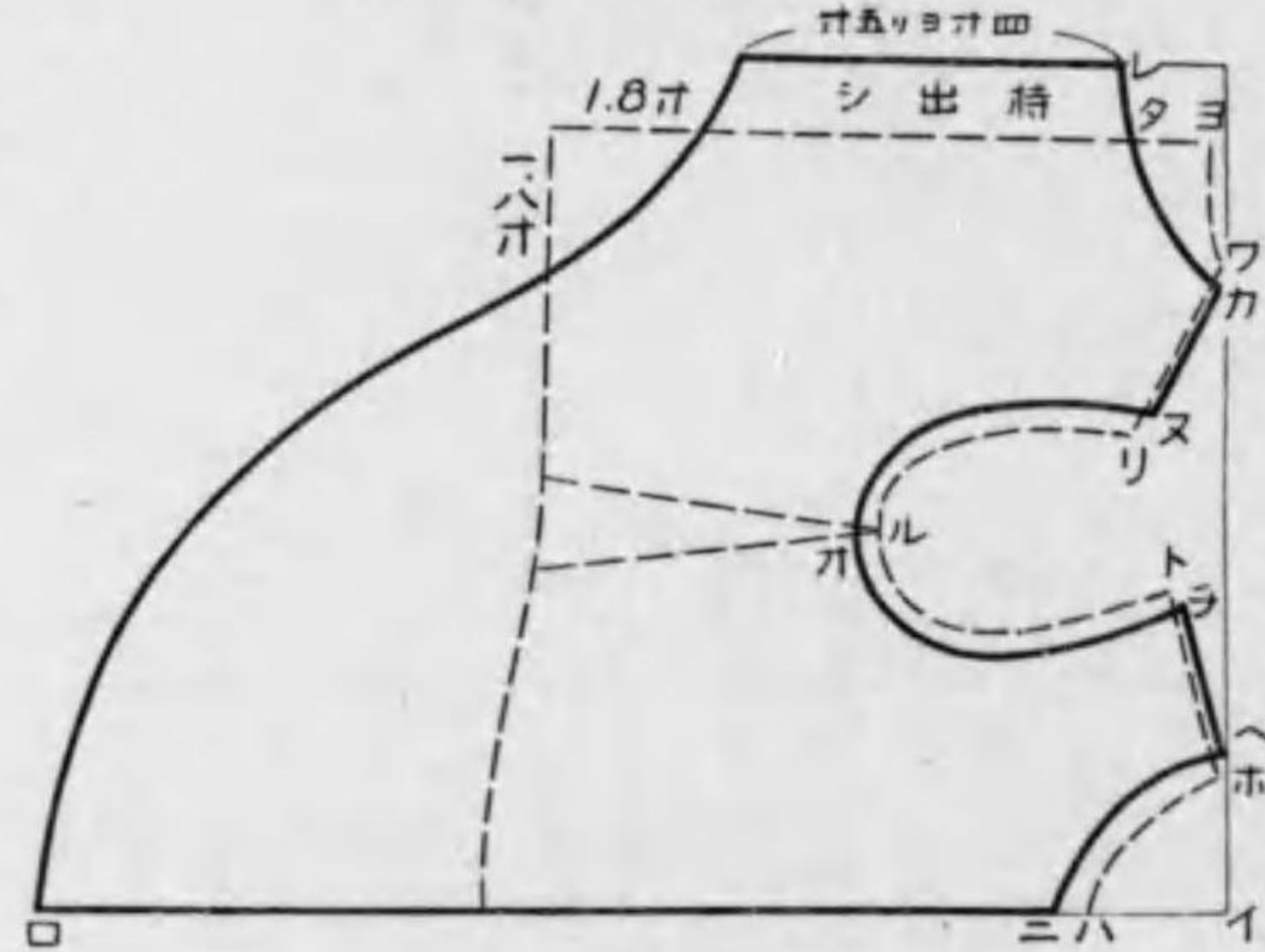
原型よりエプロンの作り方

縫ひ方

縫ひ方 1. まづ後の持出しに、裏をつけ、肩を袋縫に合せます。それから、衿割、袖割、裾等に、色の剥げないやうな斜布で、細く縁を取ります。

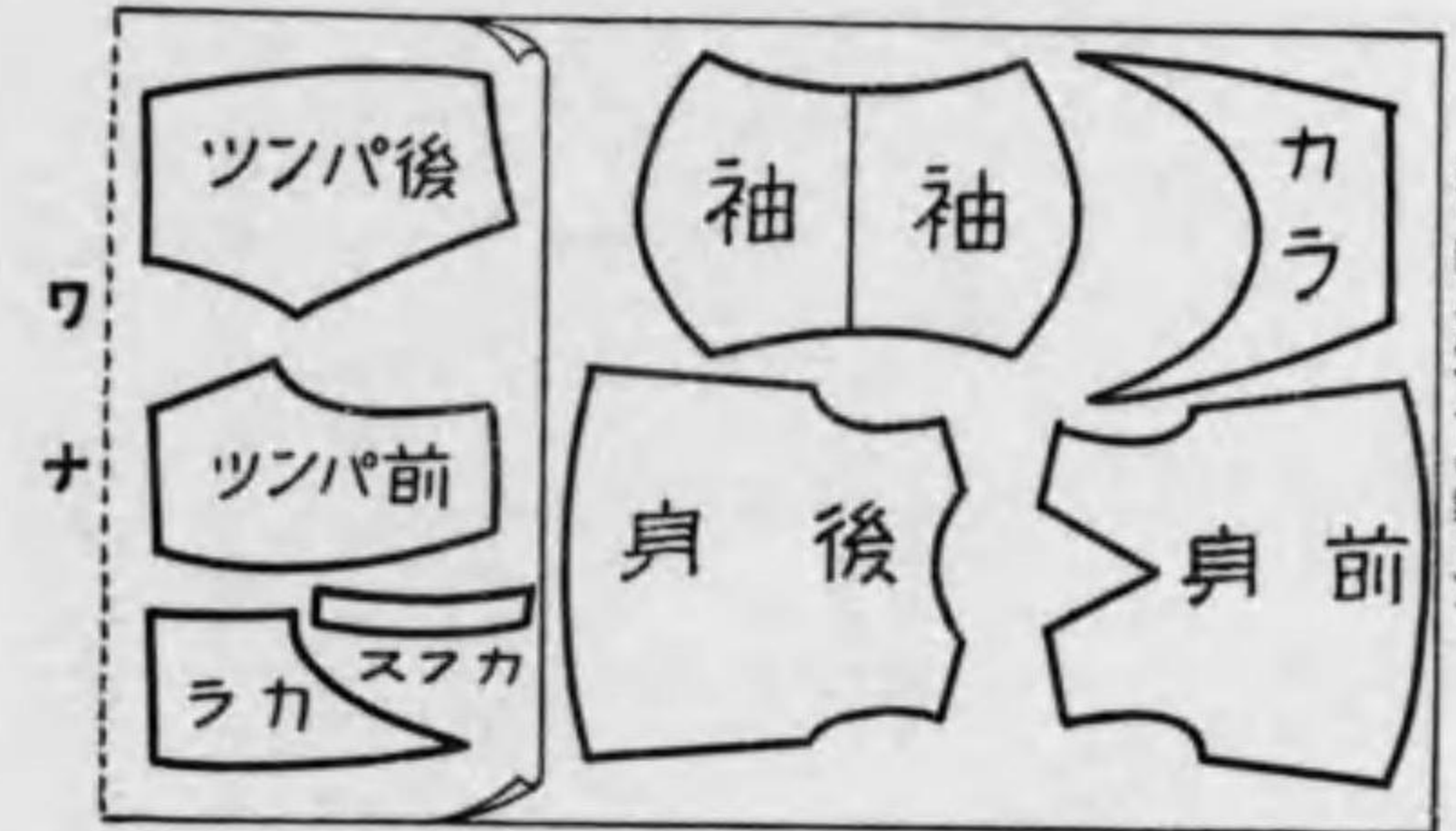
ポケットを、可愛い好みの形に作ると、全体が引立ちます。

方も裁のンロブエ (圖九十三百第)

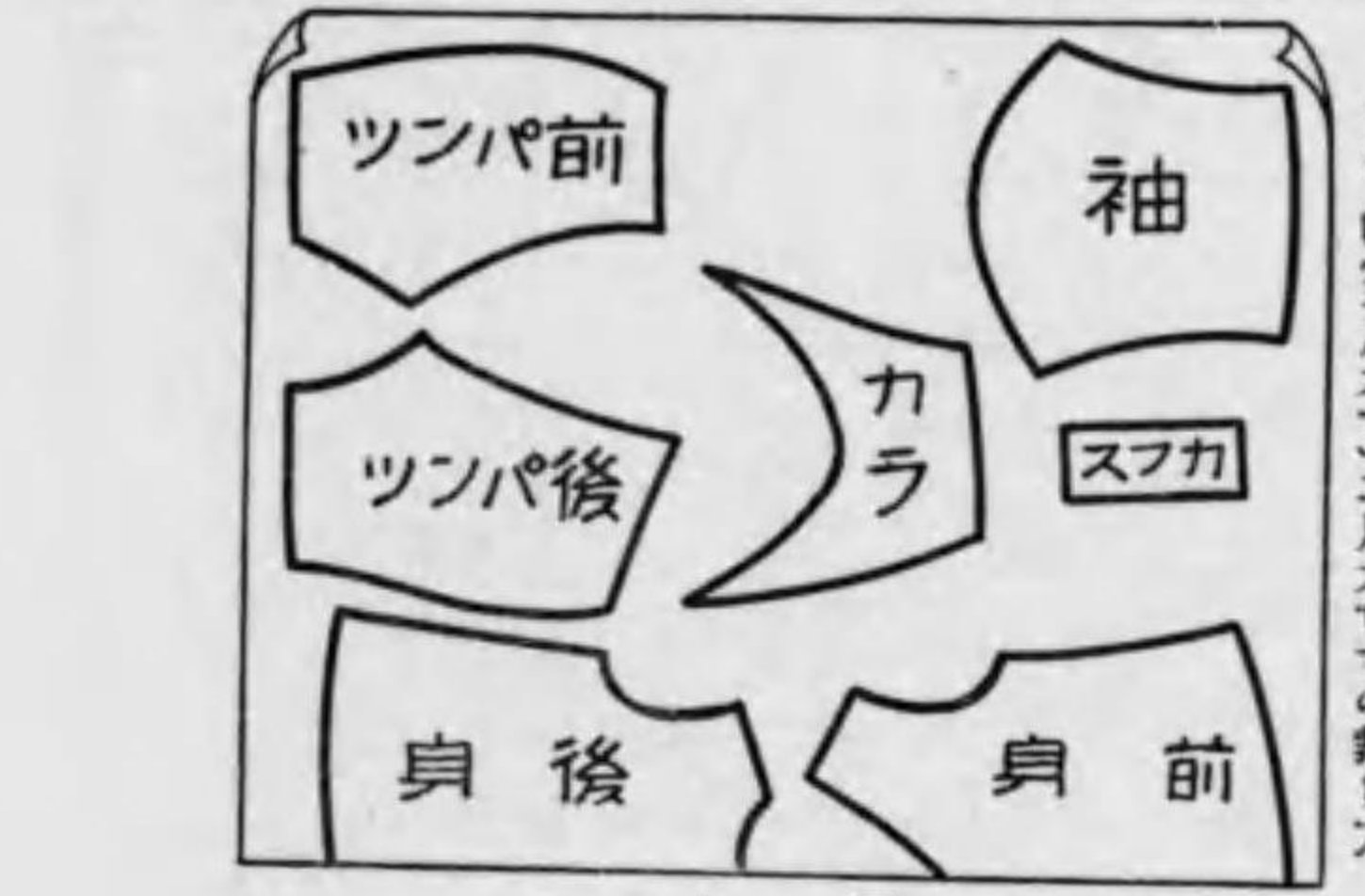


丈 = ロ...イ  
分五各 = { ニ...ハ, ヘ...ホ, チ...ト, ヌ...リ, オ...ル, カ...ワ }  
寸 = タ...ヨ  
寸 = レ...タ

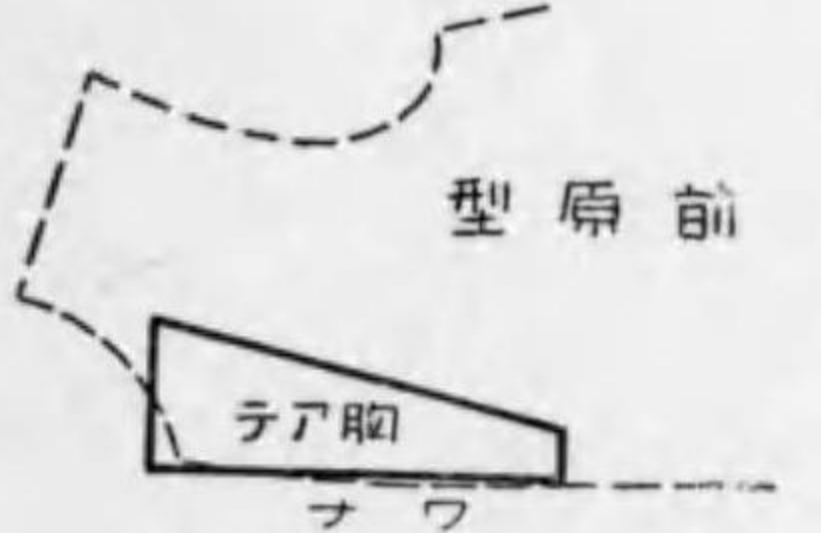
(二五) 原型よりエプロンの作り方(その二)



(第百三十七圖) 木綿幅一尺八寸より二尺 長さ四尺八寸での裁ち方

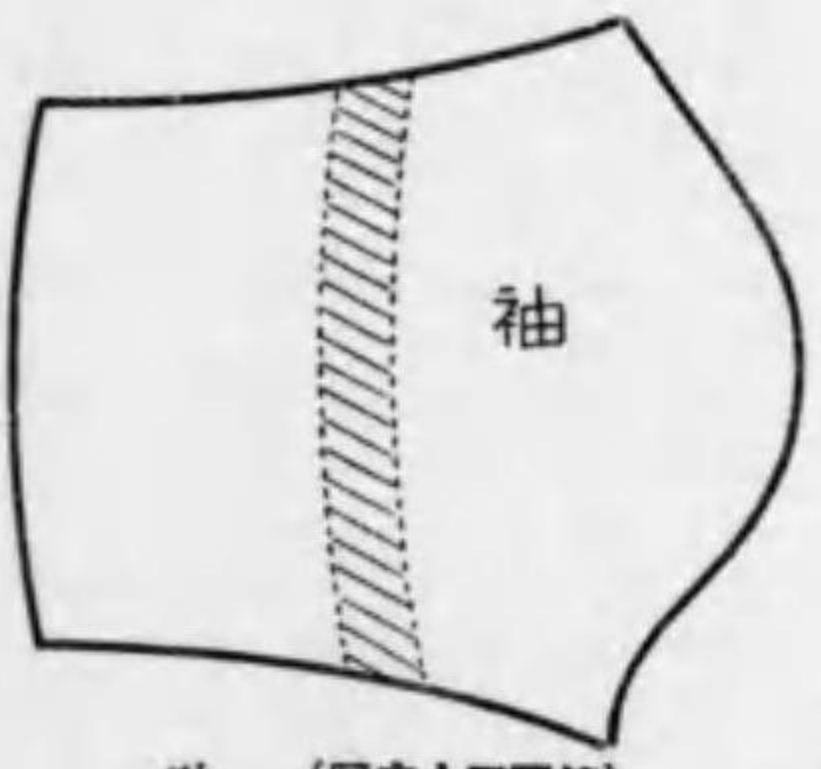


(第百三十八圖) ラシヤ幅(三尺六寸)二尺九寸での裁ち方



婦人子供服の作り方

方も裁のりよ型原 (圖五十三百第)

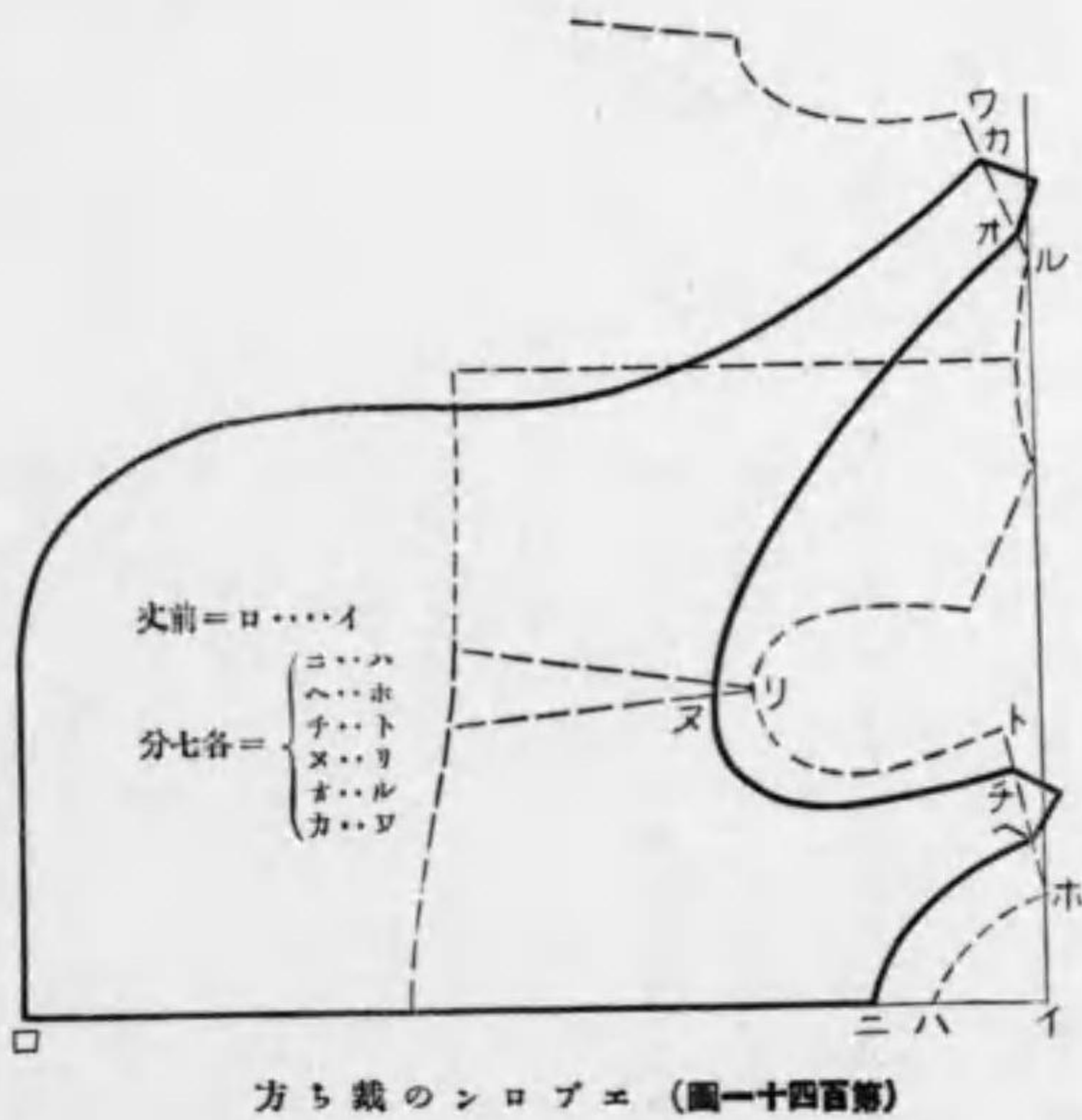


袖 (圖六十三百第)

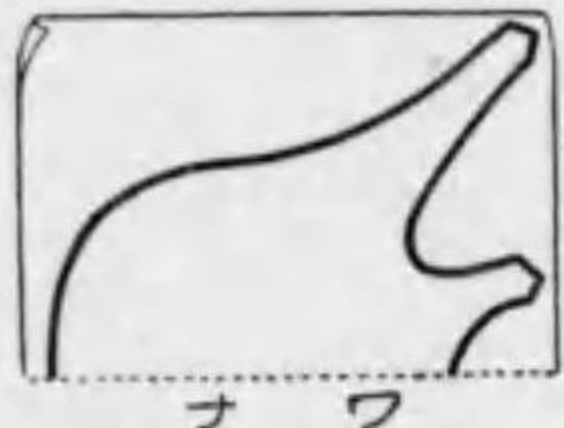
袖 (圖六十三百第)

ナワ

(二六) 原型よりエプロンの作り方(その二)



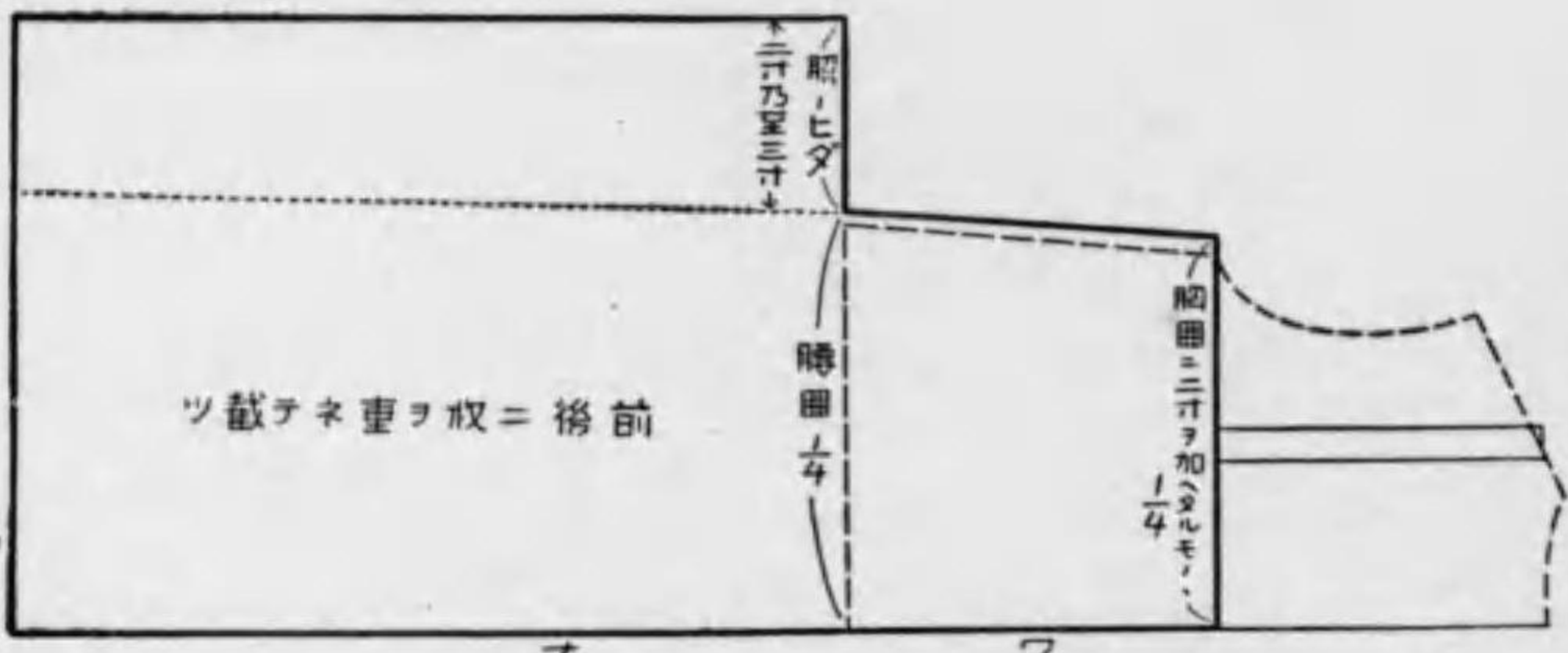
方ち裁のンロブエ (圖一十四百第)



(圖二十四百第) 方ち裁のトッケホ

縫ひ方 この型は、釦を外せば、一枚に擴げられますから、洗濯やアイロン掛等に、便利です。  
 縫ひ方の要點は、肩の釦で、留めるところに、裏より力布をつけて、全部に縁を取ることにして。  
 それから、後に釦孔を作り、ポケットをつけて、仕上げます。

(三七) 婦人用シエミーズの仕立方

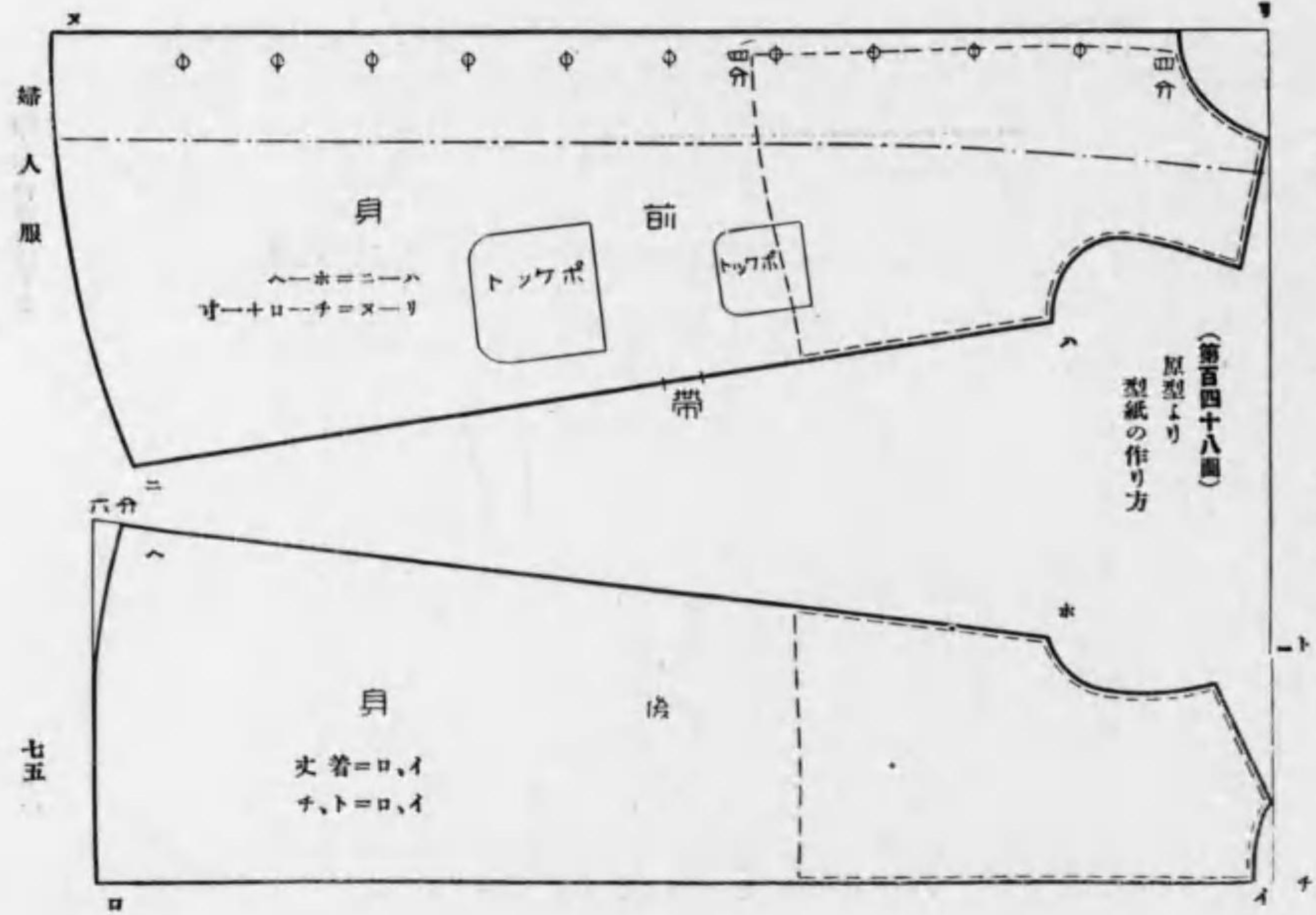


方ち裁のズーミエシ (圖三十四百第)

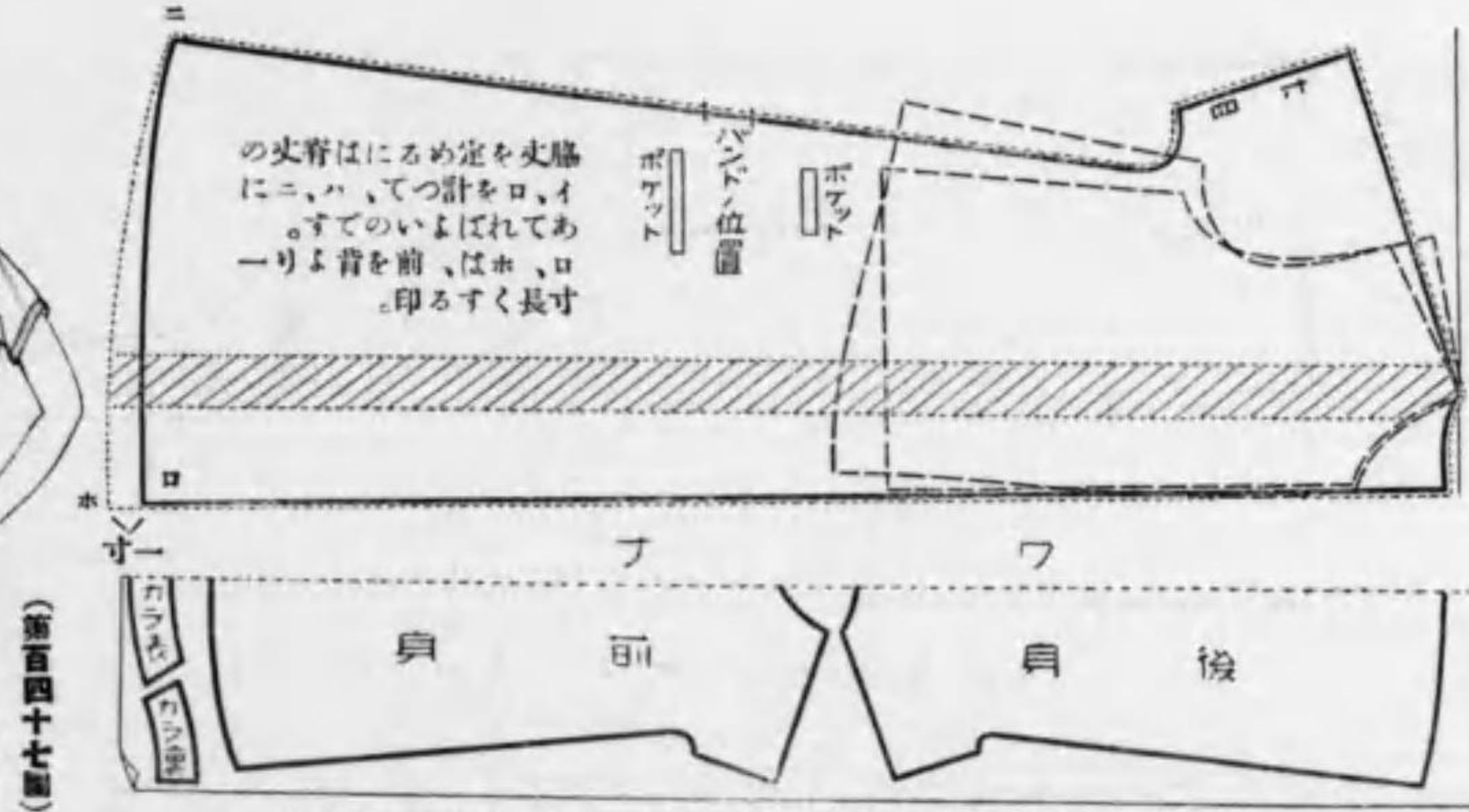
注意 前後二枚を重ねて同じやうに裁ちます。丈は普通の着丈より一寸乃至二寸短くし、裁つときは、上の紐通しの分一寸と裾の折込みとを見て積り、用布は肩から吊つた紐の丈を着丈より引き、それに縫込みを加へた二倍を要し、紐の幅は仕上り七分です。  
 縫ひ方 脇を上下別々に縫ひ、次に脇の縫をた、み、第百四十四圖のやうによく落着けて、縫の上のところへ、表からミシンをかけ、動かぬやうにします。次に裾を折込んでまつり、或はミシンをかけ、胸のところもリボンを通すやうに縫ひます。そのとき、豫め作つておいた紐を通し、前の中に五六分の間をおいて、リボン通しの孔を二つ作ります。



(圖四十四百第) リ上來出ズーミエシ



(三九) 婦人服(その二)



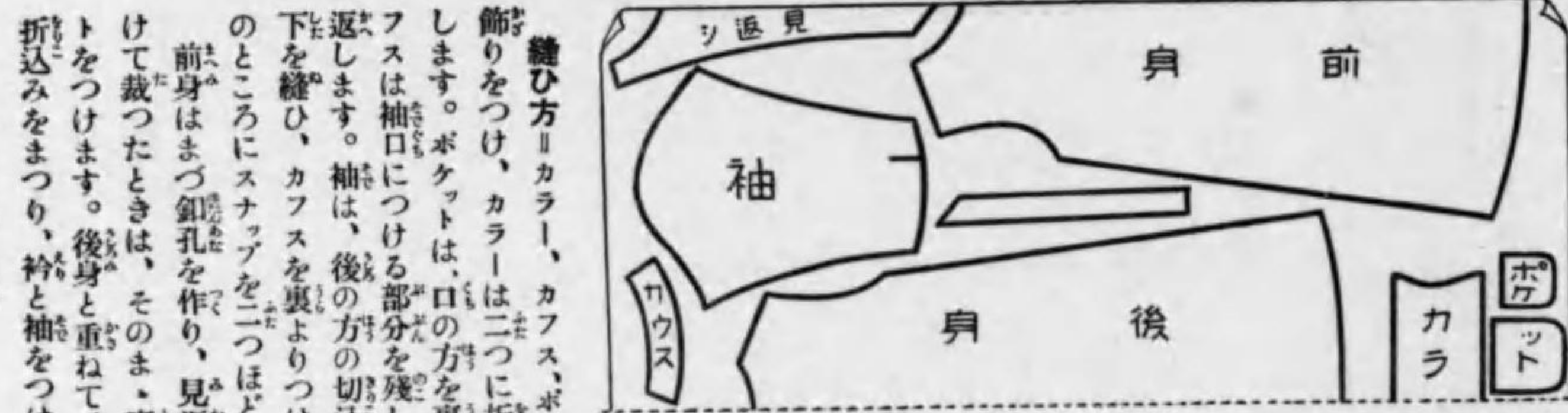
方ち裁のて(布飾に別)寸五尺六幅尺二布用 寸八尺二丈身り上來出 (圖五十四百第)

縫ひ方、まづ前身にボケットを作り、飾りをつけ、胸を第百四十七圖のやうに明け、カラも、表裏二枚を合せて、飾布で細く縁を取り、肩と脇を合せて縫ひ、裾の折込みをまつり、次に袖口も、袖口に細い縁を取り、袖とバンドをつけます。注意、衿にかう縁を取れば、裁つた寸法に仕上るゆゑ、裁つときに縫代は不用です。

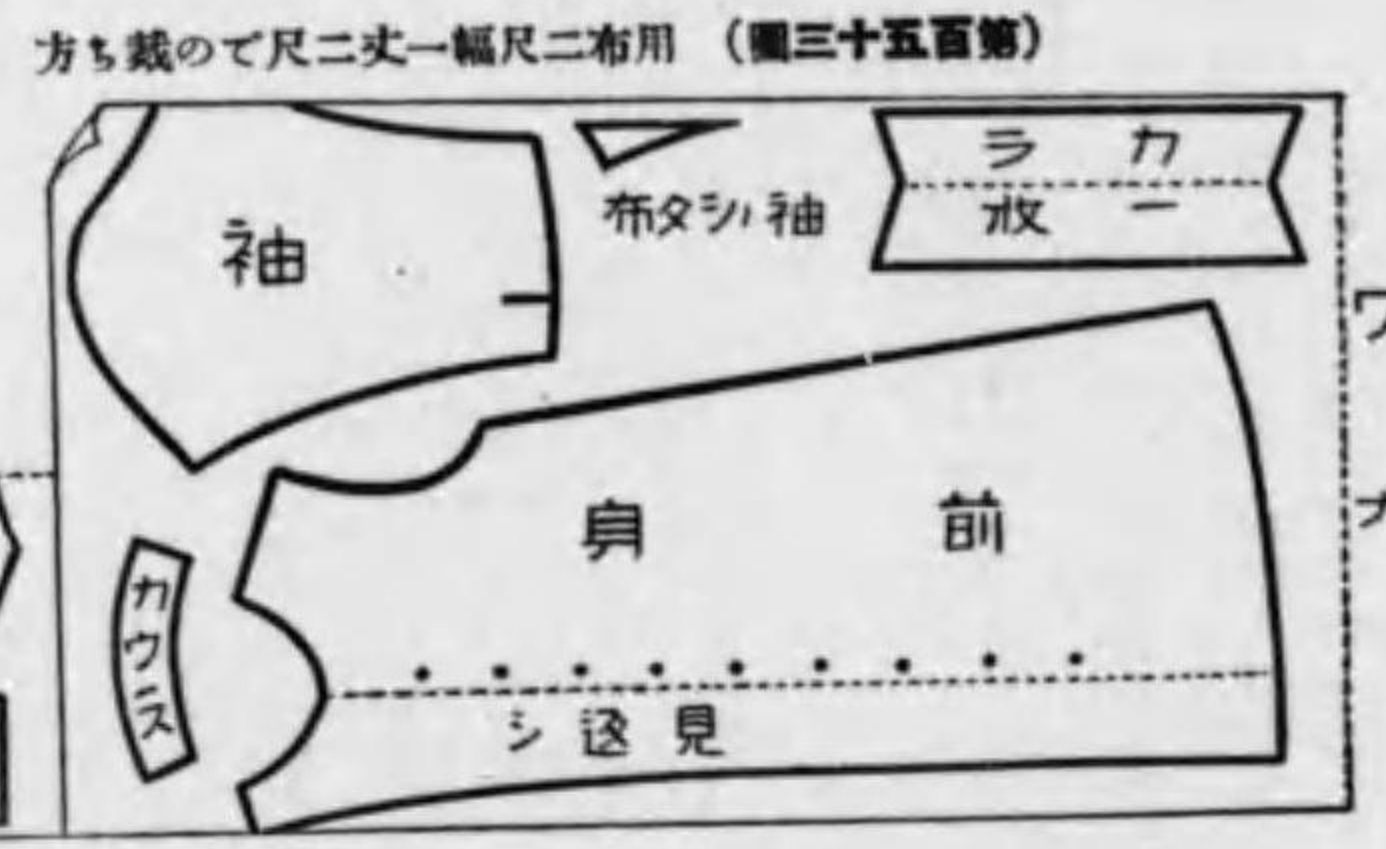
（第四十六圖）  
カラーの裁ち方

カラ  
ナワ

1.8寸  
1.8寸  
1.8寸  
8分



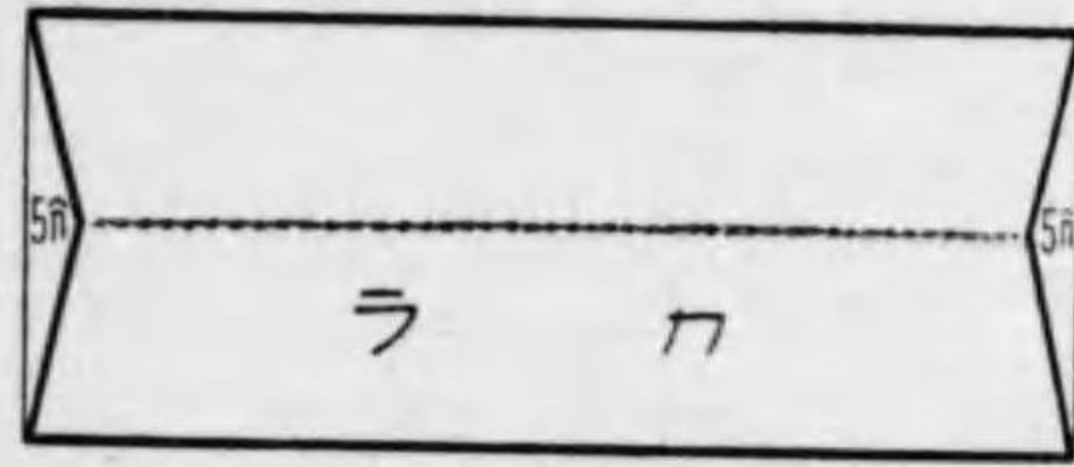
方ち裁ので寸五尺四幅ヤシフ布用 寸八尺二丈リ上來出 (圖二十五百第)



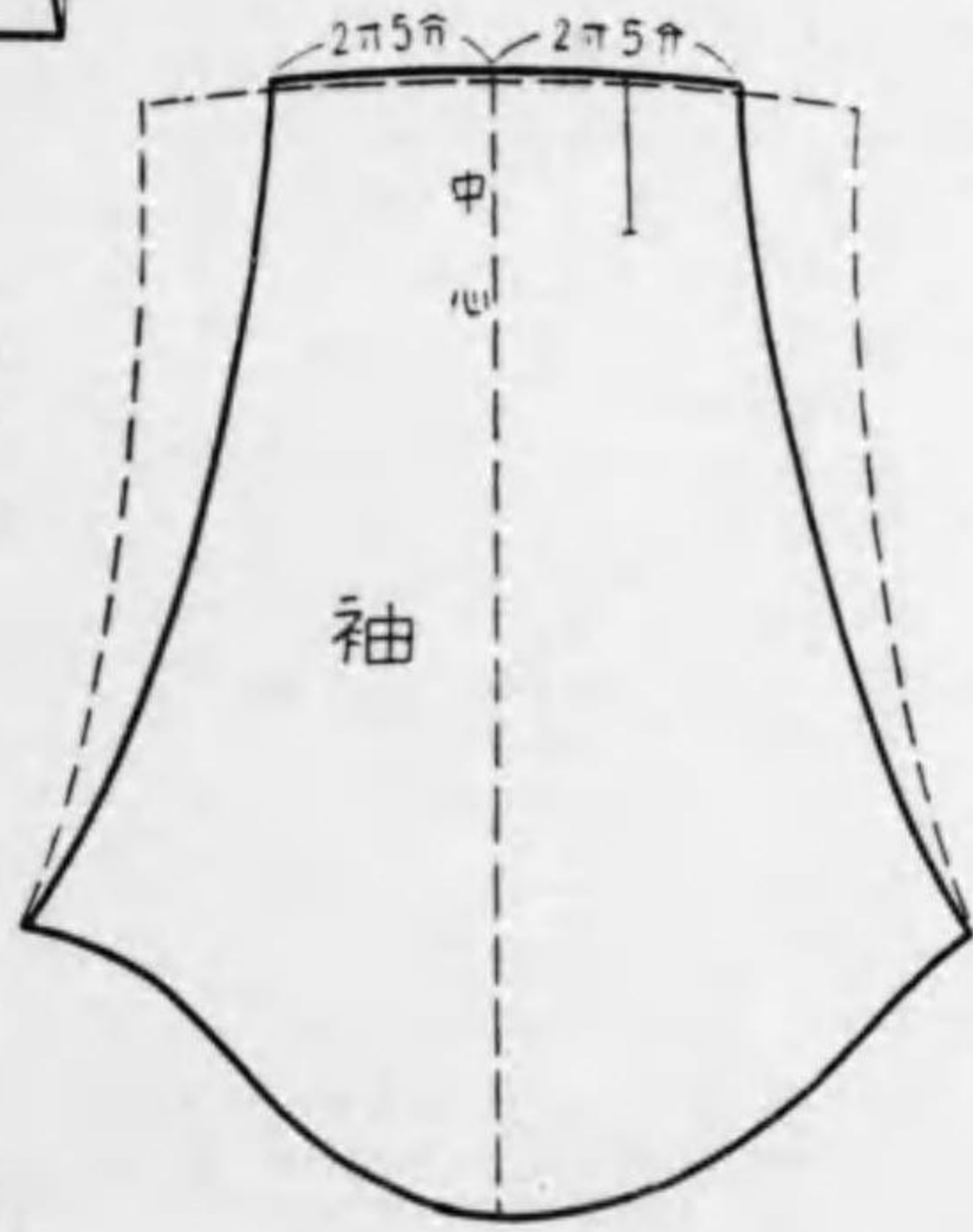
方ち裁ので尺二丈一幅尺二布用 (圖三十五百第)

縫ひ方リカラー、カフス、ポケットに、いづれもまづ飾りをつけ、カラーは二つに折つて、両端を縫つて返します。ポケットは、口の方を裏に折返してまつり、カフスは袖口につける部分を返し、裏をつけて三方を縫返します。袖は、後の方の切込みに細く縁を取り、袖下を縫ひ、カフスを裏よりつけて、表に返し、切込みのところをスナップを二つほどつけます。前身はまづ釦孔を作り、見返しをつけ、(見返しを續けて裁つたときは、そのまゝ裏に折込む)次にポケットをつけます。後身と重ねて、肩及び脇を縫ひ、裾の折込みをまつり、衿と袖をつけ、前に釦をつけます。

スフカと袖 (圖九十四百第)



ラカ (圖十五百第)



注意 前の見返しは、用布の都合によつては、前身と續けて取つても、別々になつても、或は下の方で接いてもかまひません。衿もまた、一枚に取つても、中央が接ぐやうになつても結構です。バンドは身丈の中程につけます。但し、丈を割合に長く着る場合は、中央より少し上になります。またカラー、カフス、ポケット等は、うつりのよい別布で取つても、或は共布でも、それは適宜でよいのです。

(圖五十一百第)  
婦人服の出來上り



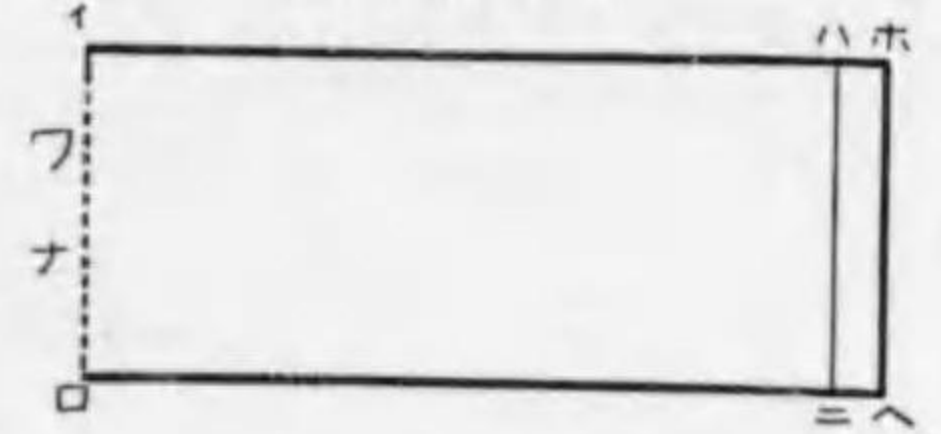
### (三〇) 幼児パロコートの作り方

(第百五十四圖) パロコートの裁ち方



これは二尺幅の布を丈二尺に裁つ

(圖五十五第)



(圖六十五第) のトコロロバ  
り上来出

ハ—ロ 三寸五分  
 ハ—ニ 八寸  
 ニ—ハ 一寸

パロコートは、肌着の直ぐ上に着せて、『むつき』の温気が上着に透らないために使ふので、用布は本ネルが一適當です。着せてから、出来上り圖のやうに、下を上へ折返して、安全ピンで留めておきます。

縫ひ方は、極く簡單ですから、出来上り圖を注意して御覽くだされば、お判りになると思ひます。

### (三一) 幼児スリッパの作り方

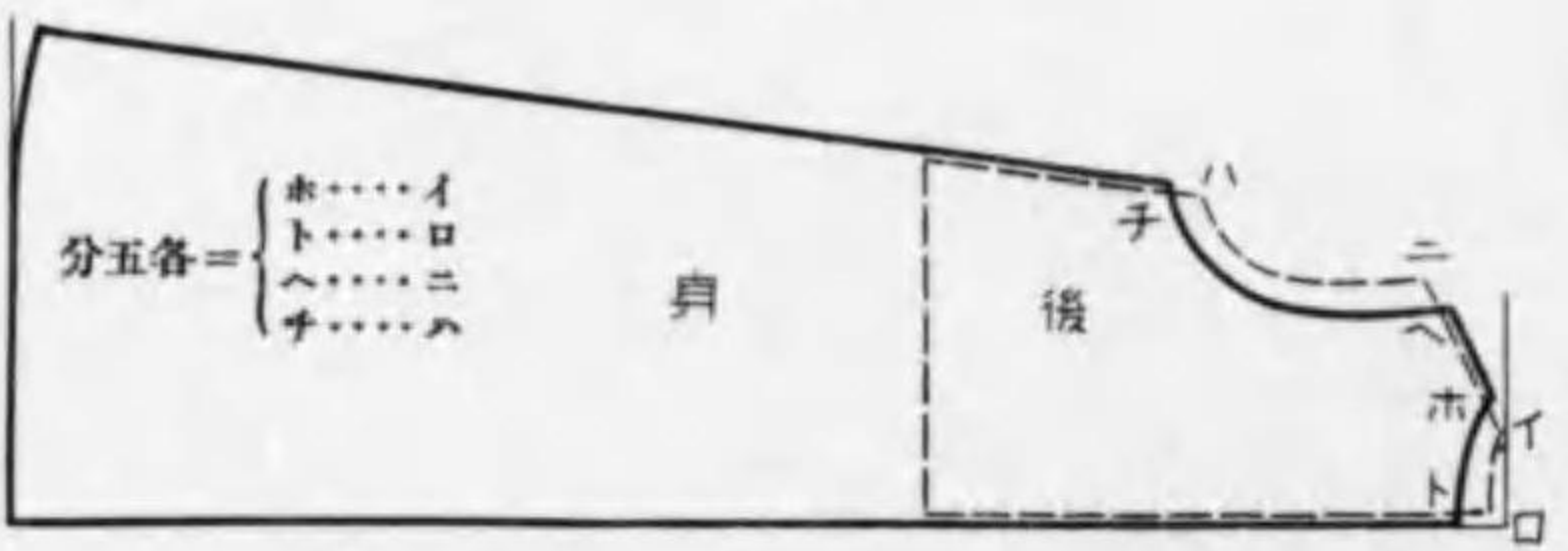
(第百五十七圖) スリッパの出来上り



方ち裁のプッリス兒幼 (圖八十五第)



分五各 = { カ...ル  
 オ...リ  
 ヲ...メ  
 ヨ...オ



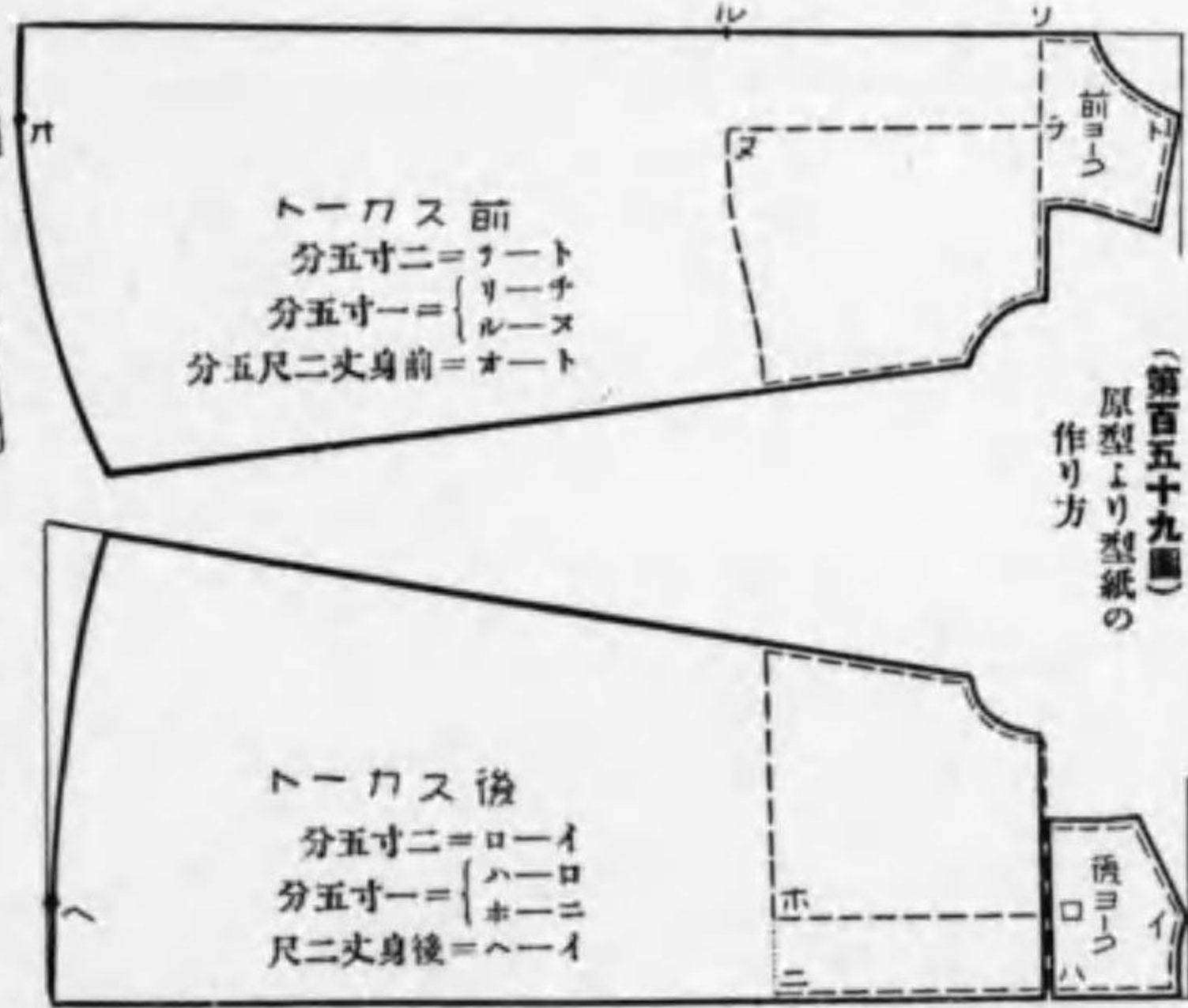
分五各 = { ホ...イ  
 ト...ロ  
 ヘ...ニ  
 チ...ハ

裁ち方及び縫ひ方は、共に簡單ですから、別に説明はいらないと思ひます。たゞ念のために申上げておきますけれど、丈は上着より一寸短く、縫ふときは後に持出し、前に見返しをつけて、釘で留めます。

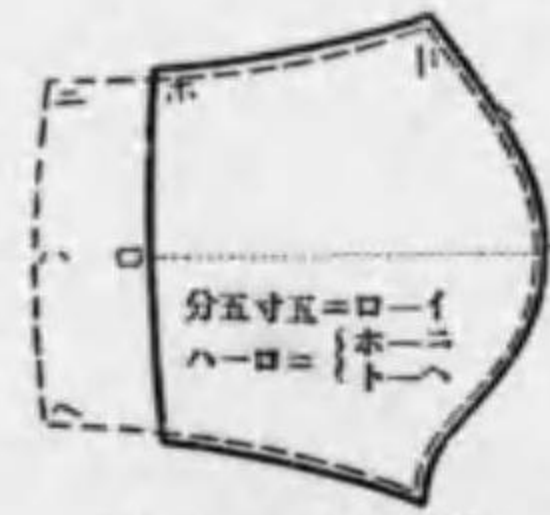
圖をよく御覽になつて、お試しく下さい。

(三三) 幼児服の作り方

(第百五十九圖) 原型より型紙の作り方



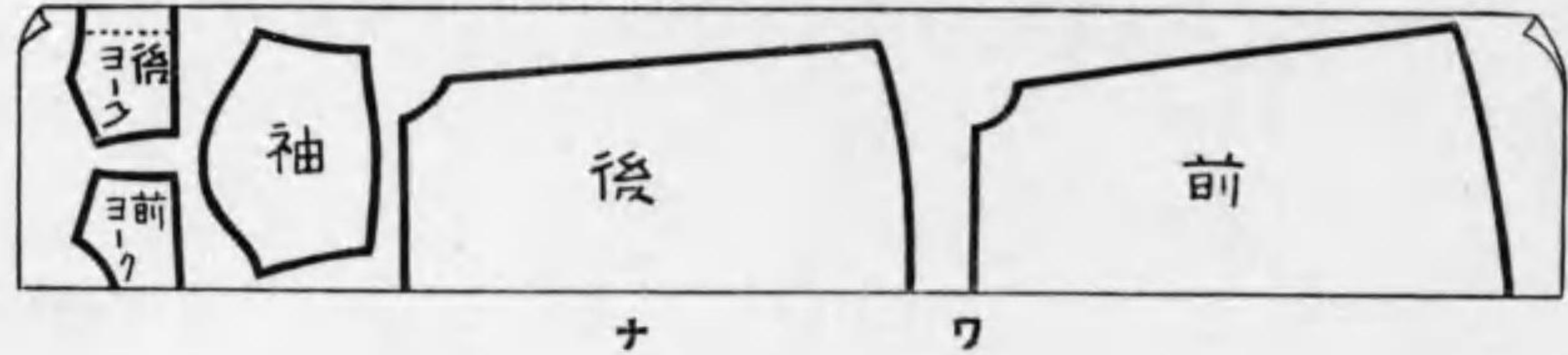
(第百六十圖) 幼児服の出来上り



袖 (圖一十六百第)

幼児服は、最も發育の盛んなときに着るものであるし、その上に、下着も多く着ますから、緩く、仕立てなければなりません。ゆゑに原型も三四歳用のもので丁度よいのです。身丈は假に二尺としましたが、二尺以上、二尺二三寸くらゐに作り、歩き始めるやうになりましたら、タック(縫揚げ)をして、足の出るやうにして用ひます。原型から型紙を作るときは、原型を、第百五十九圖のやう

方ち裁ので尺五幅寸八尺一布用 尺二丈身 (圖二十六百第)

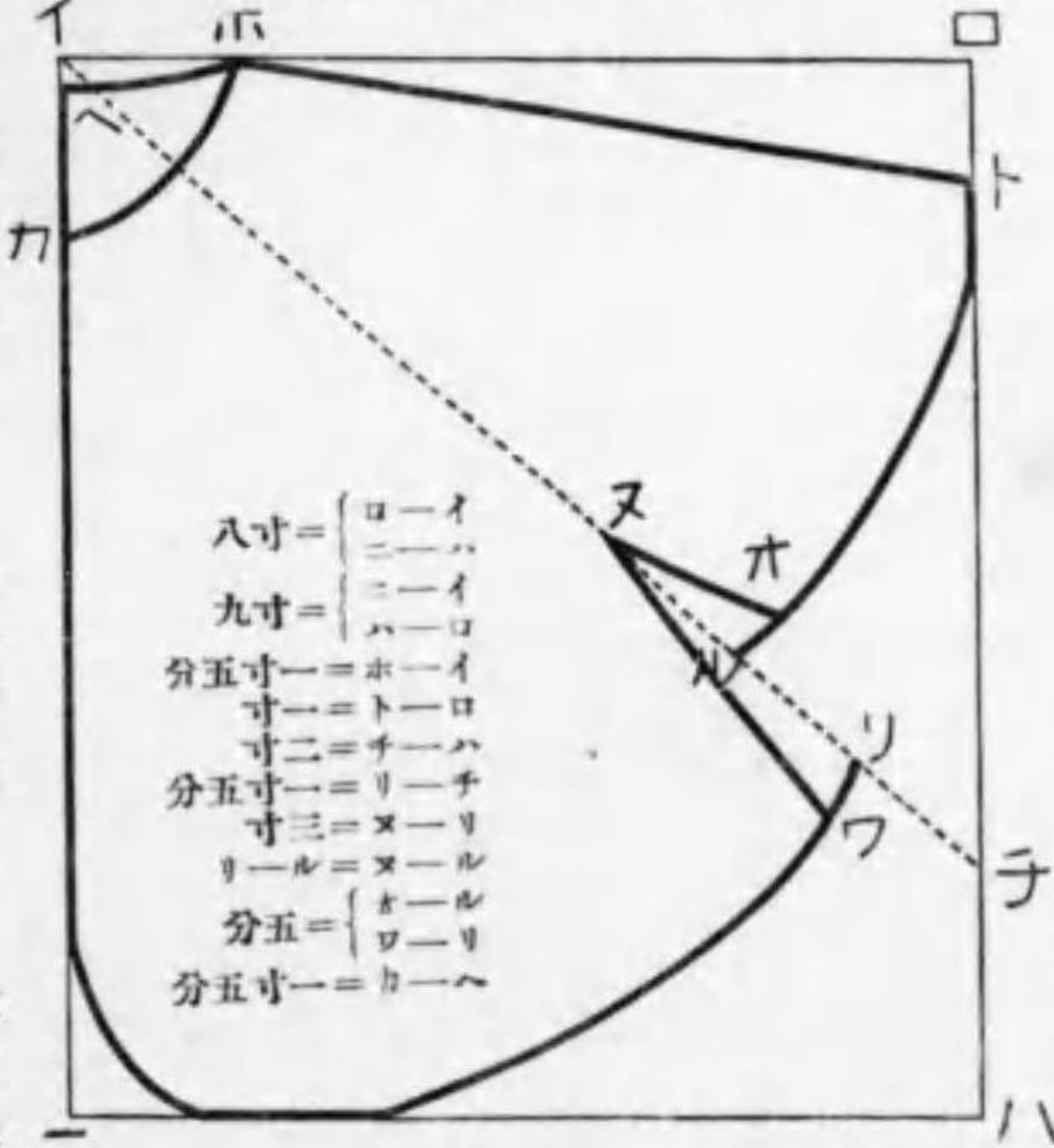


幼児服の作り方

に、肩山より二寸五分くらゐのところを真直に折つて、その上部をヨークの型に取り、下部を(後)ヨーク、ハ、ホ、ニ、前チ、リ、ヌール(参照)一寸五分ほど長く裁ちます。これはギダグダのための餘裕です。縫ひ方、袖は、普通に長く裁ち、袖口にギダグダを寄せて、レース等をつけます。後身は、スカートを背中の中央で三四寸切明け、持出し、見返しを作ります。このときは右側が上前になるやうにします。前後共、スカートの上にギダグダを寄せ、ヨークと合せます。脇と肩を縫ひ、頸圍にレースをつけ、裾の折込みをまつり、後身の合ふところへ鈕孔をかゝり、仕上げます。注意、用布は、寒いときはフランネルかセル、暑いときはメリンスローン、ギンガム等で作るのが、便利と思ひます。着せ方は、肌にはシャツを着せます。これは、メリヤス製のもので賣つてをりますから、それを用ひますが、手に入らぬときにはガーゼ、或は晒木綿等で作り、前を紐で結びます。その上にバローコート、次にスリップ、そしてこのドレスを着せます。

(三三) 幼児ジャケツの作り方

方ち裁の紙型 (圖三十六百第)



八寸 = 一オ  
 九寸 = 二ハ  
 分五寸 = 一カ  
 分五寸 = 二チ  
 分五寸 = 一リ  
 分五寸 = 二ワ  
 分五寸 = 一ヌ  
 分五寸 = 二オ

は、出来上り圖のやうに縁に飾縫をし、紐をつけて結びます。厚地ならば一枚でもよく、また裏をつけてもよく、裏は二枚合せて縫ひ、縁は飾縫の代りに、斜布かりボンでも綺麗です。用布の充分あるときは肩で合せず、第六十四圖のやうに一枚に裁ちます。(完)

方ち裁の布用 (圖四十六百第)



(圖五十六百第) リ上來出ツケッ



裁ち方及び縫ひ方 第六十三圖の寸法で、原型を作り、第六十四圖のやうに、前後の肩を合せ、背中を布のわなの方にあて、裁ち、裏は表の通りに、裁ちます。縫ひ方

# 主婦之友

### 最も親切な雑誌

『主婦之友』ほど家庭の實際生活を重んじる雑誌はありません。またどんな小さな記事に対しても、『主婦之友』ほど強い責任感をもつて扱はれるものはありません。『主婦之友』の實際記事は解り易い、誰にも解る、と言はれるのも、畢竟するに、こゝに原因するのであります。

### 最も面白い雑誌

雑誌の生命は、面白いといふところにあります。面白い中に教へられるところのある雑誌は、即ち最上の雑誌であります。『主婦之友』に掲載されるところの小説、或は興味的記事について御覧ください。すべてこれを證して、あまりあるもの、みであります。

### 最も安價な雑誌

『主婦之友』は、毎月はち切れるばかりの内容を備へて、定價は一冊たゞの五拾錢、半々年分參圓貳拾錢、一年分六圓貳拾錢、同海外八圓といふ、驚くべき廉價であります。何卒最近號を一冊なりと御覧くださいませ。事實は千鈞の重みをもつてこれを證明いたします。

發行所 主婦之友社 東京・神田・駿河臺

昭和四年二月十五日 印刷  
 昭和四年五月八日 發行  
 (定價壹圓卅錢)

きつ紙型 方り作の服供子人婦

力

發行所 主婦之友社 (東京・神田・駿河臺)

編輯者 ガントレット恒子  
 發行所 石川武美  
 印刷者 竹内喜太郎

日清印刷株式會社印刷

### 洋服新裁縫

元女高師教授  
高橋イネ著

(定價三圓五十錢)  
(送料十八錢)

洋服一切の仕立方に關する根本知識を、秩序的に詳述しましたのは、この書です。著者は元文檢委員として噴々たる盛名のありました方だけに、檢定用の參考書としても、また家庭用の書としても、最も好適のものとして、好評を博してをります。是非御一讀のほどを願ひます。

### 編み方百餘種 新型毛絲編物全集

日本女子大學講師  
高木美代子著

(定價二圓五十錢)  
(送料十四錢)

赤坊用より大人用に至るまでの編物を、順序立て、詳解したのが、この書です。この度根本的に改訂を施し、最新流行の新型數十種をさし加へ、用紙をも全部アート紙に改めました。この種の書中、この書ほど、内容外観ともに完備したものは、絶対に他にありません。

### 昭和四年型毛絲編物新型集 第二輯

一流十大家執筆

(定價各一圓十錢)  
(送料各十錢)

現代第一流の編物の先生方の新考案を發表しましたので、好評を博してゐます。これ等は單に形が新しいのみならず、運動、保温等の點に於て、眞に理想的のもの、みであります。流行の中心を捉へた、最も美しい氣の利いた書として、到るところ好評を博してゐます。

### マクラメの作方集

一流十大家執筆

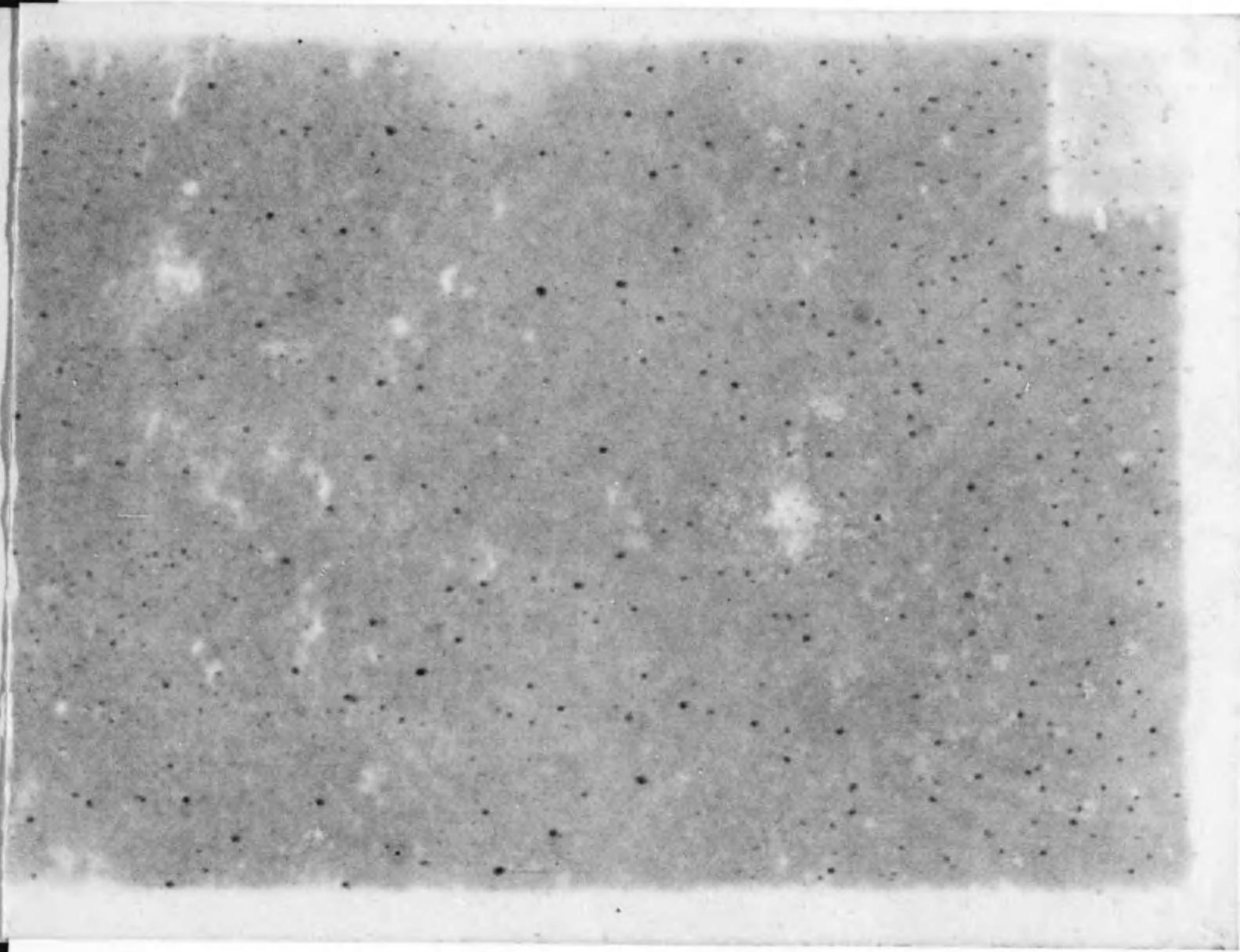
(定價各一圓廿錢)  
(送料各十錢)

どんな田舎へ行つても、小さな絲屋の店頭に、マクラメ絲の二三種は見ないところのないほど、マクラメは流行してまゐりました。本書はこのマクラメの作方を、どんな初心の方にも解るやうに、平明に傳へたものであります。手藝にお志しの方の御一讀を、是非お勧めいたします。

發行所 (東京神田區河原町一丁目一八〇番電話東京一八〇) 主婦之友社



319  
355



終

